


株式会社 KIT

 **RADEN を使おう！**
実践編 Part1

はじめに

この度は弊社ソフトウェア『RADEN』をご使用いただき、誠にありがとうございます。

本書は、RADENを使用する方々を対象にした入門書です。RADENに慣れて使い方のコツを習得できるように、図を多く用いて具体的な操作手順を本書に示しました。

本書使用にあたり、『RADENを使おう！ 入門編』を学習していることを前提としています。

著作権および商標について

RADENは、(株)KITの登録商標です。

MicrosoftおよびWindowsは、米国マイクロソフト社の米国、およびその他の国における登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は各社の商標、または登録商標です。

本書の一部または全部を許可なく複製、複写、転載することを禁止します。

Copyright (c) 2026 KIT Co.,Ltd. All Rights Reserved.

目次

第1章	アプリケーションの開発	1
1	メインメニュー画面の作成	1
1.1	画面のレイアウト	1
2	終了動作の設定	2
3	動作の確認	3
第2章	データの設計	4
1	データの洗い出し	4
2	マスタデータとトランザクションデータ	5
3	キー項目の設定	5
4	データ型の設定	6
5	テーブルの作成	7
5.1	フィールドの設定	7
5.2	テーブルの追加	8
5.3	デフォルトデータの登録	8
第3章	データの選択と検索クエリ	9
1	登録ダイアログの作成	10
1.1	ダイアログのレイアウト	11
2	ラジオボタンの選択肢	12
3	コンボボックスの選択肢	13
3.1	検索クエリの作成	13
3.2	データリンクの設定	15
3.3	動作の設定	17
4	チェックボックスの設定	17
5	登録データリンクの設定	17
6	動作の確認	19
7	一覧画面の作成	21
7.1	画面のレイアウト	21
8	検索クエリの作成	22
8.1	リレーションシップの設定	22
8.2	検索条件の設定	24
9	表示データリンクの設定	28
9.1	検索条件のリンク設定	28
9.2	データ取得のリンク設定（社員一覧）	29
9.3	データ取得のリンク設定（部署一覧）	30
10	表示動作の設定	31
11	選択クリア動作の設定	32
12	動作の確認	33
第4章	データの編集と削除	36
1	画面のレイアウト	37
2	データの編集	38
2.1	リストの選択データ取得動作の設定	38

2.2	検索クエリの設定	40
2.3	データリンクの設定	41
2.4	表示動作の設定	42
2.5	表示クリア動作の設定	43
2.6	動作の確認	45
3	データの削除	48
3.1	削除クエリの設定	48
3.2	データの一時保持	50
3.3	削除動作の設定	50
3.4	データリンクの設定	53
3.5	動作の確認	54
第5章	帳票の印刷	56
1	帳票の作成	57
1.1	オブジェクトの配置	57
1.2	セクションの分割	58
1.3	タイトルのセクション	60
1.4	項目名のセクション	61
1.5	データのセクション	62
1.6	ページのセクション	63
2	一覧画面と帳票を繋ぐ	64
2.1	データリンク設定	64
3	出力先の設定	65
4	画面のレイアウト	65
5	動作の設定	66
6	動作の確認	68
第6章	Excel ファイルの書き込み	70
1	Excel ファイルの設定	71
1.1	オブジェクトの配置	71
1.2	ファイル出力の設定	72
1.3	セルの設定	72
2	一覧画面と Excel ファイルを繋ぐ	74
2.1	データリンク設定	74
3	画面レイアウト	75
3.1	ファイル選択の設定	75
4	動作の設定	76
5	動作確認	78
第7章	ドキュメントの作成	81
1	ドキュメント内容設定	82
2	ドキュメント出力	83

第1章 アプリケーションの開発

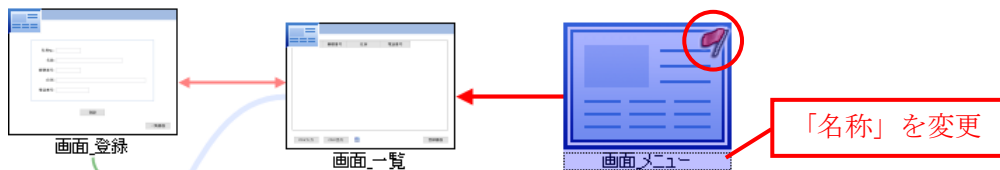
入門編ではRADENの基礎についてふれ、RADENの使い方を学んで頂けたと思います。

この実践編では、入門編で作成した「社員情報管理システム」を元に、データの編集、削除、検索などの機能を追加して、より実用的なアプリケーションにしていきます。さらに、データについての考え方やテーブル設計など、一步踏み込んだ内容についても学んでいきましょう。

1 メインメニュー画面の作成

まずは入門編で紹介した機能を振り返りながら、アプリケーションの起点となる「メニュー」画面を作成し、各画面を行き来できるようにします。

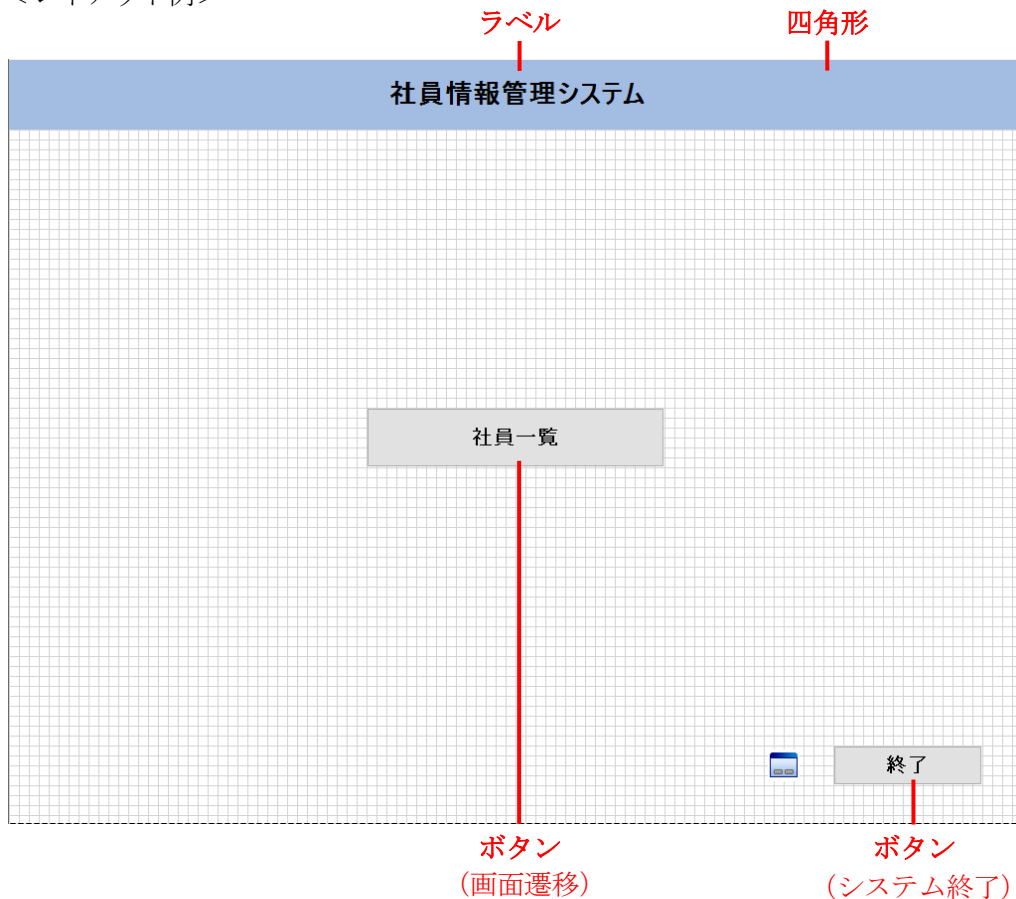
オブジェクト関連図に「画面」オブジェクトを配置し、「初期画面」に設定します。



1.1 画面のレイアウト

一覧画面への遷移と、アプリケーションを終了する「ボタン」部品をそれぞれ配置します。

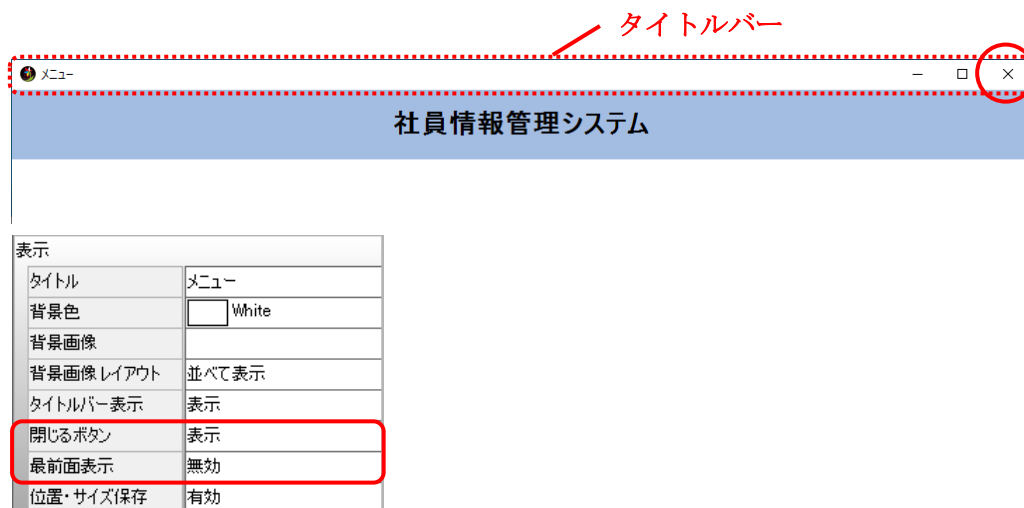
<レイアウト例>



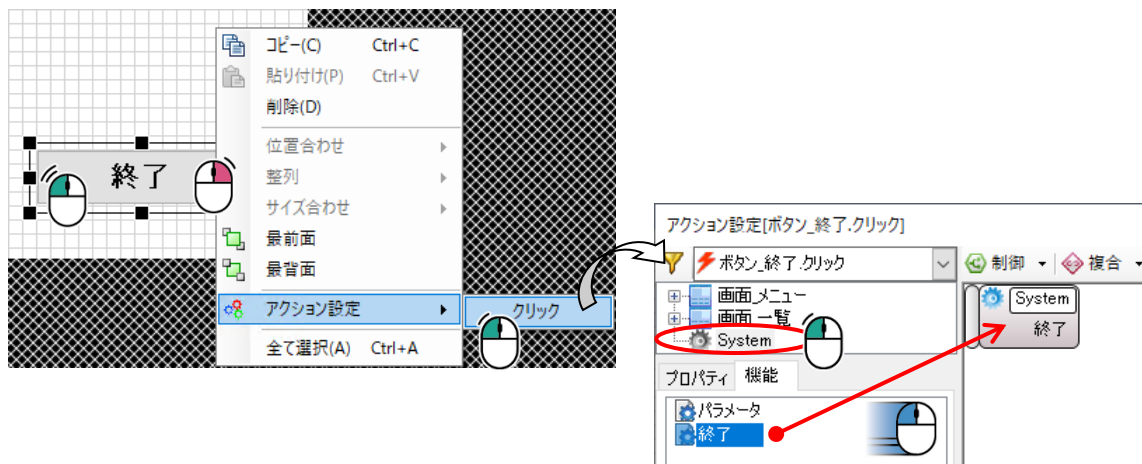
2 終了動作の設定

起動したアプリケーションを終了させるには、タイトルバーの右上にある「×」ボタンをクリックする方法と、画面に終了動作を設定したボタン部品を配置する方法の2通りあります。

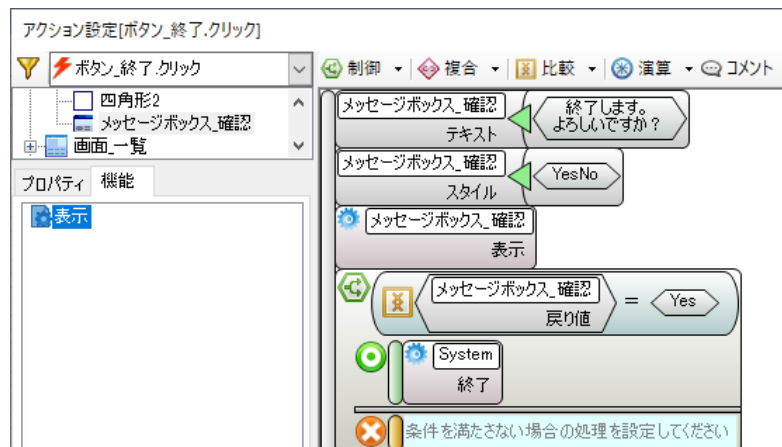
「×」ボタンで終了する場合は、画面オブジェクトの「タイトルバー表示」「閉じるボタン」プロパティを「表示」に設定します。



画面に配置した「ボタン」部品から終了する場合は、アクション設定で「System」の機能から「終了」を設定します。



終了前に確認を行う場合は、画面に「メッセージボックス」部品を配置し、終了を確認するメッセージを画面に表示するアクション設定を作成しましょう。



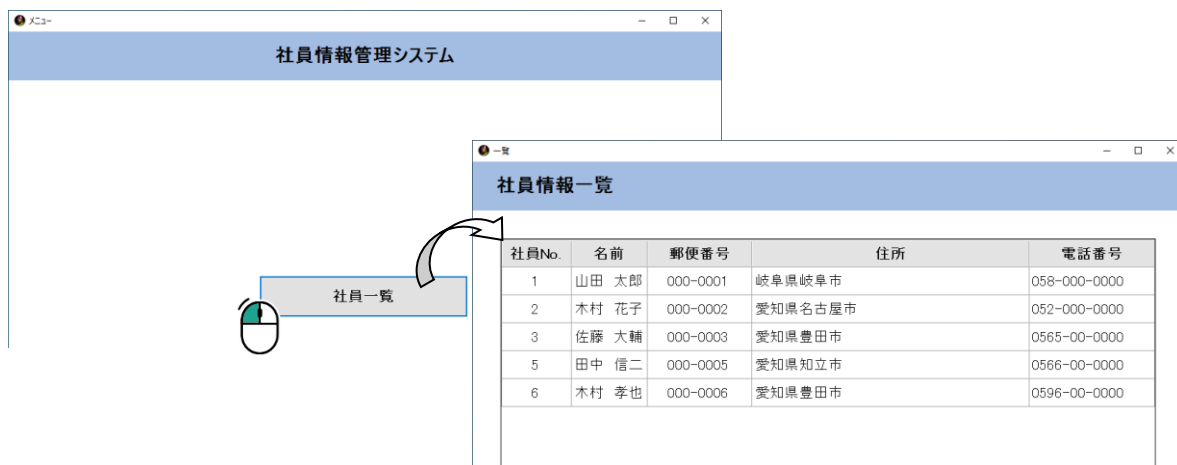
3 動作の確認

動作確認を行きましょう。

プレビューを実行すると、「メニュー画面」が表示されます。

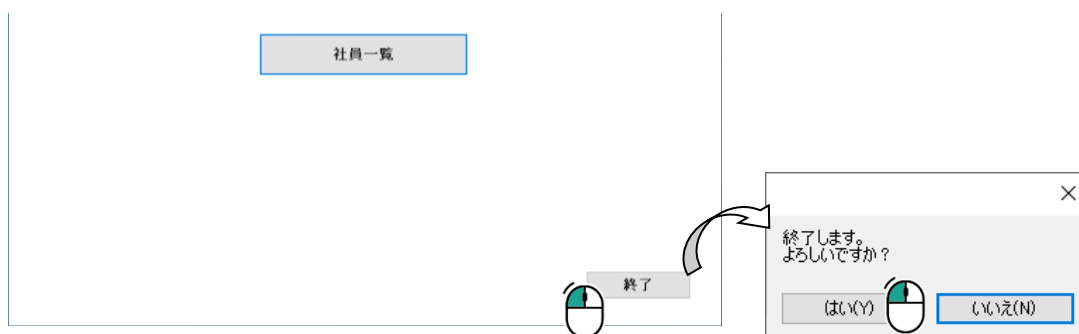


「一覧画面」ボタンをクリックすると「一覧画面」に遷移します。



「終了」をクリックするとアプリケーションが終了します。

メッセージボックスを表示した場合は、[はい(Y)]のクリックで終了します。



第2章 データの設計

入門編ではシンプルな形のテーブルでデータの登録について説明しましたが、実践編では複数のテーブルを使用して実践に近いデータ構成で説明していくため、まずはデータについての基礎を学んでいきます。

1 データの洗い出し

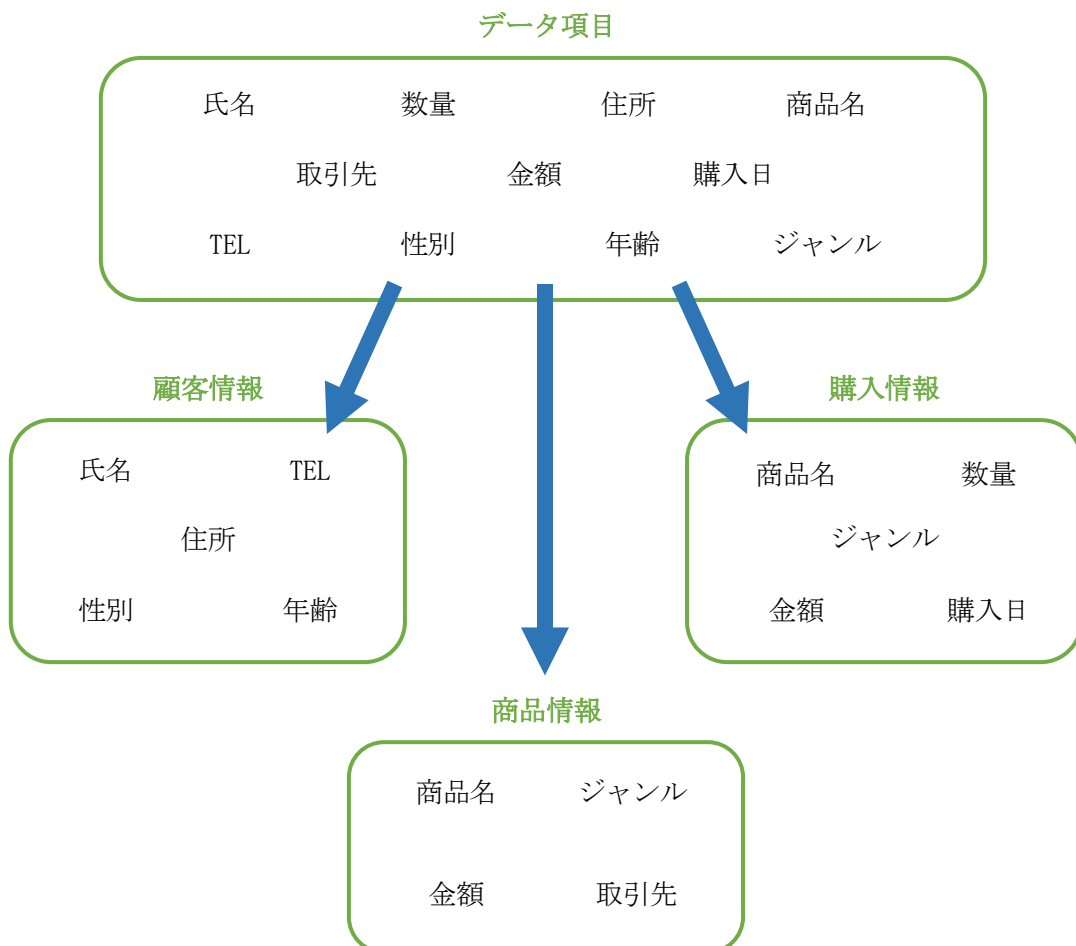
アプリケーションを作成するためには事前の計画が大切です。特にデータは、後からの変更が難しい場合もあるため、永続的に使用できるデータ設計を心がけましょう。

そのためにまず行うのが、データ項目の洗い出しです。

作成するアプリケーションにどんなデータが必要になるのか書き出し、関連する項目ごとにグループ分けします。

洗い出しをすることで、必要な項目を明白にし、項目の重複を防ぐことに繋がります。

また、ここで作成したグループと項目が RADEN 開発時のテーブルとフィールドになるため、項目に漏れがないようにしましょう。



2 マスタデータとトランザクションデータ

テーブルは「マスタデータ」と「トランザクションデータ」の2種類に分けられます。

システム内での更新頻度が低く固定的なデータのことを「マスタデータ」と呼び、データを登録する時の選択肢や、一覧表示で参照する時に使用します。

対して、更新頻度が高く流動的なデータのことを「トランザクションデータ」と呼び、業務や取引の記録などシステムを動かした時に蓄積されていくデータです。

社員情報を例にデータ項目の洗い出しとグループ分けを行い、テーブルを設計しましょう。

社員情報テーブル

- ・社員 No.
- ・名前
- ・性別
- ・生年月日
- ・郵便番号
- ・住所
- ・電話番号
- ・部署
- ・工数単価
- ・退職フラグ

データの中で固定的な項目を洗い出し「マスタデータ」を決めます。
社員情報の中では「性別」「部署」が該当します。

性別情報テーブル

- ・性別

部署情報テーブル

- ・部署

3 キー項目の設定

データ項目が決まったら、キー項目の検討をします。

「キー」とはデータを識別する項目のことを指し、一意になるデータ（重複のないデータ）かつ変更のないデータでなければなりません。

例えば、社員情報でキー項目として適しているのはどのデータでしょうか？

名前や生年月日、住所では重複の可能性があります、電話番号では変更される可能性があるため適しません。しかし、社員 No. は社員を識別するためにつけられた番号であるため、重複も変更されることもなくキーに適しています。

このように、既に識別子として使われているデータがある場合はそのデータをキー項目とするのが一番確実な方法です。適したデータがない場合は、番号やコードなどのデータを追加してキー項目としましょう。

社員情報テーブル

- ・ **社員 No. →キー**
- ・名前
- ・性別
- ・生年月日
- ・郵便番号
- ・住所
- ・電話番号
- ・部署
- ・工数単価
- ・退職フラグ

性別情報テーブル

- ・ **性別コード→キー**
- ・性別

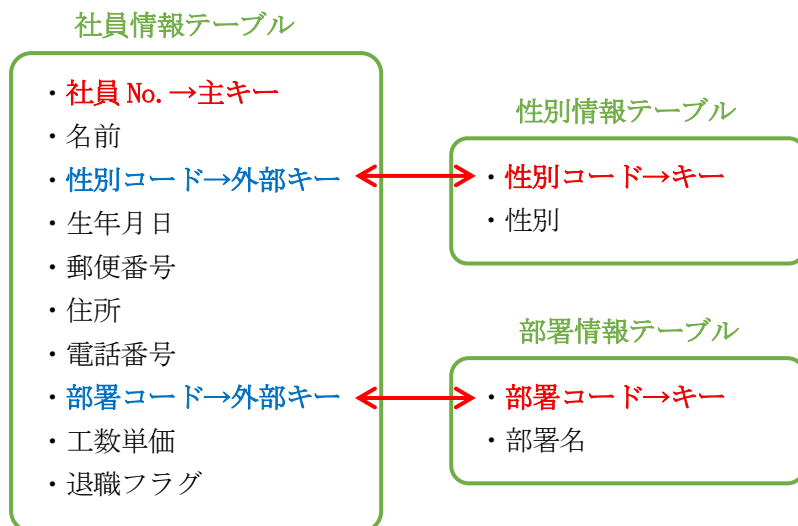
部署情報テーブル

- ・ **部署コード→キー**
- ・部署名

社員情報には「性別情報」「部署情報」から選択したデータを保持するようにします。

このように別のテーブルのデータを保持する場合、各テーブルの「キー」データを保持することでテーブル同士を紐づけることができます。紐づけたテーブルからはデータを参照することができるため、データに変更があった場合にも対応できます。

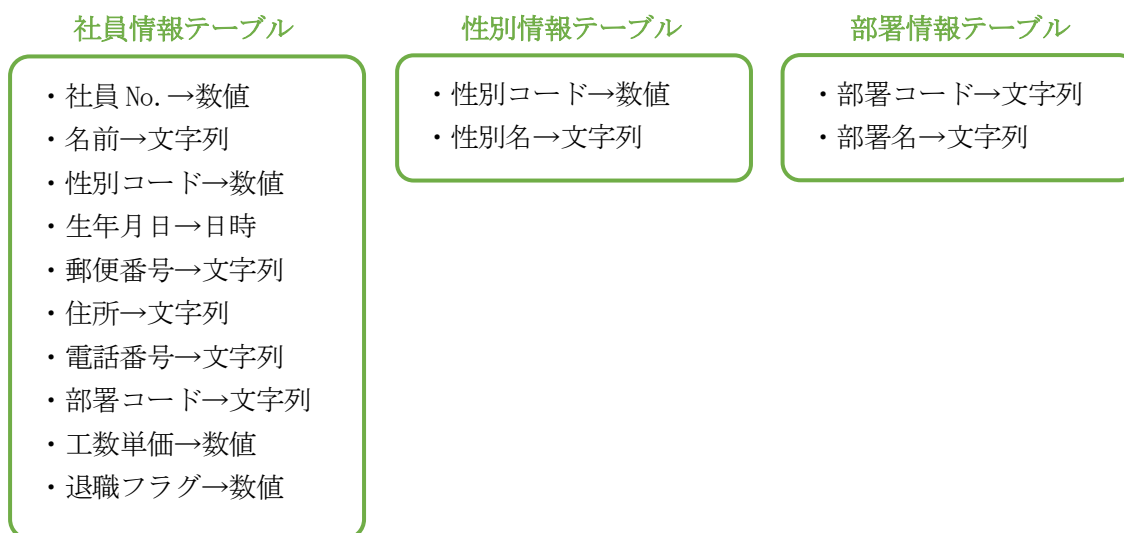
テーブル内のデータを識別するキーのことを「主キー」と呼び、外部のデータを参照するためのキーを「外部キー」と呼びます。



4 データ型の設定

データ項目とキー項目が決定した後、各データ項目に保存する内容からデータ型を決めます。RADEN で使用できるデータ型は「文字列」「数値」「日時」の3種類です。

データ型を設定することは、プロジェクト実行時のパフォーマンスの維持とエラーを防ぐことに繋がります。必ずデータに合ったデータ型を指定しましょう。



これでデータの設計が完了しました。

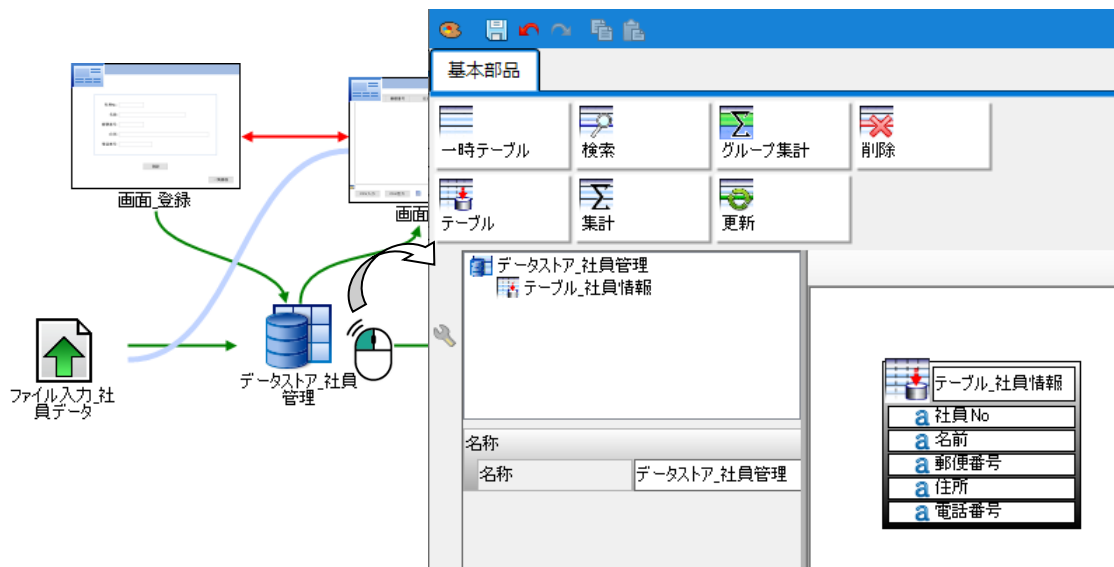
開発途中にデータ項目に変更や追加がある場合も、同じようにデータ項目の検討をして RADEN 側の変更を行うようにしましょう。

テーブルやフィールドの設定を後から変更する際は特に注意が必要です。間違った変更をしてしまうと登録されているデータにも影響するため、慎重にデータ設計を行いましょう。

5 テーブルの作成

データ設計を基に、RADNE でテーブルの作成を行います。

オブジェクト関連図に配置されている【データストア_社員管理】のオブジェクト編集画面を開き、入門編で作成した【テーブル_社員情報】の変更と、テーブルの追加を行います。



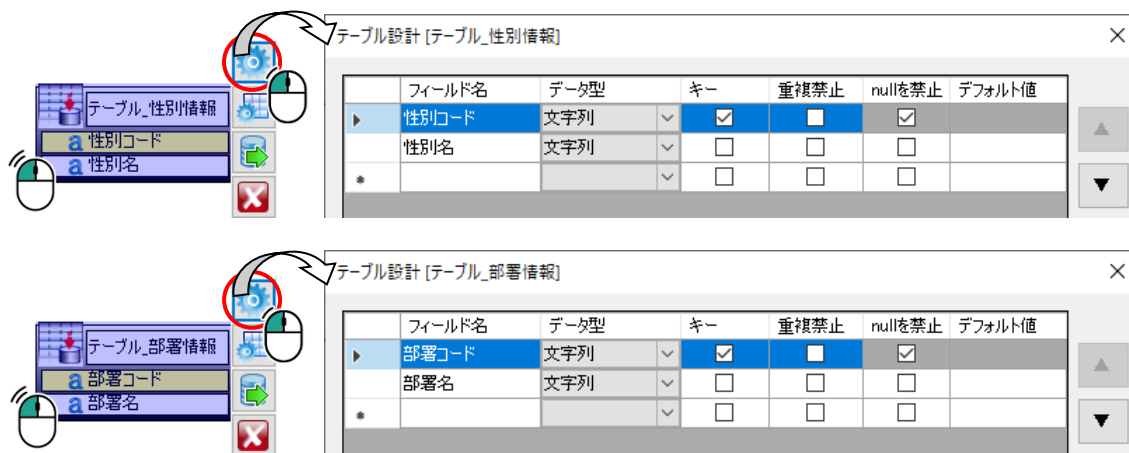
5.1 フィールドの設定

【テーブル_社員情報】に、「性別 ID」「生年月日」「部署コード」「時間単価」のフィールドを追加し、各フィールドの「データ型」と「キー」列を設定します。

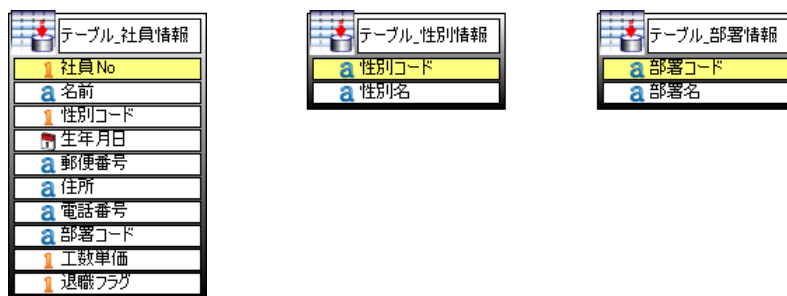
フィールド名	データ型	キー	重複禁止	nullを禁止	デフォルト値
社員No	数値	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	
名前	文字列	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
性別コード	数値	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
生年月日	日時	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
郵便番号	文字列	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
住所	文字列	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
電話番号	文字列	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
部署コード	文字列	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
工数単価	数値	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
退職フラグ	数値	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

5.2 テーブルの追加

同じデータストア内にテーブル部品を2つ配置し、「性別情報」「部署情報」のテーブル設定を行います。




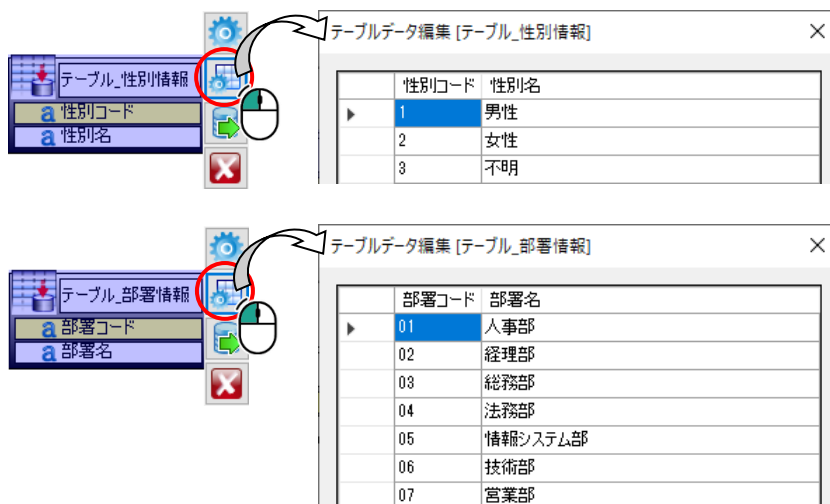
全てのテーブル設定が完了すると、3つのテーブルが作成された状態になります。



5.3 デフォルトデータの登録

テーブル部品には、あらかじめデータを登録しておくことができます。

【テーブル_性別情報】または【テーブル_部署情報】を選択し、部品オブジェクトメニューの  ボタンをクリックすると「テーブルデータ編集」画面が表示されます。フィールドごとに列が表示され、データはセルに直接テキスト入力します。

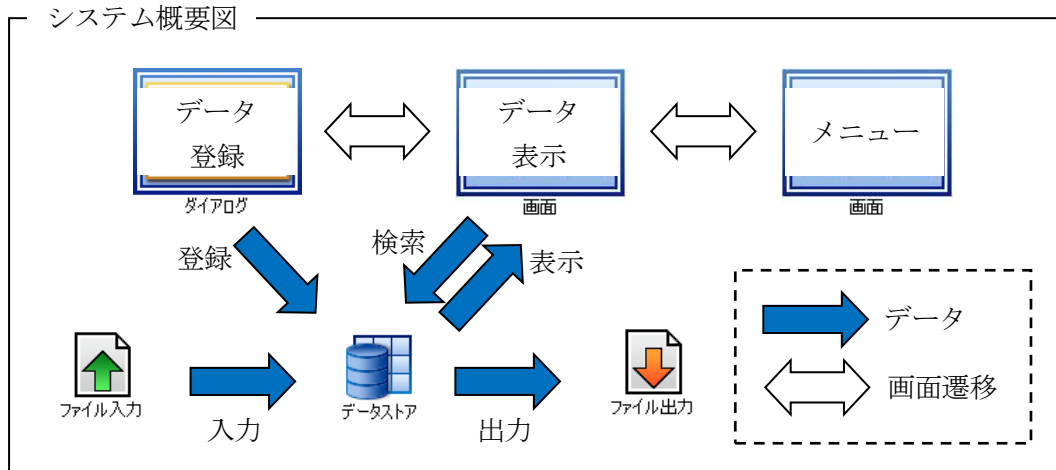


※テーブルデータ編集画面でデータの変更を行った場合は、『入門編 第5章 ファイルの書き込みと読み込み 9 動作確認』を参照して、プレビューデータの削除を行ってください。

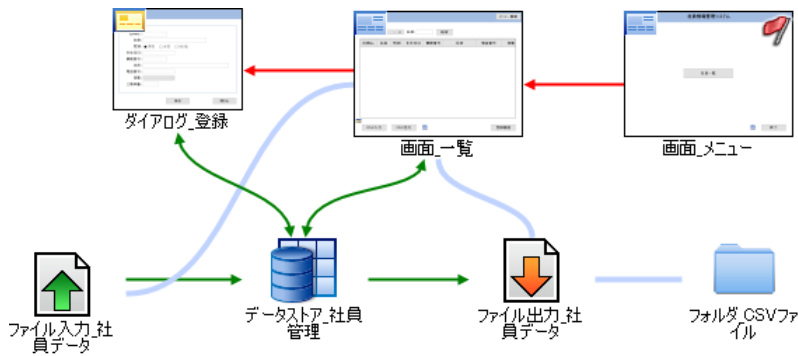
第3章 データの選択と検索クエリ

第2章で作成したテーブルに合わせて、登録画面と一覧画面の変更を行います。

登録画面には選択肢の中からユーザーが選択を行う機能を追加し、一覧画面には検索機能を追加します。



<オブジェクト関連図>



<アプリケーション起動時>

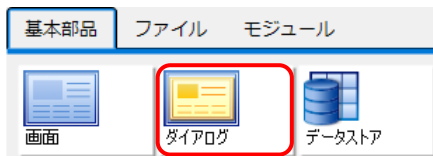


1 登録ダイアログの作成

ダイアログオブジェクトは、画面オブジェクトと同じ表示用のオブジェクトです。

画面オブジェクトは画面の切り替えを行うため、常に1つの画面が表示されますが、ダイアログオブジェクトは呼び出した画面の上（最前面）に表示されます。画面と画が重なった状態で表示されるため、入力画面やメッセージ表示画面としてポップアップ表示したい場合に使用します。

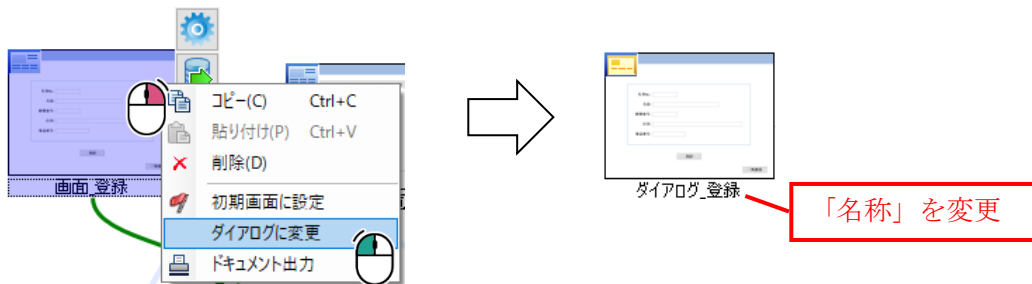
例えば、データ一覧は「画面」、データ登録や編集は「ダイアログ」とオブジェクトを分けることで、入力を促す効果や、一覧画面とデータ登録画面のデータの繋がりを意識させる効果があります。



新規で作成する場合は、オブジェクト関連図に「ダイアログ」オブジェクトを配置しますが、既に配置されている画面オブジェクトをダイアログに変更することもできます。

入門編で作成した【画面_登録】をダイアログに変更します。

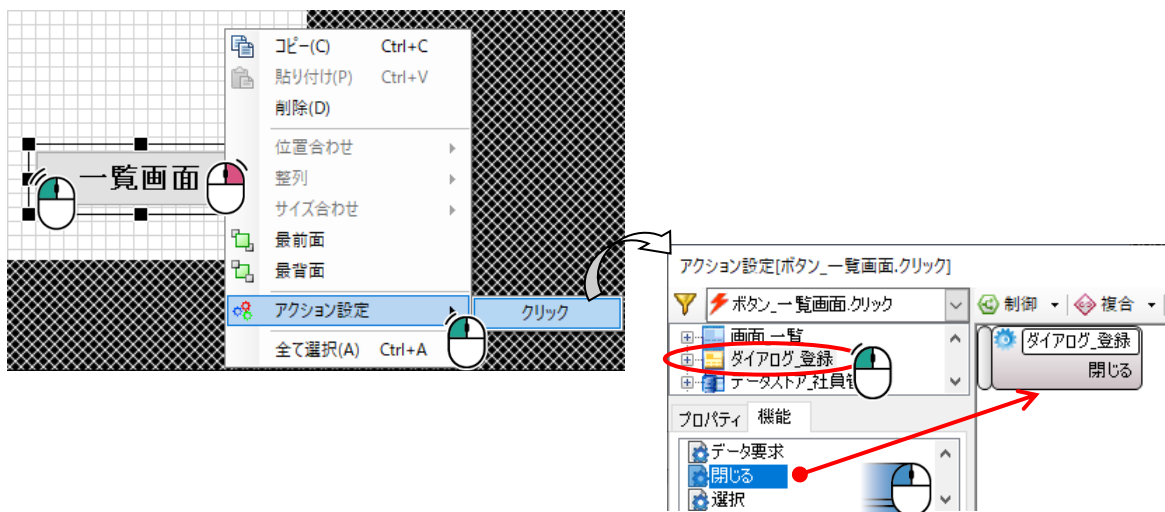
設定する画面オブジェクトの右クリックから[ダイアログに変更]で変更できます。



ダイアログオブジェクト表示中は、呼び出した画面が非活性状態になり、操作することはできません。

また、呼び出した画面の上に表示されるという性質上、元の画面に戻る際は「画面遷移」ではなく、ダイアログオブジェクトを閉じることとなります。これは、ダイアログオブジェクトから呼び出した場合でも同じです。

入力画面に配置してある、「一覧画面」ボタンのクリックイベントのアクション設定を「画面遷移」から「閉じる」へ変更しましょう。



※タイトルバーの「×」ボタンからもダイアログを閉じられます。

1.1 ダイアログのレイアウト

画面オブジェクトを使う際は、どの画面も同じサイズで作ることが基本ですが、ダイアログオブジェクトは下の画面が完全に隠れていると、ポップアップ画面だとユーザーに気づかれにくいため、画面サイズを呼び出した画面より少し小さくすると見た目のバランスも良くなります。

位置・サイズ	
位置	0, 0
X	0
Y	0
サイズ	820, 650
Width	820
Height	650
表示基準位置	画面
アライメント	中央

<手順>

- ① 「性別」はラジオボタン部品、「部署」はコンボボックス部品、「生年月日」は日時部品、「時間単価」はテキストボックス部品、「退職」はチェックボックス部品、項目名はラベル部品を配置します。
- ② 部品の「名称」プロパティに分かりやすい名称を設定します。
- ③ ラジオボタン部品のプロパティは「配置モード」を【横方向優先】、「行（列）数」を【3】に設定して、「選択リスト設定」に選択項目を入力します。
※ラジオボタンについては『第3章2 ラジオボタンの選択肢』で説明します。
- ④ チェックボックスの「テキスト」プロパティに【退職】と入力します。
- ⑤ 入力部品の「書式」「テキスト配置」「日本語入力モード」などのプロパティを適した設定に変更します。
- ⑥ 入門編で作成した「一覧画面」ボタンのテキストを「閉じる」に変更します。
- ⑦ タブオーダーを設定します。

<レイアウト例>

社員情報登録

社員No.: 退職

名前:

性別: 男性 女性 その他

生年月日:

郵便番号:

住所:

電話番号:

部署:

工数単価:

登録 閉じる

追加

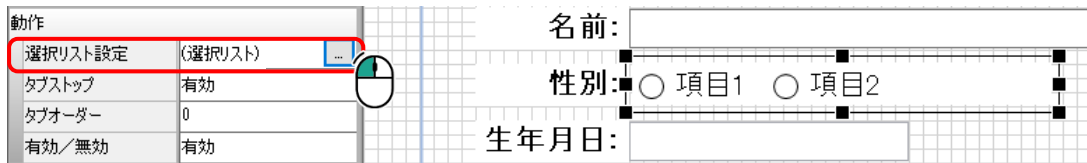
追加

変更
(「一覧画面」ボタンを変更)

2 ラジオボタンの選択肢

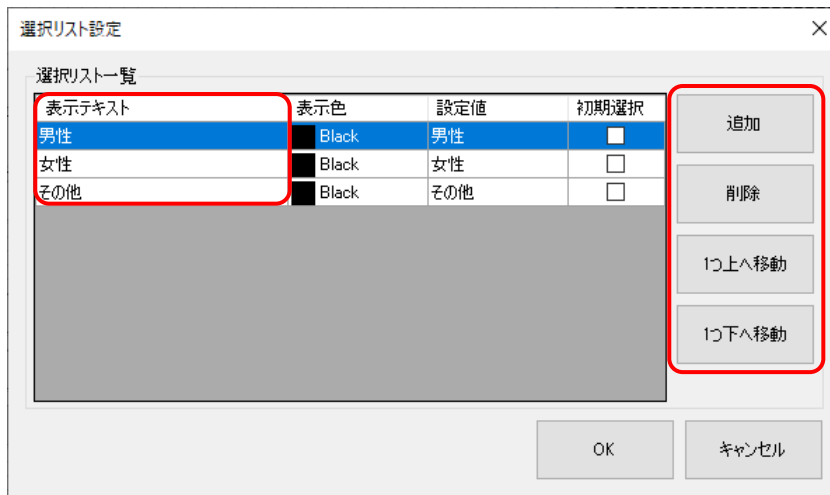
ラジオボタンの選択肢は部品の「選択リスト設定」プロパティで設定します。

設定するラジオボタン部品を選択して、「選択リスト設定」プロパティの [...] をクリックします。



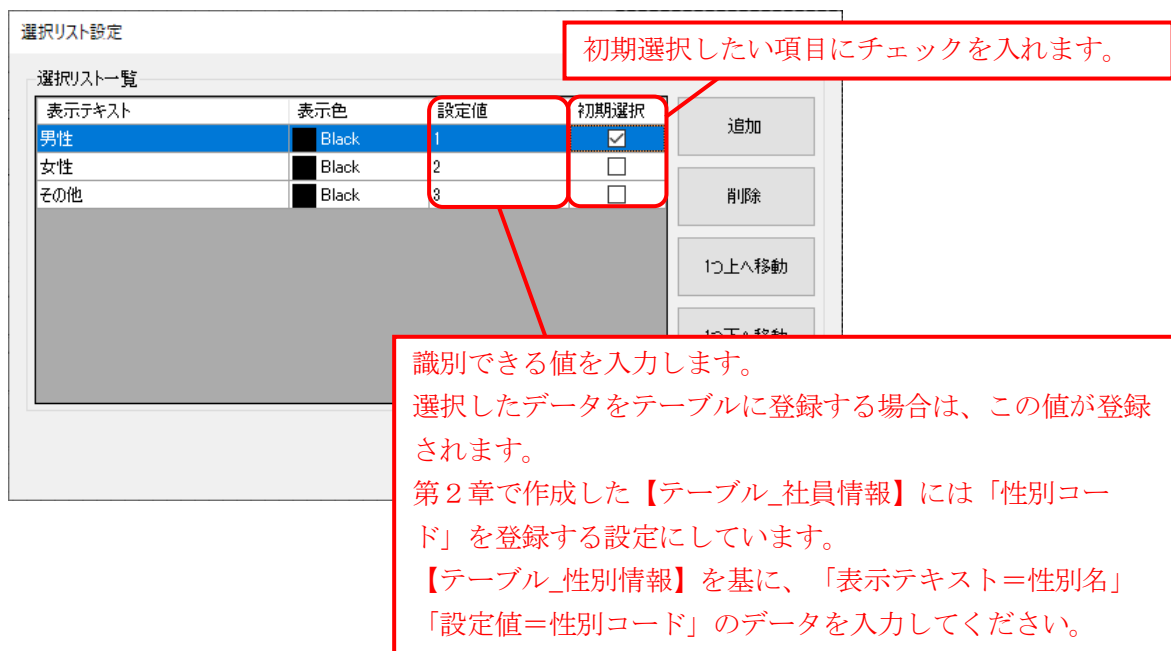
表示された「選択リスト設定」画面に選択肢を入力します。

項目を増やす場合は「追加」ボタンをクリックします。



「表示テキスト」は実行時に画面に表示されるテキストのことで、「設定値」とは内部的に持つデータのことで、「設定値」はアクション設定での使用や、テーブルへ保存するデータとして使用します。

「表示テキスト」を入力すると「設定値」が自動で入力されますが、「設定値」は変更も可能です。



3 コンボボックスの選択肢

コンボボックス部品の選択肢は『RADEN を使おう！ 入門編 Part2 第2章3 コンボボックス』で紹介したプロパティで設定する方法とは別に、テーブルのデータから選択肢を作成する方法があります。この方法では、アプリケーション実行中に選択肢を変更したい場合でもテーブルのデータを更新することで対応できます。

3.1 検索クエリの作成

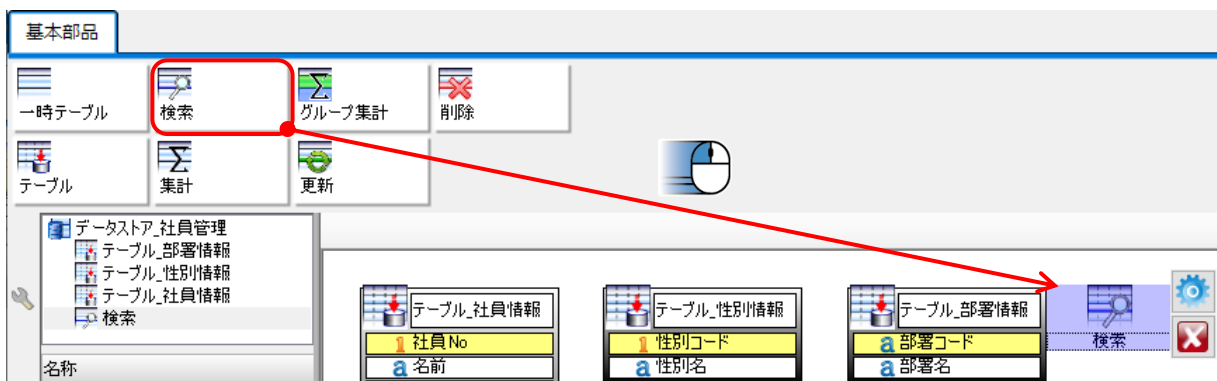
「部署」を登録するコンボボックスの選択肢を、【テーブル_部署情報】のデータから作成する設定を行います。

データの取得には「検索クエリ」部品を使用します。

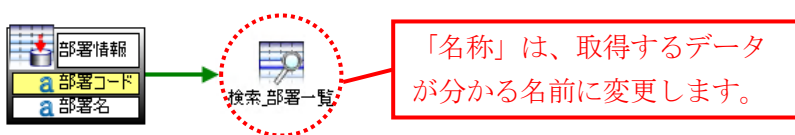
検索クエリとは、検索条件や並び順などを設定してデータを取得する部品です。


入門編で紹介したテーブルからデータを取得する方法は全データの取得しかできないため、実際に関数を実行する際のデータ取得には、検索クエリを使用することをおすすめします。

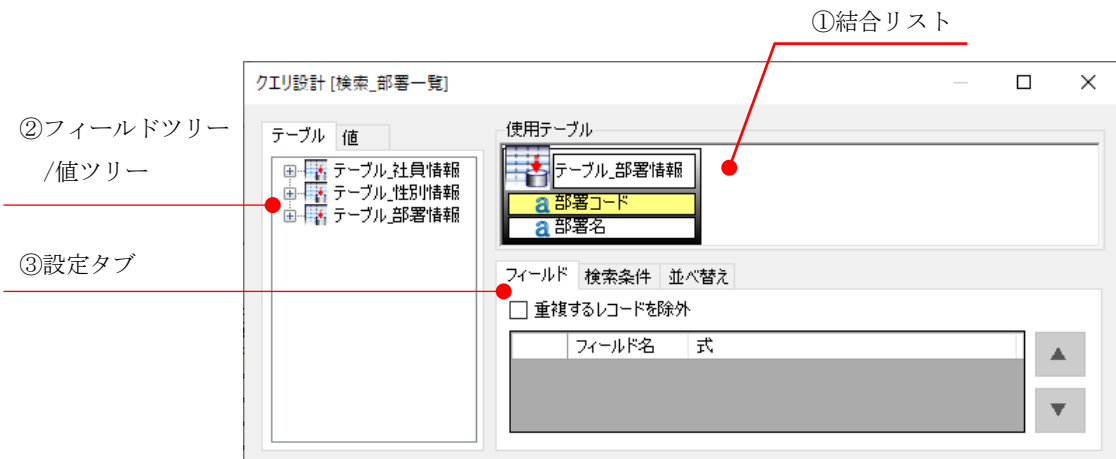
【データストア_社員管理】のオブジェクト編集画面を開き、部品パレットから「検索」部品を配置します。




【テーブル_部署情報】の部品オブジェクトメニューから[データリンクの追加]を選択し、検索クエリ部品とコネクタで接続します。



検索クエリ部品のダブルクリック、または部品オブジェクトメニューの  ボタンをクリックして「クエリ設計」画面を開きます。

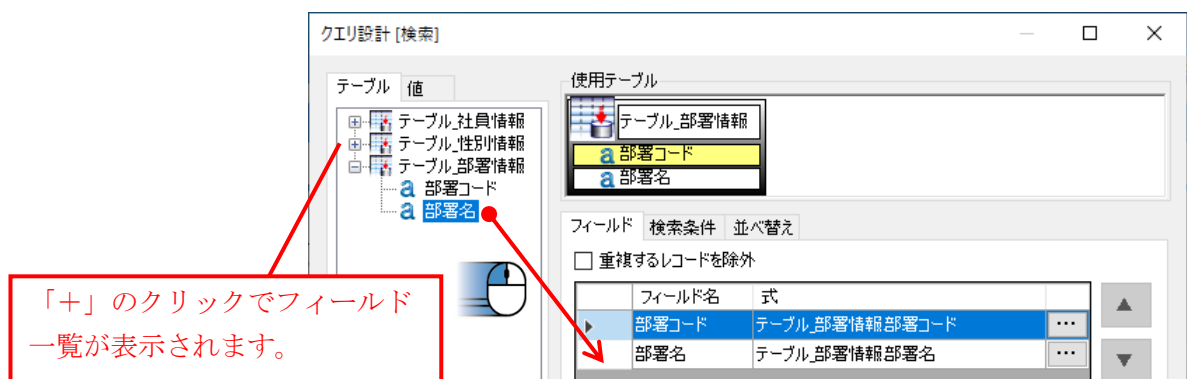
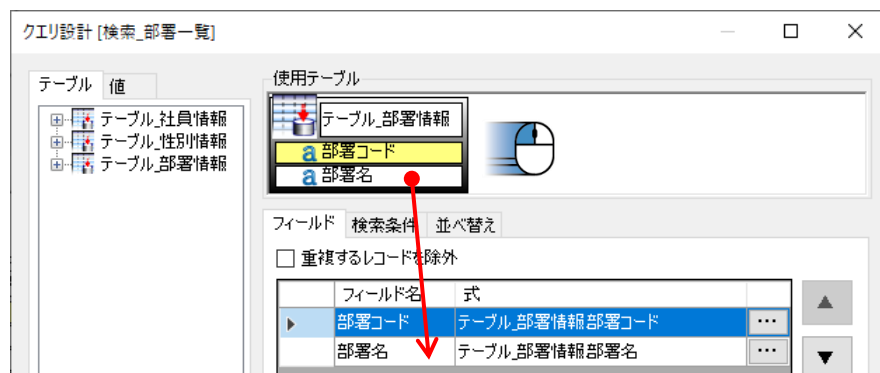


名称	概要
①結合リスト	複数テーブルを結合してデータを取得する場合に、結合条件を設定します。
②フィールドツリー/値ツリー	「テーブル」タブ（フィールドツリー）はデータストア内にあるテーブルと設定されたフィールドを一覧表示し、「値」タブ（値ツリー）は検索条件式に使用する固定値などの値を一覧表示します。
③設定タブ	クエリの内容を設定するタブを表示します。「フィールド」「検索条件」「並べ替え」の3つのタブがあります。 

データを取得するフィールドは「フィールドリスト」に設定します。

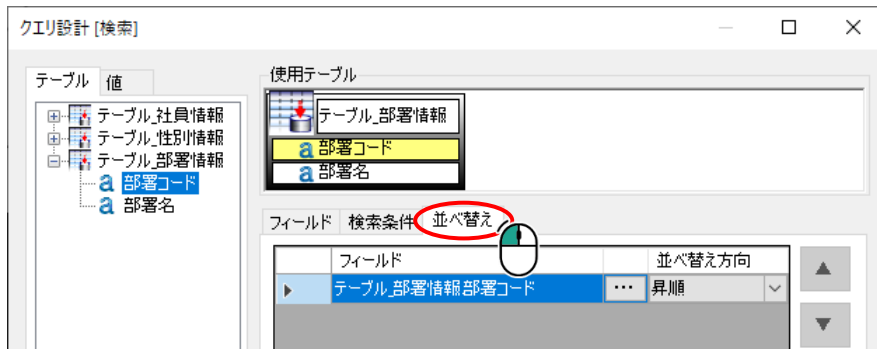
結合リストに表示されているテーブルのフィールド、またはフィールドツリーでフィールドを選択し、ドラッグ&ドロップで「フィールドリスト」に追加します。

※結合リストに表示されているテーブル以外のテーブルからは追加できません。

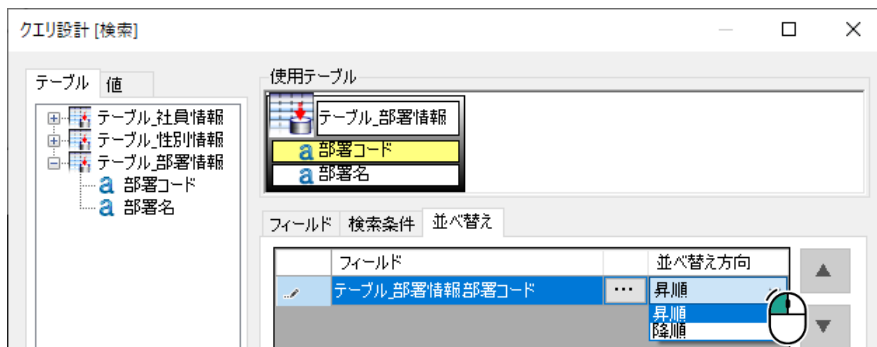


フィールドリストの設定が完了したら、データの並び順の設定を行います。

「並べ替え」タブをクリックし、フィールドリストの設定と同じようにフィールドを「並べ替えリスト」にドラッグ&ドロップで追加します。



「並べ替え方向」から「昇順/降順」を切り替えます。



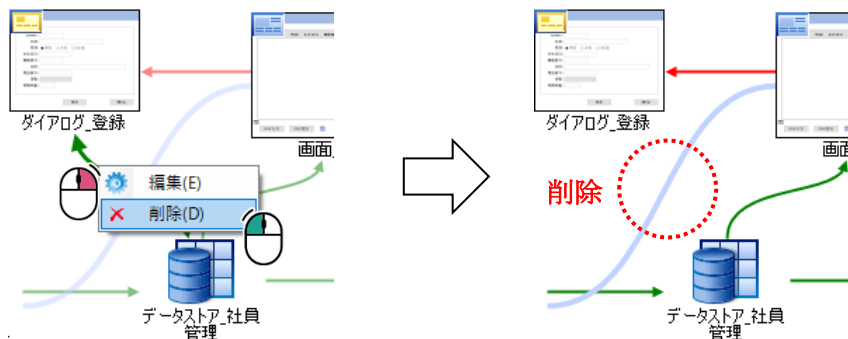
※不要なフィールドを追加した場合は、リストからフィールドを選択して[delete]キーの押下で削除できます。

3.2 データリンクの設定

検索クエリからコンボボックスにデータを渡すためのデータリンクを設定します。

初めに、新しくデータリンクを作成するため、入門編で作成した【データストア_社員管理】と【ダイアログ_登録】のデータリンクを削除して、データリンクを再接続します。

コネクタの削除は、コネクタを選択して右クリックから[削除(D)]を選択、またはコネクタを選択して[delete]キーの押下で削除できます。

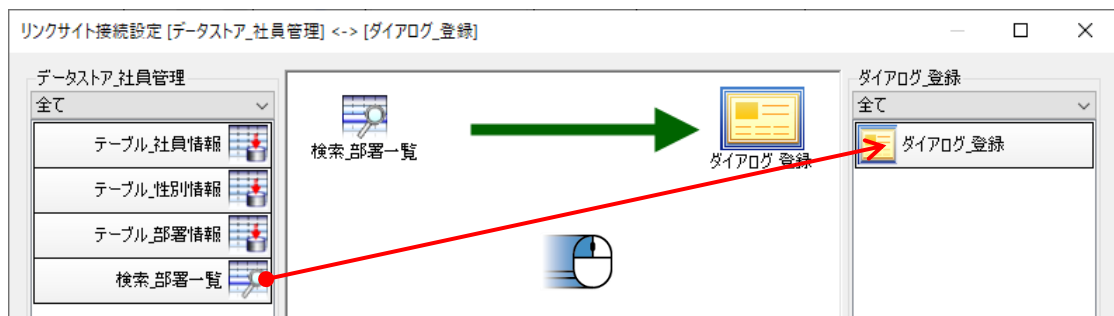


削除後に再度【データストア_社員管理】と【ダイアログ_登録】間のデータリンクを接続します。

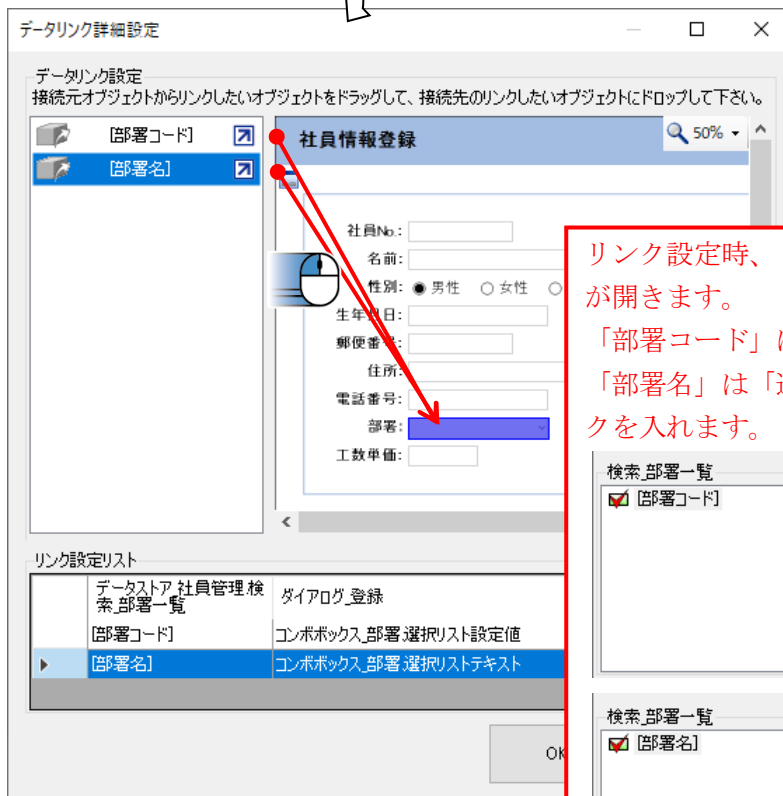
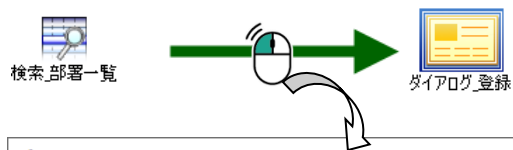
接続したデータリンクからリンクサイト設定画面を開きます。



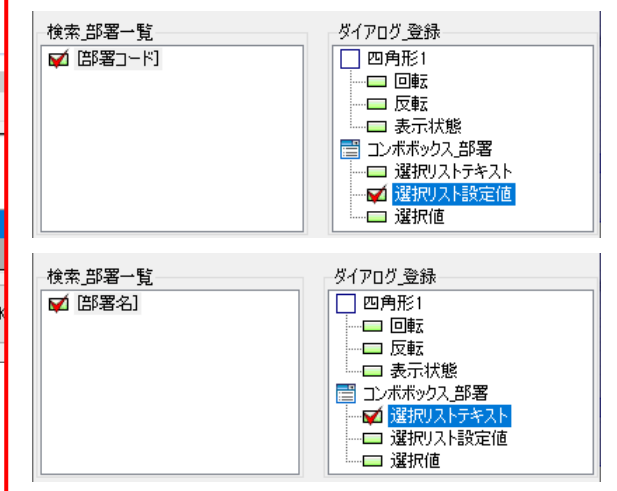
【検索_部署一覧】から【ダイアログ_登録】にコネクタを繋ぎます。



データリンク詳細設定画面を開き、コンボボックス部品へのリンクを設定します。



リンク設定時、「リンクターゲット選択」画面が開きます。
「部署コード」は「選択リスト設定値」に、
「部署名」は「選択リストテキスト」にチェックを入れます。

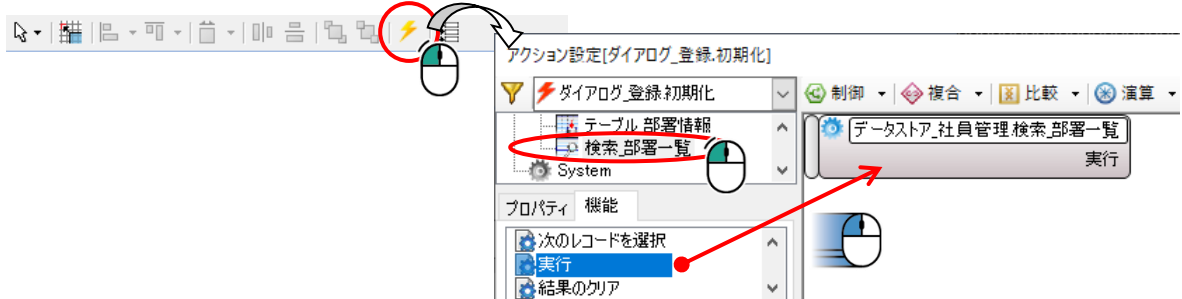


3.3 動作の設定

検索クエリの実行動作を【ダイアログ_登録】の初期化イベントにアクション設定します。

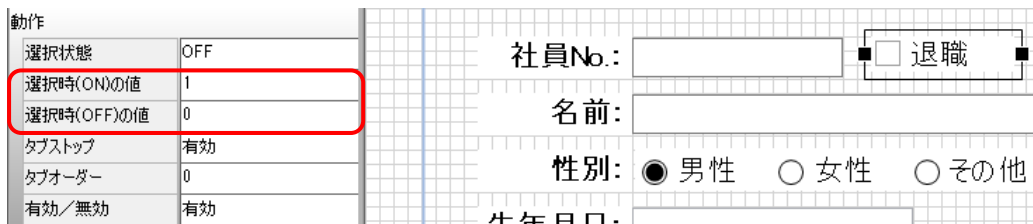
初期化イベントにアクション設定することで、ダイアログを開いた時に検索クエリを実行し、コンボボックスの選択肢を作成できます。

初期化のアクション設定画面を開き、【検索_部署一覧】の機能から「実行」を配置します。



4 チェックボックスの設定

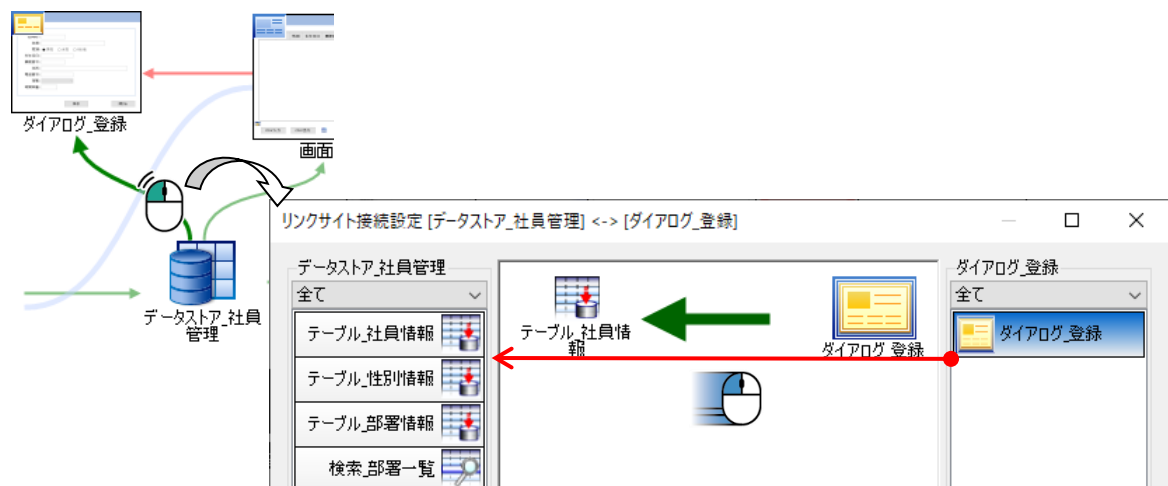
チェックボックス部品は『RADEN を使おう！ 入門編 Part2 第2章4 チェックボックス』で紹介した「選択時(ON)の値」「選択時(OFF)の値」プロパティを設定することで、チェックのON/OFFに対して値を指定できます。指定した値はテーブルへの登録や、登録したデータを表示する時に使用します。



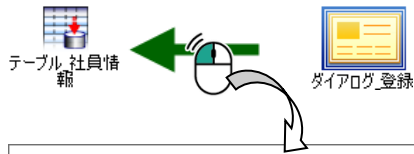
5 登録データリンクの設定

ダイアログからテーブルにデータを保存するためのデータリンクを設定します。

【データストア_社員管理】と【ダイアログ_登録】のデータリンクからリンクサイト接続設定画面を開き、【検索_部署一覧】から【ダイアログ_登録】にコネクタを繋ぎます。



データリンク詳細設定画面を開き、ダイアログの入力部品とテーブルのフィールドをリンク設定します。



データリンク詳細設定

データリンク設定
接続元オブジェクトからリンクしたいオブジェクトをドラッグして、接続先のリンクしたいオブジェクトにドロップして下さい。

検索: 50%

社員No: 退職
 名前:
 性別: 男性 女性 その他
 生年月日:
 郵便番号:
 住所:
 電話番号:
 部署:
 工数単価:

社員No
名前
性別コード
生年月日
郵便番号
住所
電話番号
部署コード
工数単価
退職フラグ

リンク設定リスト

ダイアログ_登録	インデックス	データストア_社員管理テーブル_社員情報
ラジオボタン_性別_選択値	全レコード	性別コード
コンボボックス_部署_選択値	全レコード	部署コード
チェックボックス_退職_選択値	全レコード	退職フラグ
テキストボックス_社員No_テキスト	全レコード	社員No
テキストボックス_名前_テキスト	全レコード	名前
テキストボックス_郵便番号_テキスト	全レコード	郵便番号
テキストボックス_住所_テキスト	全レコード	住所
テキストボックス_電話番号_テキスト	全レコード	電話番号
テキストボックス_工数単価_テキスト	全レコード	工数単価
日時選択_生年月日_テキスト	全レコード	生年月日

ラジオボタン部品、コンボボックス部品へのリンク設定時、「リンクターゲット選択」画面で「選択値」にチェックを入れます。

リンクターゲット選択

データリンクするターゲットを、接続元・接続先それぞれで選択して下さい。

ダイアログ_登録

- 四角形1
- 回転
- 反転
- 表示状態
- ラジオボタン_性別
- 選択値
- テキスト

テーブル_社員情報

- 性別コード

リンクターゲット選択

データリンクするターゲットを、接続元・接続先それぞれで選択して下さい。

ダイアログ_登録

- 四角形1
- 回転
- 反転
- 表示状態
- コンボボックス_部署
- 選択値
- テキスト

テーブル_社員情報

- 部署コード

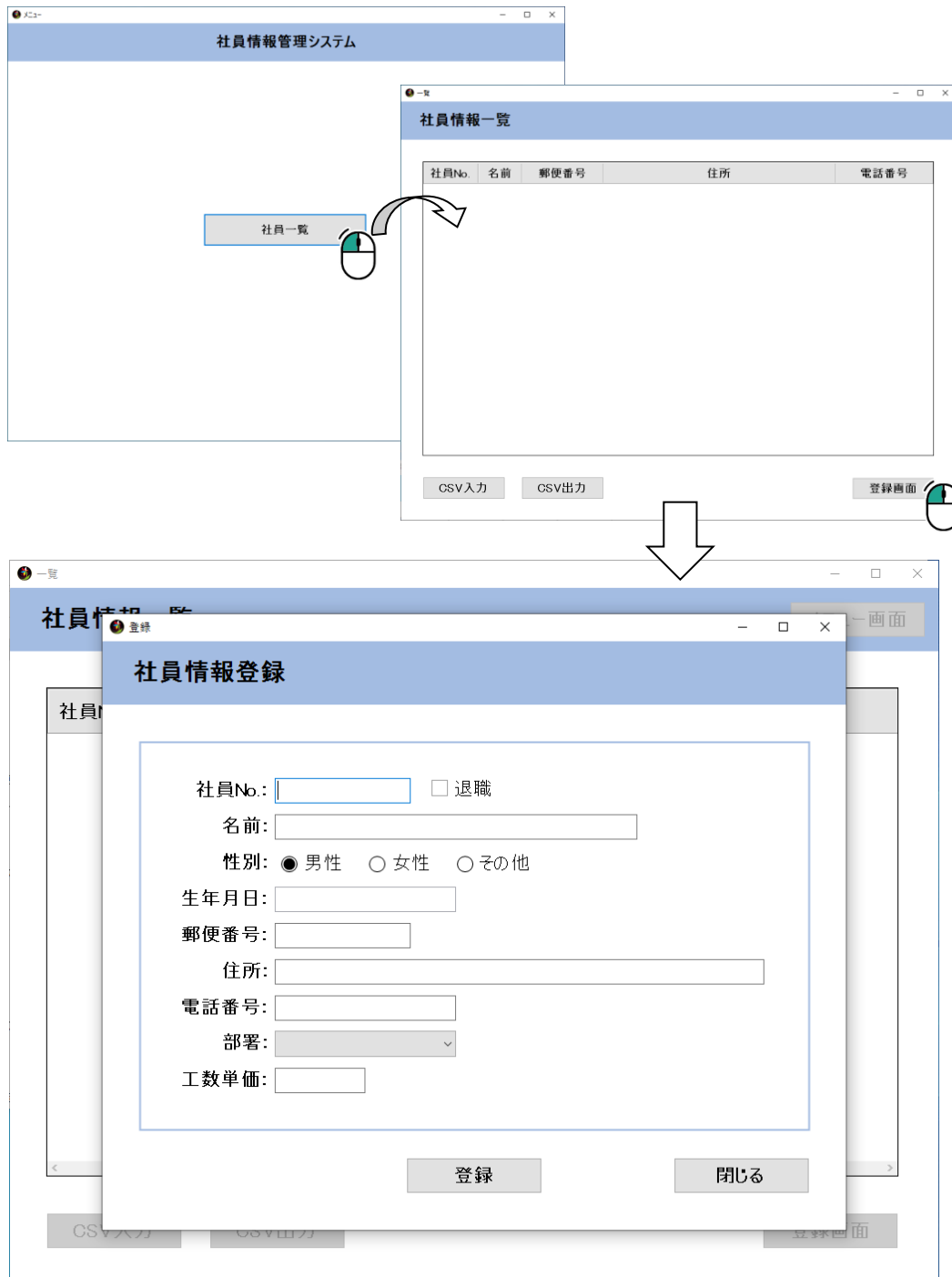
6 動作の確認

ダイアログの動作確認を行きましょう。

初めに、「プレビューデータの削除」から登録されているデータを削除します。

※テーブルの変更、デフォルトデータの追加など行った場合、変更前に登録したデータが正しく表示されない恐れがあります。このような場合は、必ず「プレビューデータの削除」を行いましょ

う。
プレビューを実行した後「メニュー画面」から「一覧画面」を開き、「登録画面」ボタンをクリックすると「一覧画面」の上に「登録ダイアログ」が表示されます。



社員情報を入力しながら、「性別」ラジオボタンと「部署」コンボボックスの動作を確認します。

「部署」のコンボボックスは、デフォルトデータとして登録したデータが「部署コード」の順番でドロップダウンリストが表示されます。

社員情報登録

社員No.: 1 退職

名前: 山田 太郎

性別: 男性 女性 その他

生年月日: 1975年1月1日

郵便番号: 000-0001

住所: 岐阜県岐阜市

電話番号: 058-000-0000

部署:
 人事部
 経理部
 総務部
 法務部
 情報システム部
 技術部
 営業部

工数単価: 4000

登録 閉じる

全ての項目を入力して、「保存」ボタンをクリックします。

プレビューメニューの「データ表示」から、入力したデータが正しいフィールドに登録されていることを確認します。

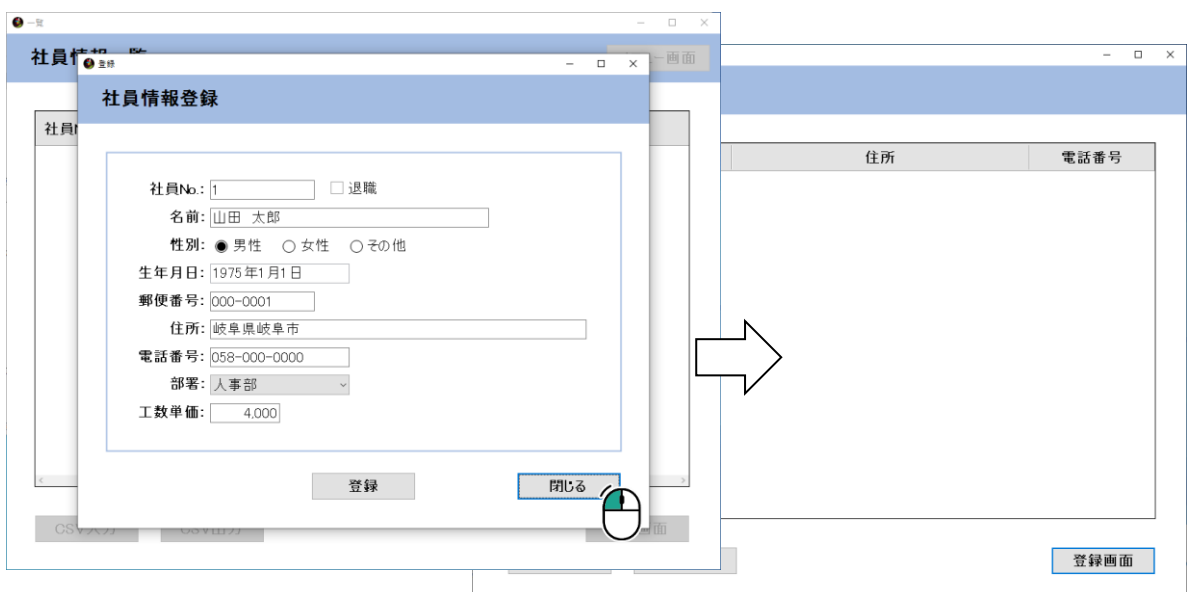
「性別コード」「部署コード」には名称ではなくコードが登録され、「退職フラグ」には「ON/OFF」に設定した値が登録されます。

データビュー

テーブル_社員情報

社員No	名前	性別コード	生年月日	郵便番号	住所	電話番号	部署コード	工数単価	退職フラグ
1	山田 太郎	1	1975/01/01 0:00:00	000-0001	岐阜県岐阜市	058-000-0000	01	4000	0

最後に、「閉じる」ボタンのクリックでダイアログを閉じます。



7 一覧画面の作成

入門編で作成した「一覧画面」のリスト部品に、【テーブル_社員情報】に追加したフィールドと同じ名称の列を追加します。

また、画面から入力/選択した条件でデータを絞り込んで表示させる機能を作成することで、よりユーザーが使いやすい一覧画面にしていきたいと思います。

7.1 画面のレイアウト

<手順>

- ① リスト部品に「性別」「生年月日」「部署」「工数単価」「退職フラグ」列を追加します。
- ② 列の幅やヘッダーなどサイズを調整します。
- ③ 列の「書式」「テキスト配置」などのプロパティを表示データに適した設定にします。
- ④ 検索は「名前」「部署」で行います。「名前」を入力するテキストボックス部品、「部署」を選択するコンボボックス部品、コンボボックスの選択をクリアするボタン部品、「検索」を実行するボタン部品、項目名を表示するラベル部品を配置します。
- ⑤ 部品の「名称」プロパティに分かりやすい名称を設定します。
- ⑥ 「メニュー画面」ボタンを追加します。
- ⑦ タブオーダーを設定します。

<レイアウト例>

社員No.	名前	性別	生年月日	郵便番号	住所	電話番号	部署
-------	----	----	------	------	----	------	----

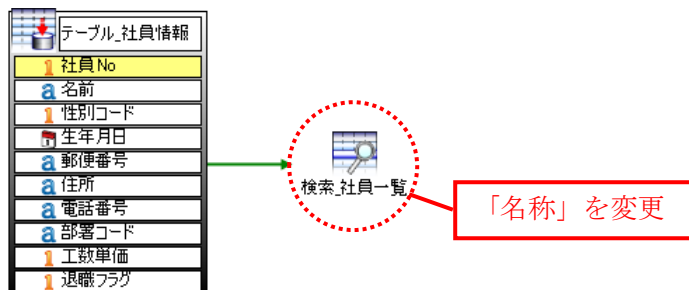
「メニュー画面」ボタンはメニュー画面との画面切り替えに使用します。
ボタン部品のクリックイベントに「画面遷移」アクションを設定しておきましょう。

8 検索クエリの作成

リスト部品に表示するデータを条件で絞り込んで取得する方法を説明します。

データの取得には「検索クエリ」部品を使用します。

『第3章3 コンボボックスの選択肢』で行ったように、【データストア_社員管理】に「検索クエリ」部品を配置し、データを取得する【テーブル_社員情報】と接続します。



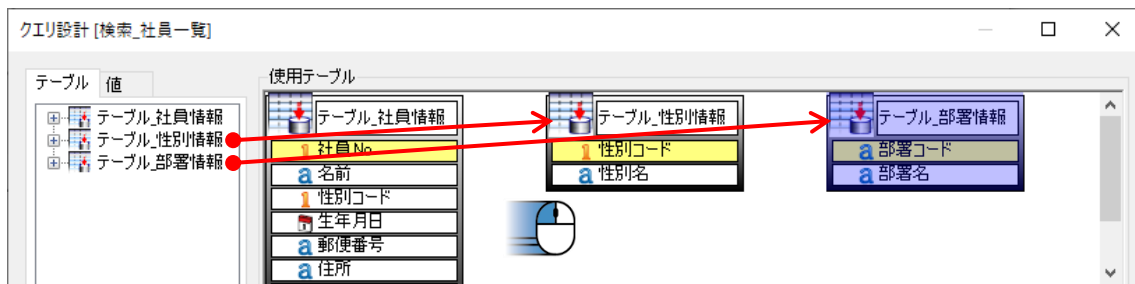
8.1 リレーションシップの設定

配置した検索クエリのクエリ設計画面を開き、『第2章 データの設計』で決定したテーブル構成を確認しながら設定を行います。

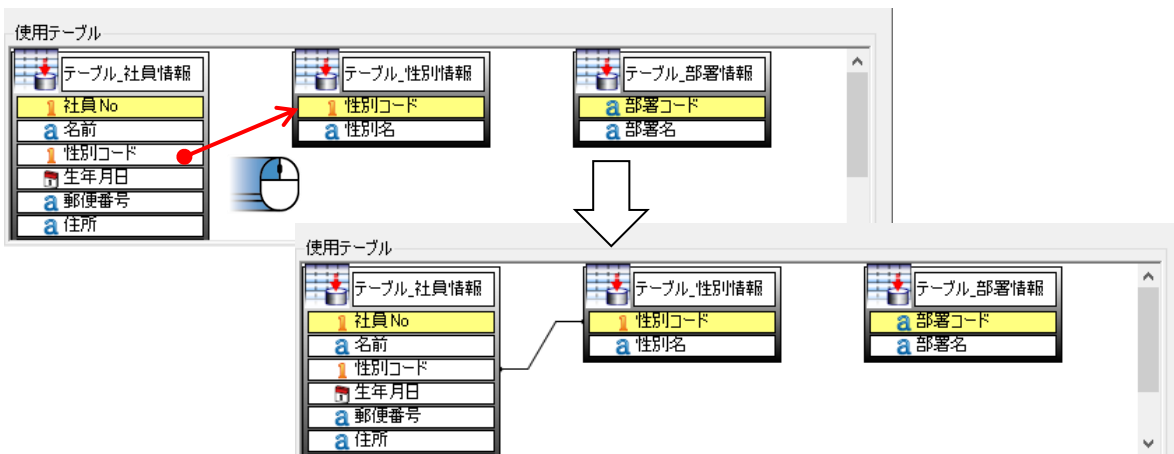
初めに、複数のテーブルからデータを取得する設定を行います。

【テーブル_社員情報】のみでは「性別名」「部署名」のデータが取得できないため、【テーブル_性別情報】【テーブル_社員部署情報】と関連付けを行い、別のテーブルから紐づいたデータを取得します。テーブル同士を関連付けることを「リレーションシップ」と言います。

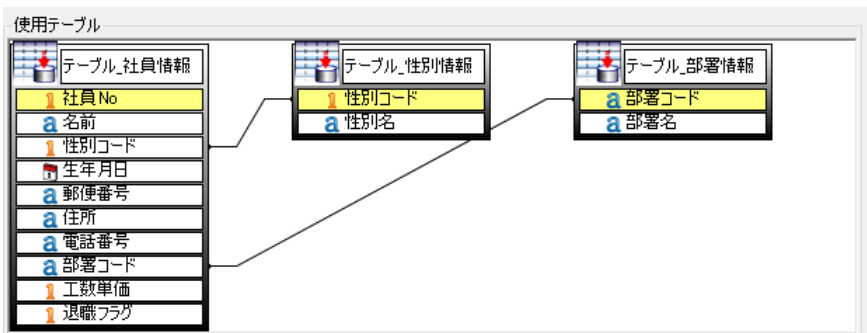
RADEN でリレーションシップを設定する時は、クエリ設計画面の「結合リスト」に「フィールドツリー」から【テーブル_性別情報】【テーブル_部署情報】のテーブルをドラッグ&ドロップで配置します。



紐づけを行う【テーブル_社員情報】の「性別コード」上にカーソルを合わせ、ドラッグ&ドロップで【テーブル_性別情報】の「性別コード」と線で繋がります



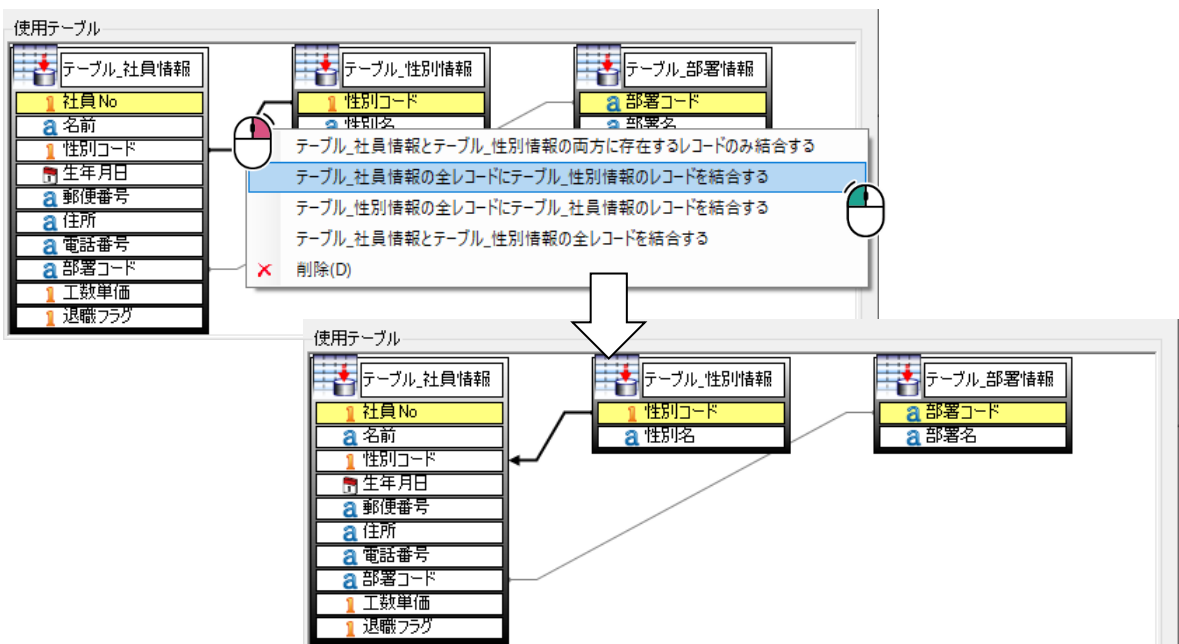
同じように、【テーブル_社員情報】の「部署コード」と【テーブル_社員部署情報】の「部署コード」を線を繋ぎます。



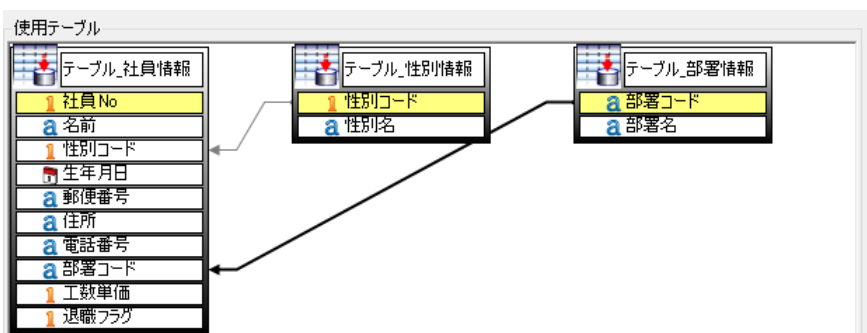
リレーションシップには4種類の結合方法があり、結合方法によって取得できるデータが変わります。

ここでは【テーブル_社員情報】に登録されている「性別コード」「部署コード」に紐づく「性別名」「部署名」を【テーブル_性別情報】【テーブル_部署情報】から取得したいため、【テーブル_社員情報】を主とした結合を行います。

【テーブル_社員情報】と【テーブル_性別情報】間に繋がれた線上で右クリックすると表示される選択肢から、「テーブル_社員情報の全レコードにテーブル_性別情報のレコードを結合する」を選択します。

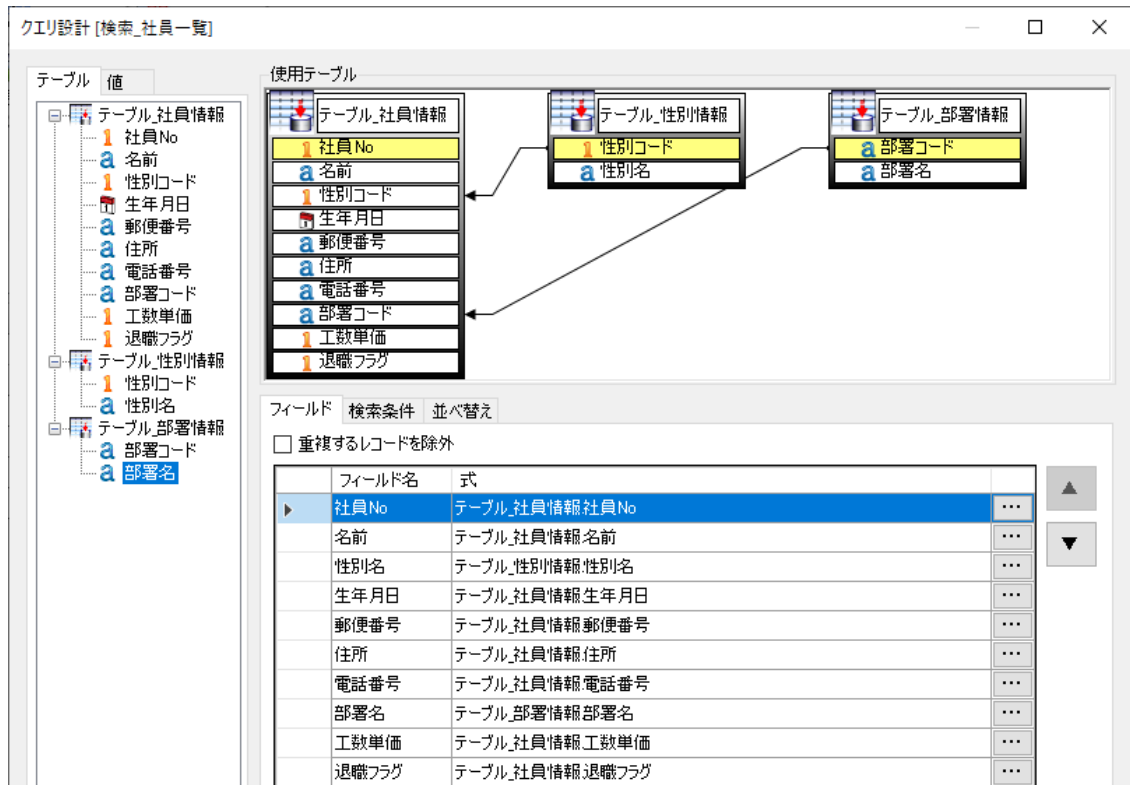


【テーブル_社員情報】と【テーブル_部署情報】間に繋がれた線上で右クリックして、「テーブル_社員情報の全レコードにテーブル_部署情報のレコードを結合する」を選択します。



※他の結合方法については『RADEN を使おう！ 実践編 Part2』で説明します。

各テーブルからデータ表示するフィールドを「フィールドリスト」に追加します。



8.2 検索条件の設定

画面のテキストボックスから入力した「名前」、コンボボックスで選択した「部署」で【テーブル_社員情報】のデータを絞り込む条件を作成します。

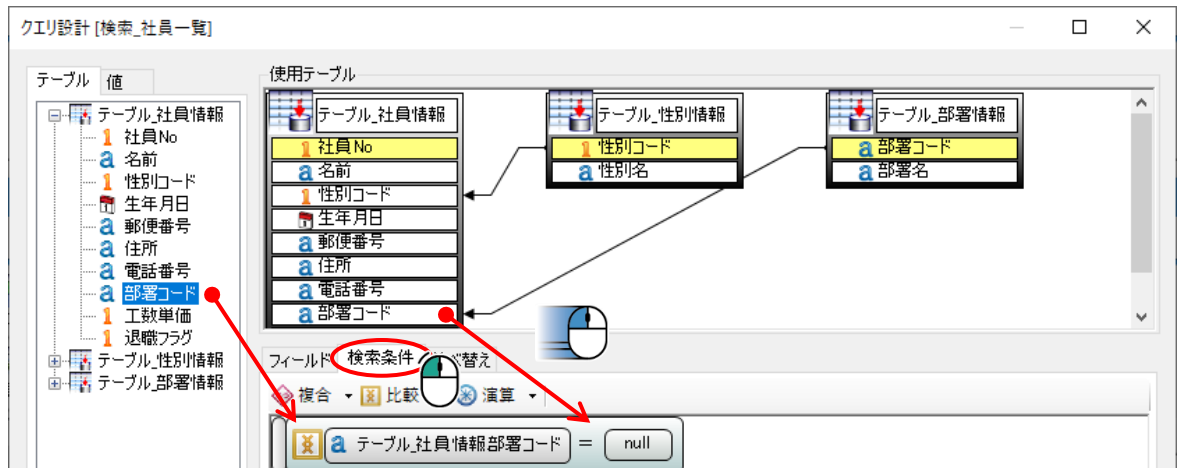
RADENで文字列型のデータを検索する場合、主に「完全一致」「部分一致」「前方一致」「後方一致」の検索方法があります。

ここでは、「部署」の検索を「完全一致」、「名前」の検索を「部分一致」で作成します。

8.2.1 完全一致の作成

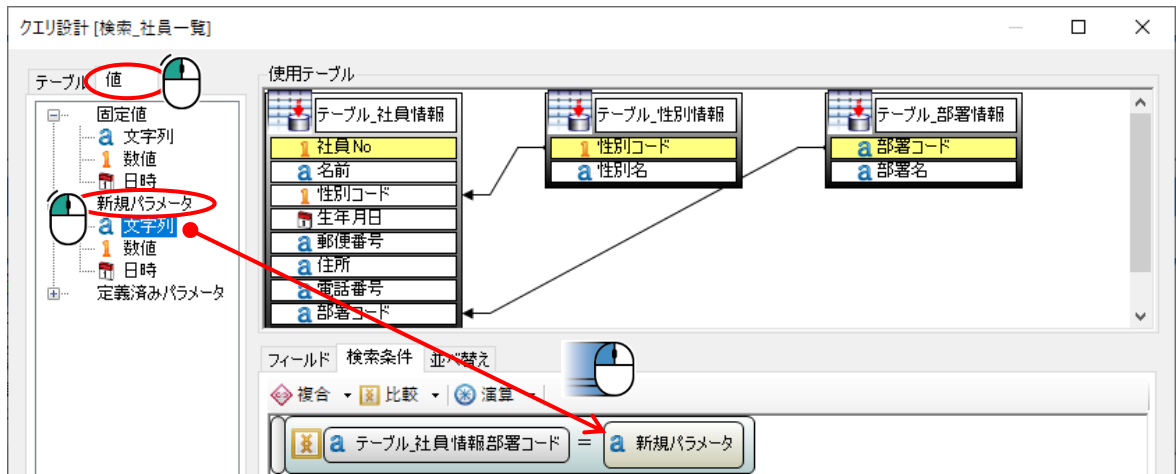
「完全一致」検索を作成します。完全一致は検索対象の文字列と検索条件が一致しているデータを取得する検索方法です。

「検索条件」タブをクリックし、「結合リスト」または「フィールドツリー」から【部署コード】を数式エディタにドラッグ&ドロップすると、「比較(=)」ブロックが配置されます。

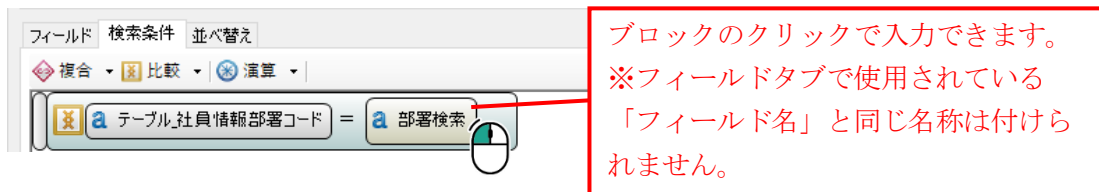


「値」タブをクリックして「値ツリー」を表示します。「新規パラメータ」の「文字列」を選択し、【部署コード】の比較ブロックの右辺に配置します。

「新規パラメータ」はデータリンクで別のオブジェクトから検索条件を渡すことができるブロックで、画面から入力したテキストや選択した値を条件にしたい場合に使用します。



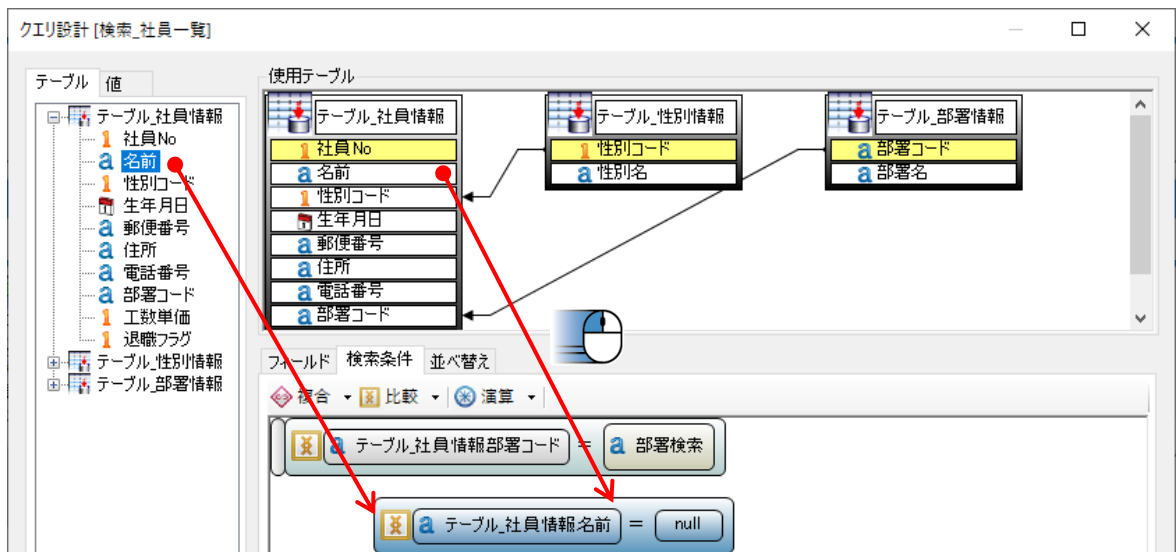
ブロックのテキストを変更します。新規パラメータの場合、入力したテキストがデータリンク設定時の名称として表示されます。



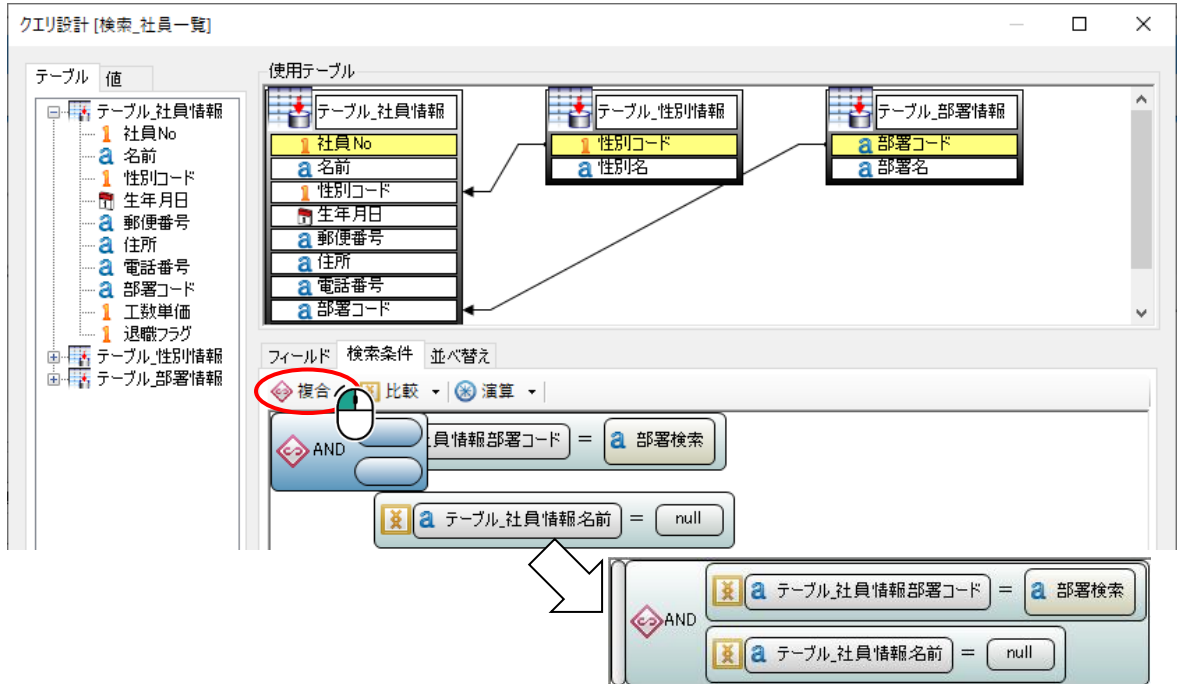
8.2.2 部分一致の作成

「部分一致」検索を作成します。部分一致はあいまい検索とも呼ばれ、検索対象の文字列の一部に検索条件が含まれるデータを取得する検索方法です。

部署コードと同じ様に、「結合リスト」または「フィールドツリー」から【名前】を数式エディタにドラッグ&ドロップすると、「比較 (=)」ブロックが配置されます。

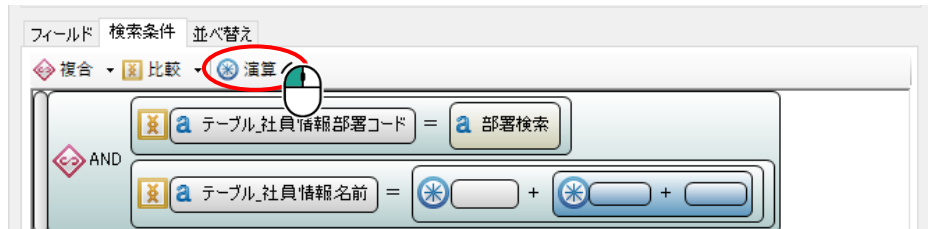


複数の条件を設定する場合は、「複合」ブロックを使用します。「複合 (AND)」ブロックを数式エディタに配置し、先に配置しているブロックと組み合わせます。

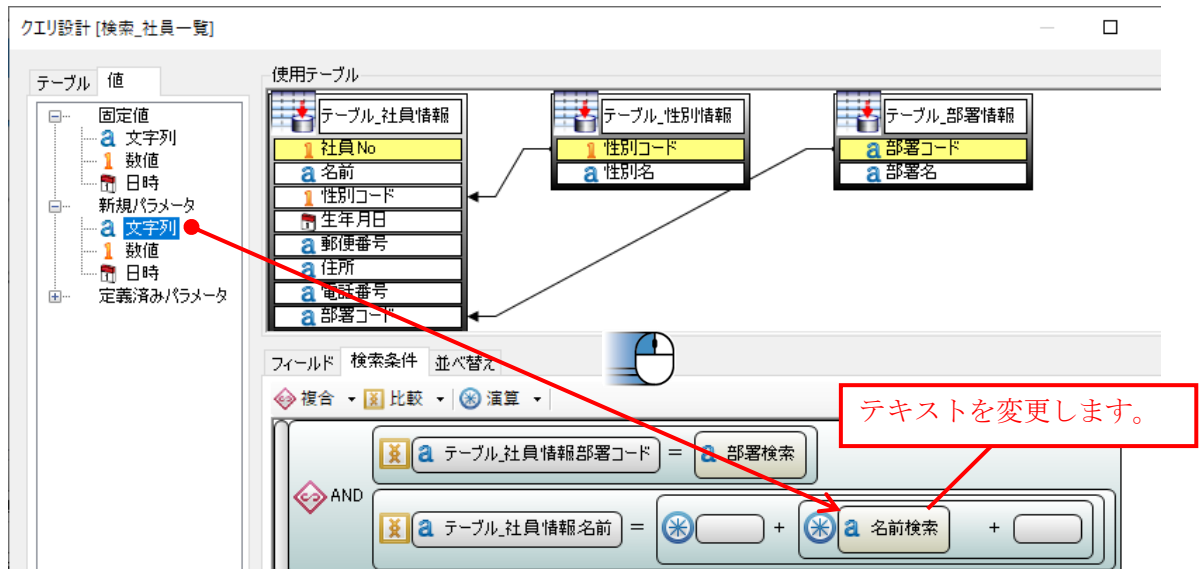


検索条件となる文字列の前後にどのようなデータが入っていても検索できるようにするには、ワイルドカードとなる「%」を検索条件の前後に付けます。

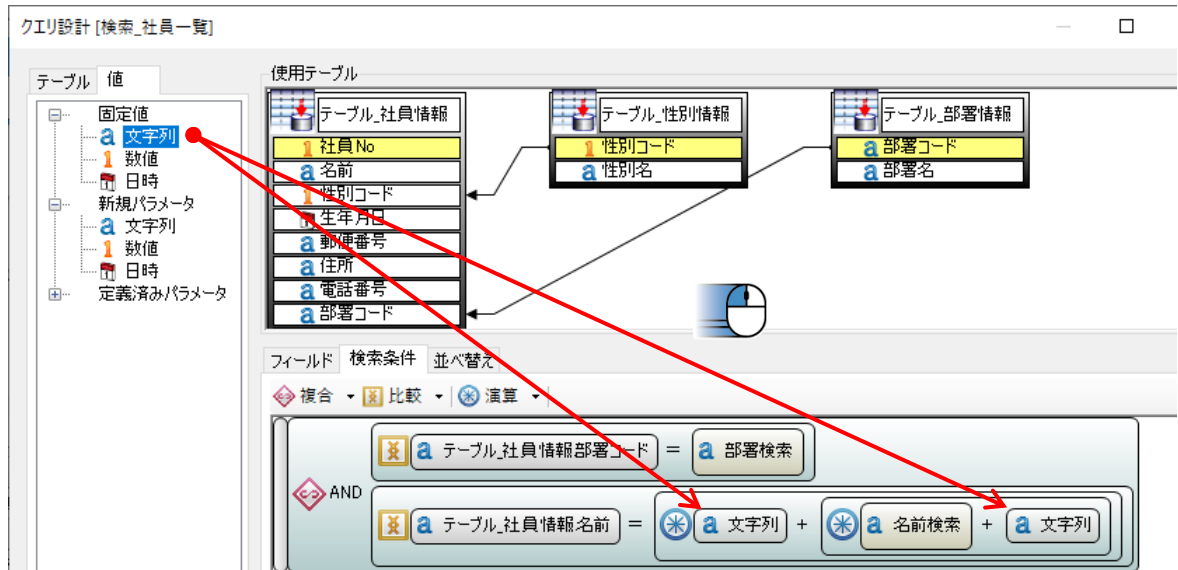
新規パラメータのブロックと「%」を入力したブロックを組み合わせで作成します。ブロックを組み合わせる時は「演算」から「+」ブロックを2つ作成し、「名前」の比較ブロックの右辺に配置します。



フィールドツリーの「新規パラメータ」の「文字列」を選択し、「+」ブロックの真ん中に配置します。



「値ツリ」の「固定値」から「文字列」選択し、「+」ブロックの左右に配置します。

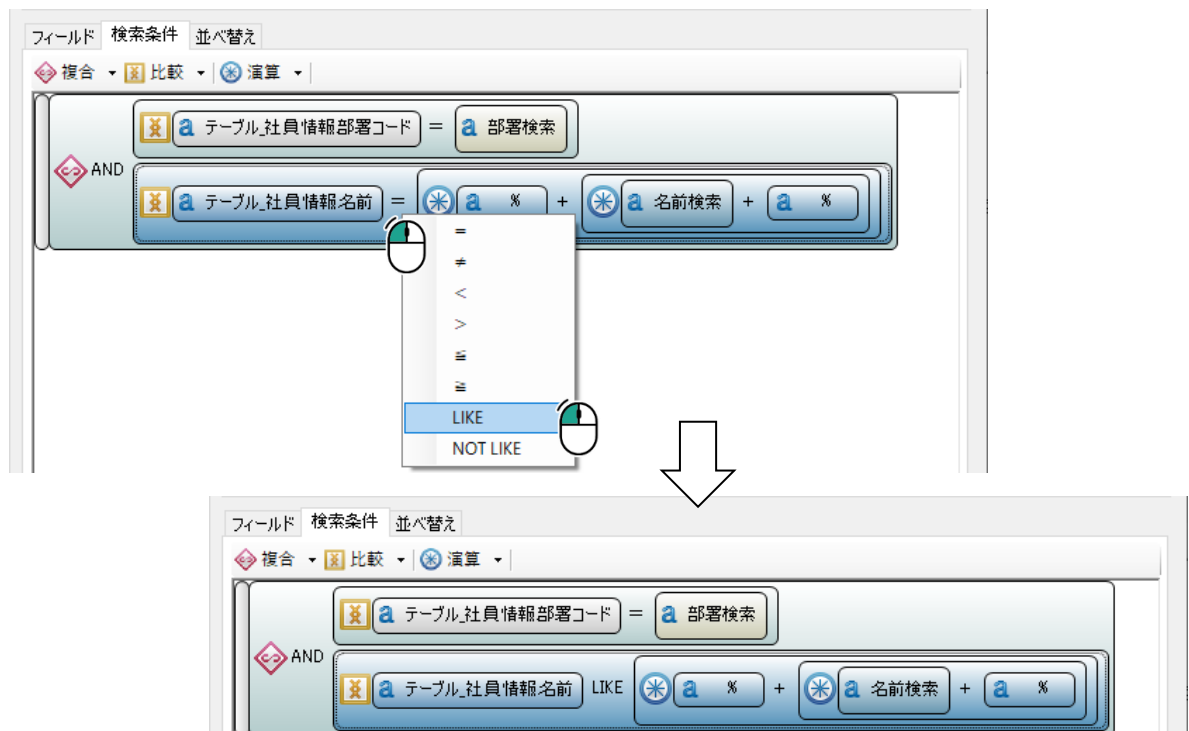


「固定値」はブロックに直接テキストや値を入力して使用するブロックで、条件が固定の場合に使用します。ここで固定となる値は「%」です。

「文字列」ブロックに「%」を入力します。



最後に、比較ブロックの「=」を「LIKE」に変更して検索クエリの設定は完了です。





ワイルドカードを付ける位置で「前方一致」「後方一致」の検索条件も作成できます。「前方一致」の場合は検索条件の後ろに「%」を付け、「後方一致」の場合は検索条件の前に「%」を付けます。

前方一致



後方一致

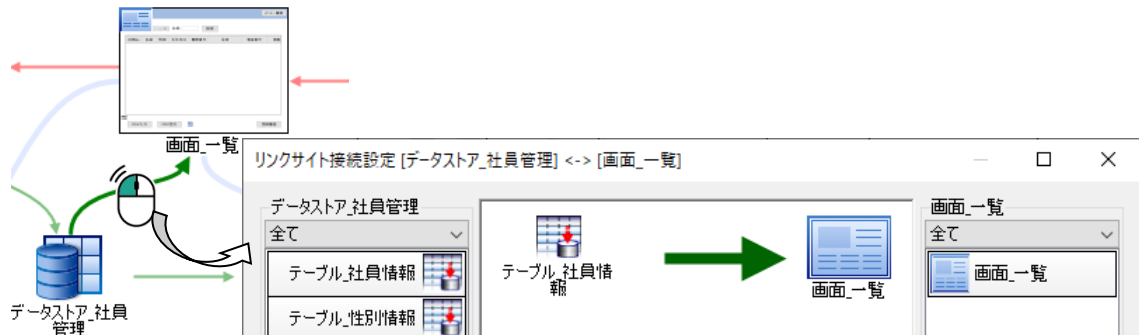


並び順を指定する場合は、「並べ替えリスト」にフィールドを設定しましょう。

9 表示データリンクの設定

検索クエリに画面から検索条件を渡すデータリンク、検索クエリから画面にデータ表示するデータリンクの作成を行います。

【データストア_社員管理】から【画面_一覧】に接続されているデータリンクからリンクサイト接続設定画面を開きます。

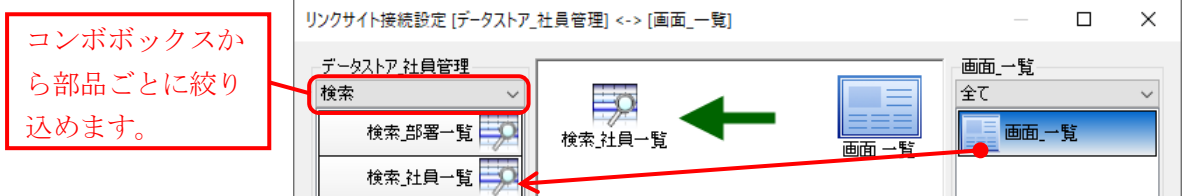


初めに『RADENをしよう！ 入門編』で作成した、【テーブル_社員情報】と【画面_一覧】間のコネクタを削除します。コネクタを選択し、[delete]キーの押下で削除できます。



9.1 検索条件のリンク設定

検索クエリに検索条件を渡すため、【画面_一覧】から【検索_社員一覧】にドラッグ&ドロップでコネクタを繋ぎます。



コンボボックスから部品ごとに絞り込めます。

接続したコネクタからデータリンク詳細設定画面を開き、画面に配置した「部署」のコンボボックス部品と「名前」のテキストボックス部品から検索クエリに作成したパラメータ（【部署検索】【名前検索】）にリンクを設定します。

コンボボックス部品の「リンクターゲット選択」は「選択値」を選択します。

画面_一覧	インデックス	データストア_社員管理_検索_社員一覧
コンボボックス_部署_選択値	全レコード	部署検索
テキストボックス_名前_テキスト	全レコード	名前検索

9.2 データ取得のリンク設定（社員一覧）

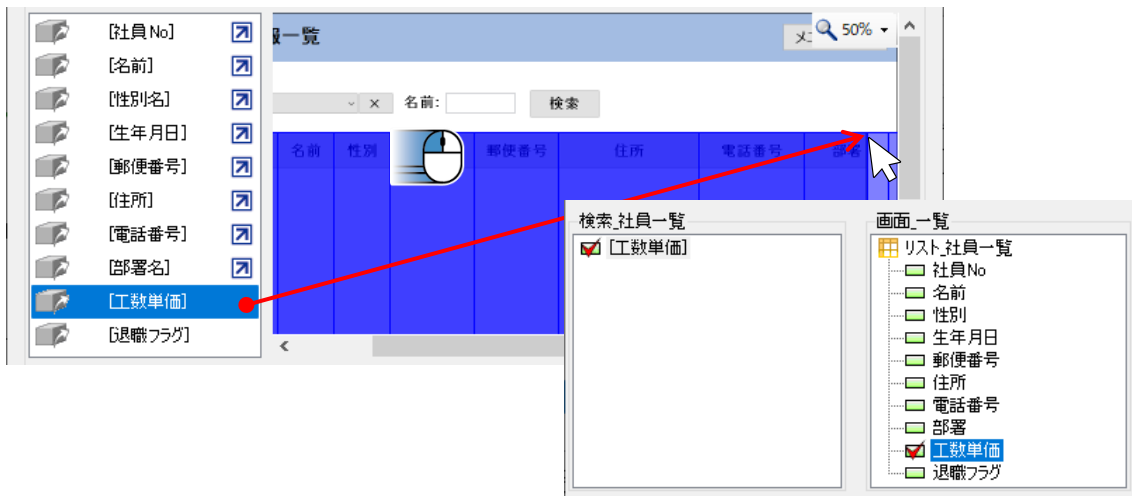
画面にデータ表示するデータリンクを設定します。

【検索_社員一覧】から【画面_一覧】にドラッグ&ドロップでコネクタを繋ぎ、データリンク詳細設定画面で各項目のリンクを設定します。

データストア_社員管理_検索_社員一覧	画面_一覧	インデックス
▶ [社員No]	リスト_社員一覧_社員No	全レコード
[名前]	リスト_社員一覧_名前	全レコード
[性別名]	リスト_社員一覧_性別	全レコード
[生年月日]	リスト_社員一覧_生年月日	全レコード
[郵便番号]	リスト_社員一覧_郵便番号	全レコード
[住所]	リスト_社員一覧_住所	全レコード
[電話番号]	リスト_社員一覧_電話番号	全レコード
[部署名]	リスト_社員一覧_部署	全レコード
[工数単価]	リスト_社員一覧_工数単価	全レコード
[退職フラグ]	リスト_社員一覧_退職フラグ	全レコード



リスト部品に列が多くなると、データリンク設定時にリンク対象の列が表示されない場合があります。そのような場合、リスト部品の端にカーソルを合わせ、全列に選択色が付いた場所でドロップすると、リンクターゲット選択画面が表示され列が選択できます。



9.3 データ取得のリンク設定 (部署一覧)

検索に使用する「部署」のコンボボックス部品に、【ダイアログ_登録】のコンボボックス部品と同じように【検索_部署一覧】からデータ取得するためのデータリンク設定を行います。

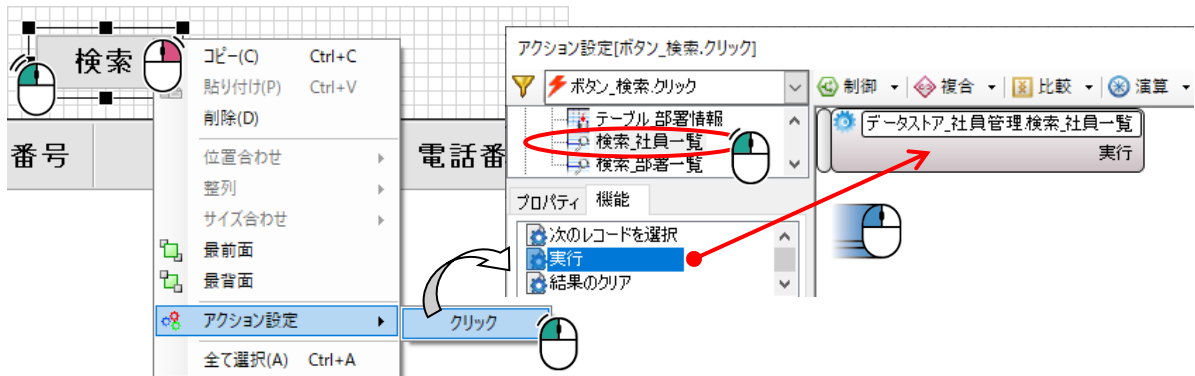
リンク設定時、「リンクターゲット選択」画面が開きます。
「部署コード」は「選択リスト設定値」に、
「部署名」は「選択リストテキスト」にチェックを入れます。

リンク設定リスト	データストア_社員管理	画面_一覧
	検索_部署一覧	画面_一覧
	検索_社員一覧	画面_一覧
	部署コード	コンボボックス_部署_選択リスト設定値
	部署名	コンボボックス_部署_選択リストテキスト

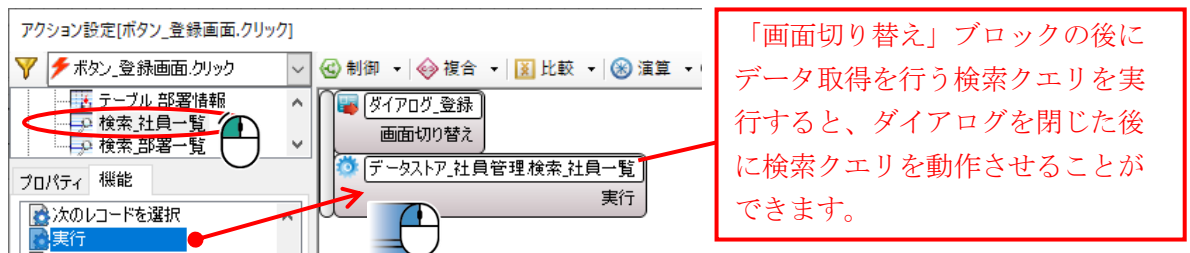
10 表示動作の設定

検索クエリの実行動作を、「検索用のボタン部品のクリックイベント」「登録画面用のボタン部品のクリックイベント」「CSV入力用のボタン部品のクリックイベント」に作成します。

「検索」ボタン部品のクリックイベントにアクション設定を行います。アクション設定画面を開き、【データストア_社員管理】の【検索_社員一覧】の機能から「実行」を選択し、ブロックを配置します。



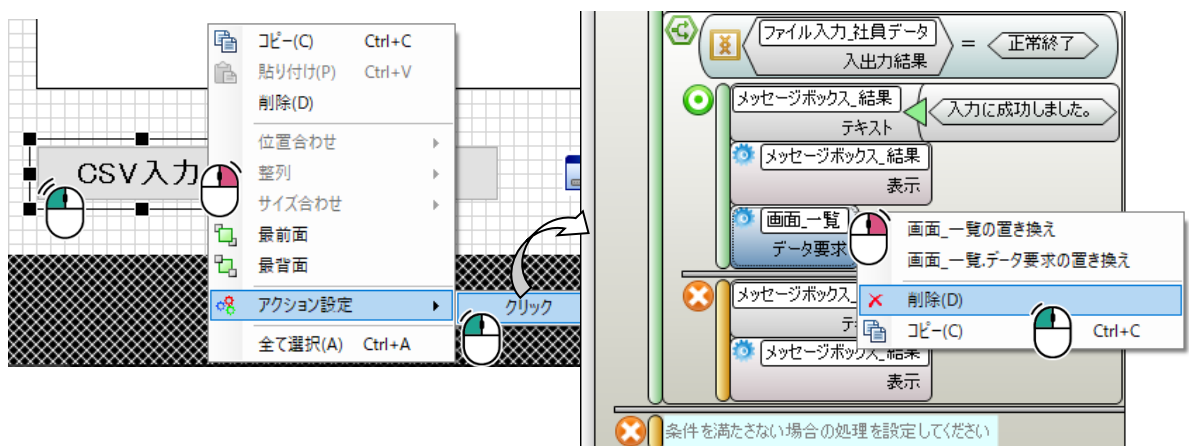
「登録画面」ボタン部品のクリックイベントにアクション設定を行います。アクション設定画面を開き、既に配置されている「画面切り替え」ブロックの下に、【データストア_社員管理】の【検索_社員一覧】の機能から「実行」を選択し、ブロックを配置します。



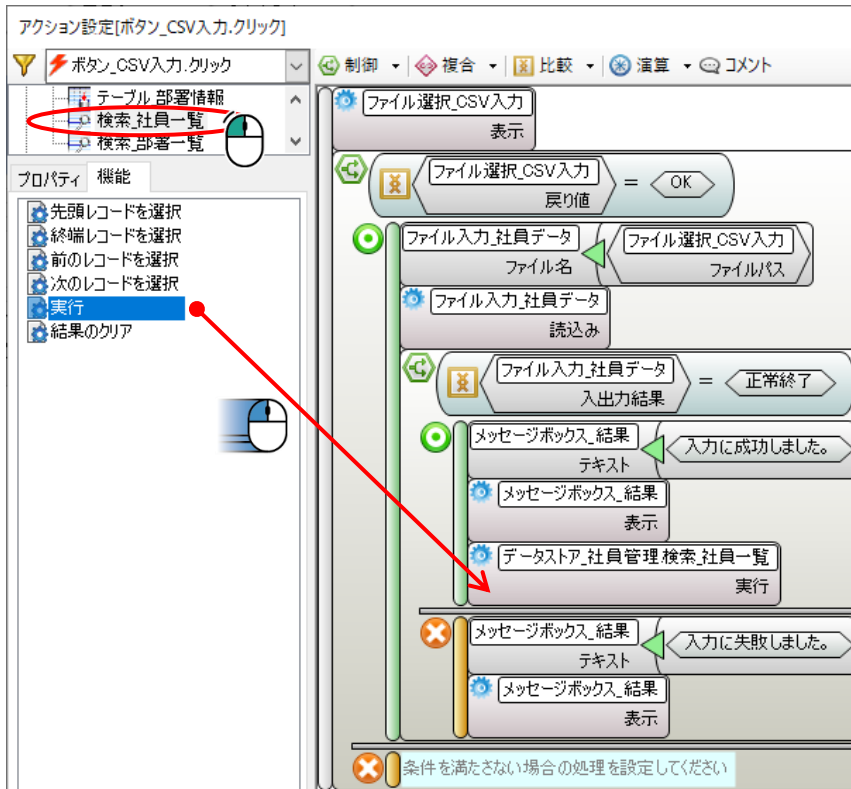
同様に、CSVファイルを入力した後もデータ取得する動作を「CSV入力」ボタン部品のクリックイベントに作成します。

『RADEN を使おう！ 入門編』で配置した「データ要求」ブロックは、画面オブジェクトにデータリンクされた全てのリンクからデータを取得するブロックのため、【画面_一覧】の場合は【検索_社員一覧】と【検索_部署一覧】の検索クエリからデータが取得されます。CSV入力後は【検索_社員一覧】のみ動作させたいため、「データ要求」ブロックを検索クエリの実行動作に置き換えましょう。

ブロックを選択して右クリックから[削除(D)]を選択、またはブロックを選択して[delete]キーの押下で削除できます。



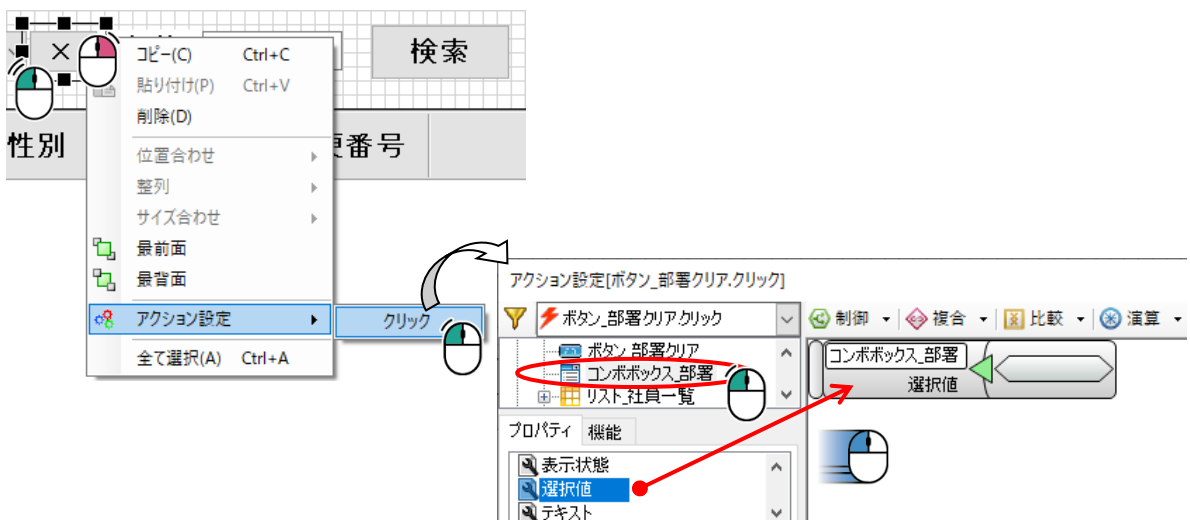
【データストア_社員管理】の【検索_社員一覧】の機能から「実行」を選択し、ブロックを配置します。



11 選択クリア動作の設定

検索用のコンボボックス部品を選択値をクリアする動作を作成します。

「部署」コンボボックス部品の横に配置した、「×」ボタン部品のクリックイベントのアクション設定画面を開きます。【画面_一覧】の【コンボボックス_部署】のプロパティから「選択値」を選択し、ブロックを配置します。代入する値を設定しないことで、ボタンのクリック時に【コンボボックス_部署】の選択値がクリアされます。



12 動作の確認

リストのデータ表示と検索機能の動作確認を行いましょう。
一覧画面を開き、リストの列に登録されているデータが正しく表示されることを確認します。



社員No.	名前	性別	生年月日	郵便番号	住所	電話番号	部
1	山田 太郎	男性	1975/01/01	000-0001	岐阜県岐阜市	058-000-0000	人事部

「登録画面」ボタンをクリックして、登録画面から複数のデータを登録します。ダイアログを閉じた後に、一覧画面のリストに登録したデータが表示されることを確認します。



社員No.	名前	性別	生年月日	郵便番号	住所	電話番号	部
1	山田 太郎	男性	1975/01/01	000-0001	岐阜県岐阜市	058-000-0000	人事部
2	木村 花子	女性	1968/02/02	000-0002	愛知県名古屋市	052-000-0000	人事部
3	佐藤 大輔	男性	1970/03/03	000-0003	愛知県豊田市	0565-00-0000	経理部

「CSV 入力」 ボタンをクリックして、CSV ファイルからデータの入力を行います。入力完了メッセージを閉じた後に、一覧画面のリストに登録したデータが表示されることを確認します。

社員No.	名前	性別	生年月日	郵便番号	住所	電話番号	部
1	山田 太郎	男性	1975/01/01	000-0001	岐阜県岐阜市	058-000-0000	人事部
2	木村 花子	女性	1968/02/02	000-0002	愛知県名古屋市	052-000-0000	人事部
3	佐藤 大輔	男性	1970/03/03	000-0003	愛知県豊田市	0565-00-0000	経理部
4	鈴木 春奈			000-0004	岐阜県関市	0575-00-0000	
5	田中 信二			000-0005	愛知県知立市	0566-00-0000	
6	木村 孝也			000-0006	愛知県豊田市	0596-00-0000	

Buttons: CSV入力, CSV出力, 登録画面

次に検索機能の「部署」コンボボックスから部署を選択します。「検索」ボタンをクリックして、選択した「部署」で絞り込まれたデータがリストに表示されることを確認します。

Top Screenshot: The '部署' dropdown menu is open, showing options: 人事部, 経理部, 総務部, 法務部, 情報システム部, 技術部, 営業部. '人事部' is selected. The search button '検索' is being clicked.

Bottom Screenshot: The search results show only two employees in the list:

社員No.	名前	性別	生年月日	郵便番号	住所	電話番号	部
1	山田 太郎	男性	1975/01/01	000-0001	岐阜県岐阜市	058-000-0000	人事部
2	木村 花子	女性	1968/02/02	000-0002	愛知県名古屋市	052-000-0000	人事部

「×」ボタンをクリックして、「部署」コンボボックスの選択値をクリアする動作を確認します。

社員情報一覧

部署: 名前: 検索

社員No.	名前	性別	生年月日	郵便番号	住所	電話番号	部
1	山田 太郎	男性	1975/01/01	000-0001	岐阜県岐阜市	058-000-0000	人事部
2	木村 花子	女性	1968/02/02	000-0002	愛知県名古屋市	052-000-0000	人事部

「名前」テキストボックスに検索する文字を入力します。「検索」ボタンをクリックして、入力した文字が含まれる「名前」のデータがリストに表示されることを確認します。

社員情報一覧

部署: 名前: 検索

社員No.	名前	性別	生年月日	郵便番号	住所	電話番号	部
2	木村 花子	女性	1968/02/02	000-0002	愛知県名古屋市	052-000-0000	人事部
4	鈴木 春奈			000-0004	岐阜県関市	0575-00-0000	
6	木村 孝也			000-0006	愛知県豊田市	0596-00-0000	

CSV入力 CSV出力 登録画面

最後に「部署」コンボボックス、「名前」テキストボックスに検索条件を入力して検索を行い、両方の条件に合致するデータがリストに表示されることを確認して完了です。

社員情報一覧

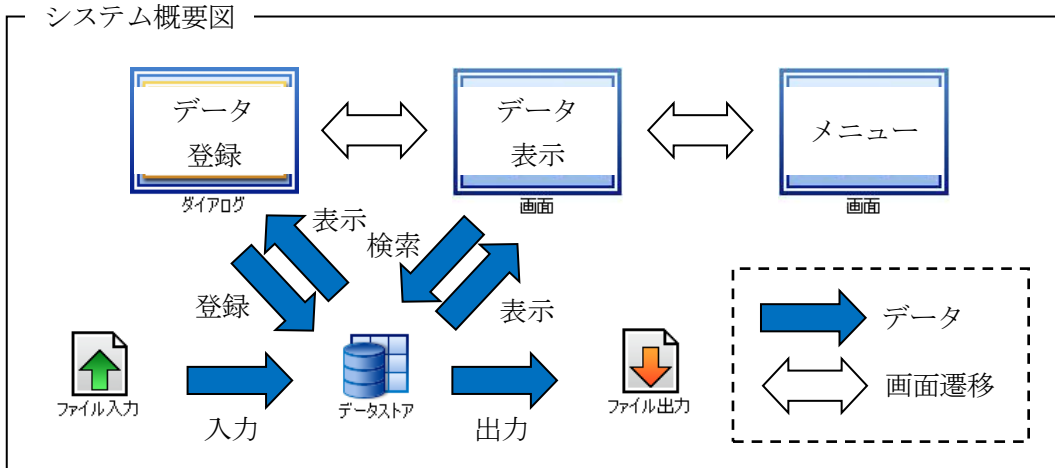
部署: 名前: 検索

社員No.	名前	性別	生年月日	郵便番号	住所	電話番号	部
2	木村 花子	女性	1968/02/02	000-0002	愛知県名古屋市	052-000-0000	人事部

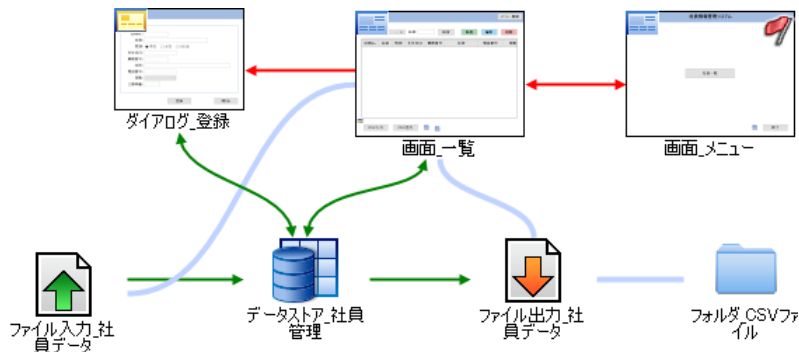
第4章 データの編集と削除

データを管理するシステムでは、データの編集や削除の機能も大切です。

一覧画面のリスト部品に表示しているデータから編集/削除の対象を選択し、編集の場合は選択したデータを登録画面に表示して編集する機能を、削除の場合は選択したデータをテーブルから削除する機能を作成します。



<オブジェクト関連図>



<アプリケーション起動時>



1 画面のレイアウト

一覧画面に編集と削除の機能を作成するための部品を追加します。

これまで登録画面を開いていた「登録画面」のボタン部品は新規登録用のボタンとして使用する
ように配置と名称の変更を行います。

<手順>

- ① 「編集」のボタン部品、「削除」のボタン部品を配置します。
- ② 『RADEN を使おう！ 入門編』で作成した「登録画面」ボタン部品の「テキスト」プロパティを「新規」に変更し、配置場所をリスト上部に移動させます。
- ③ 部品の「名称」プロパティに分かりやすい名称を設定します。
- ④ タブオーダーを設定します。

<レイアウト例>

変更
(「登録画面」ボタンを変更) **追加**

社員No.	名前	性別	生年月日	郵便番号	住所	電話番号	部署
-------	----	----	------	------	----	------	----

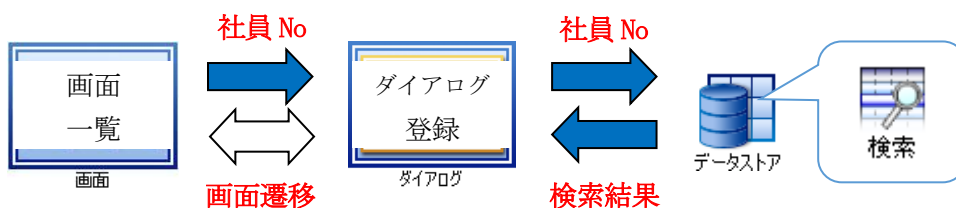
CSV入力 CSV出力

2 データの編集

データの編集機能を作成します。

【画面_一覧】のリスト部品で選択している行のデータを編集対象として、選択データを【ダイアログ_登録】の各入力部品に表示し、編集したデータを【テーブル_社員情報】に更新します。

【ダイアログ_登録】へのデータ表示は検索クエリ部品を使用して、キー情報の「社員 No」で絞り込んだデータを取得するように作成します。

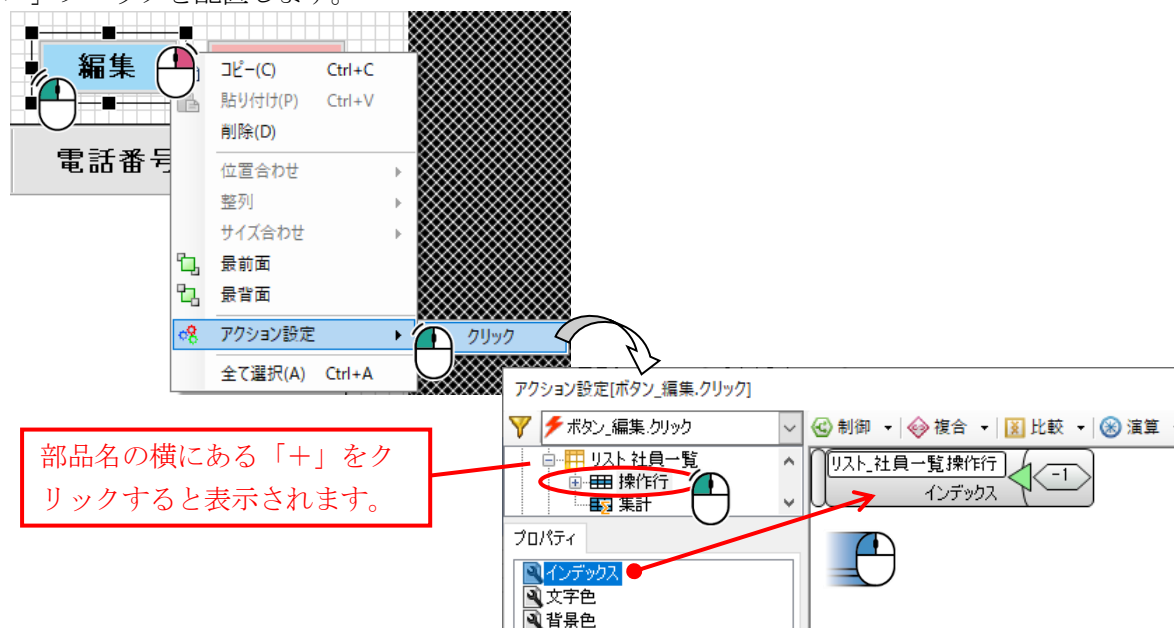


2.1 リストの選択データ取得動作の設定

リスト部品で選択している行からデータを取得します。

データの取得は「編集」ボタン部品をクリックした時に行えるように、クリックイベントのアクション設定に動作を作成します。

【画面_一覧】に配置した「編集」ボタン部品のクリックイベントのアクション設定画面を開き、【画面_一覧】の【リスト_社員一覧】の「操作行」を選択します。プロパティから「インデックス」ブロックを配置します。

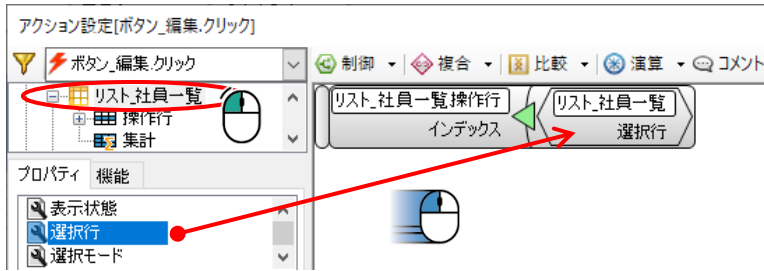


リスト部品の「操作行」とはリスト部品以外の部品からリストを操作する場合に使用するプロパティで、アクション設定でのみ設定できます。

操作したい行の番号を「インデックス」ブロックに指定することで、対象行のデータ取得や入力が行えるようになります。

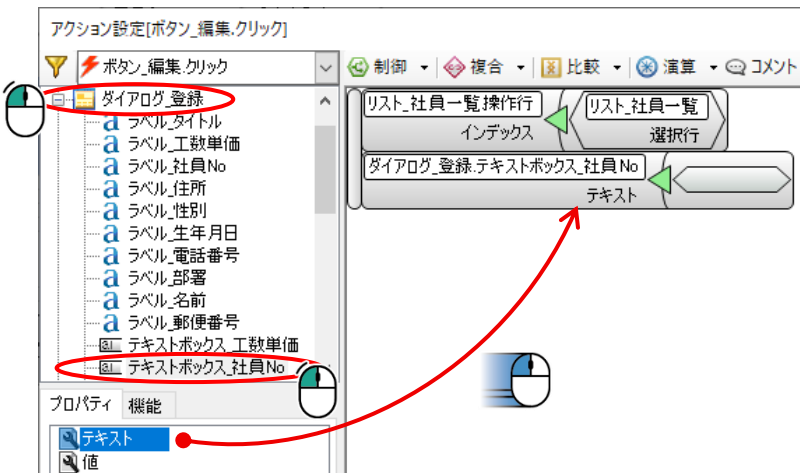
インデックス（行の番号）は先頭行を「0」として2行目は「1」、3行目は「2」と続き、未選択状態は「-1」となります。

インデックスは固定値の指定も可能ですが、選択している行を指定する場合はリスト部品の「選択行」プロパティを使用します。【リスト_社員一覧】のプロパティから「選択行」を選択し、「インデックス」ブロックに代入します。



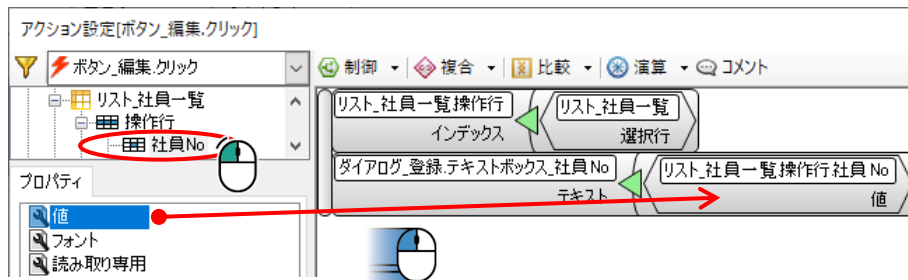
「選択行」は選択状態の行の番号を取得します。(インデックスと同じく先頭行を「0」として数えます。)

次に、リスト部品から取得するデータを【ダイアログ_登録】に渡すため、【ダイアログ_登録】の【テキストボックス_社員No】のプロパティから「テキスト」ブロックを配置します。

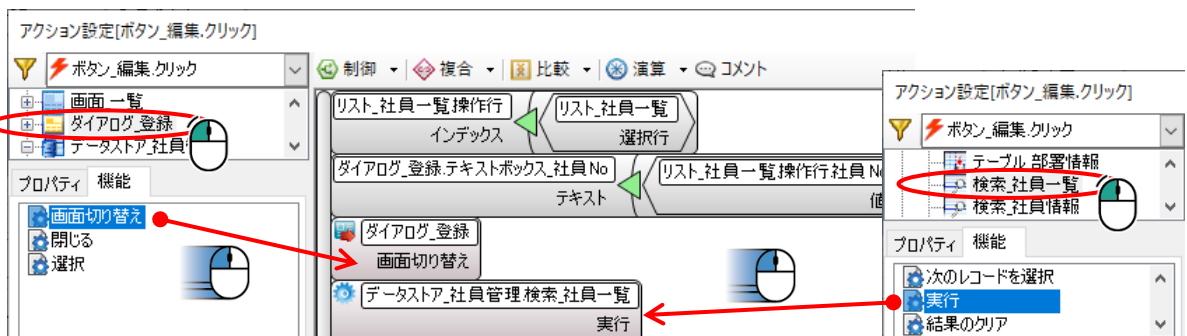


操作行は列ごとにデータを取得することができます。

再び【リスト_社員一覧】の「操作行」を表示し、「操作行」の横に表示されている「+」ボタンをクリックします。表示された列の中から「社員No」を選択し、「値」プロパティのブロックを、配置されている【テキストボックス_社員No】の「テキスト」ブロックに代入します。



最後に、【ダイアログ_登録】の機能から「画面切り替え」ブロックを配置し、ダイアログを閉じた後、リストの表示が更新されるように【検索_社員一覧】の機能から「実行」ブロックを配置します。

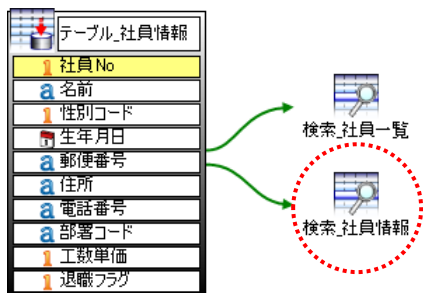


2.2 検索クエリの設定

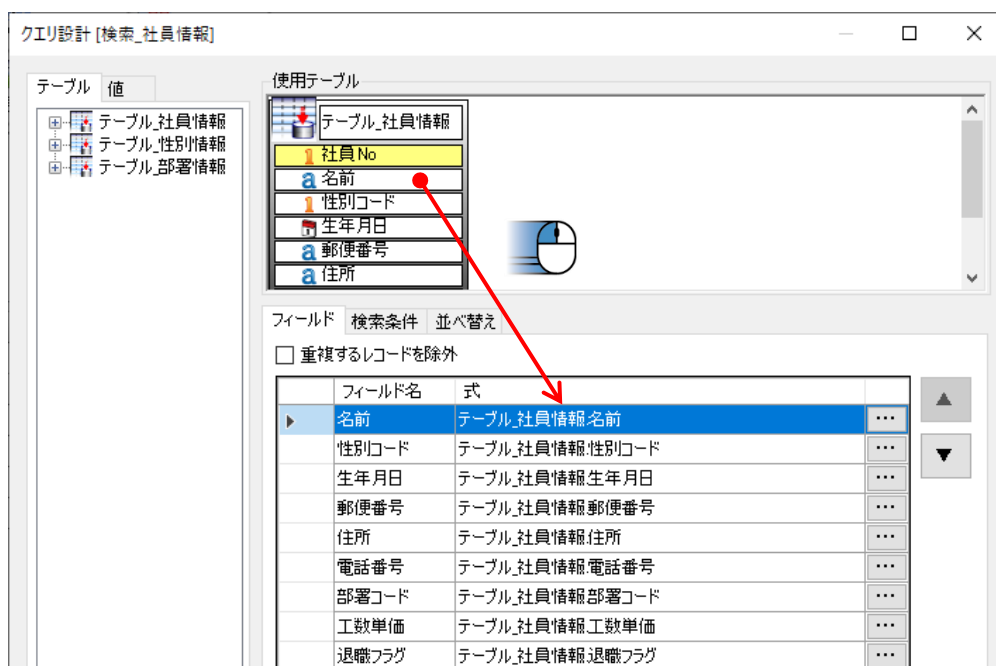
【ダイアログ_登録】の【テキストボックス_社員No】に渡した「社員No」を検索条件に、編集データを取得する検索クエリを作成します。

キー情報（一意のデータ）を検索条件にすることで、特定のデータのみ取得することができます。

【データストア_社員管理】のオブジェクト編集画面を開きます。「検索クエリ」部品を配置して【テーブル_社員情報】をコネクタで接続します。



クエリ設計画面を開き、「フィールド」の「設定タブ」に取得するフィールドを設定します。



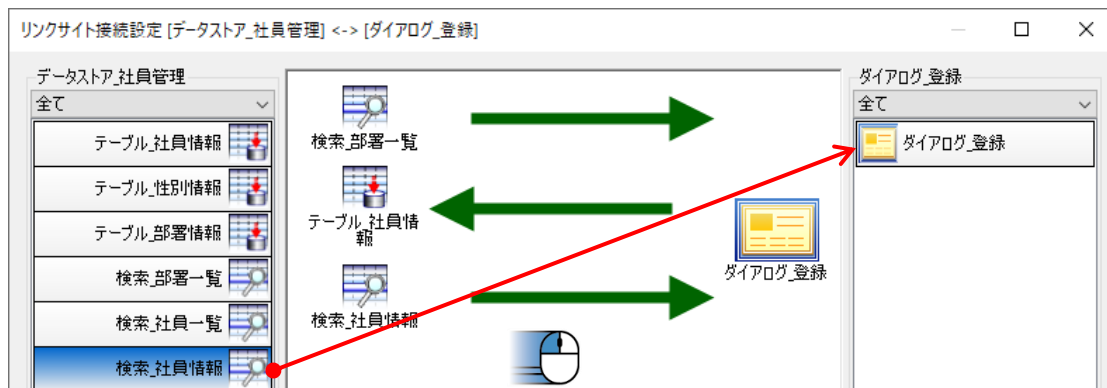
「検索条件」の「設定タブ」を開きます。「社員No」の比較ブロックを配置し、右辺に「新規パラメータ」から「数値」ブロックを配置します。



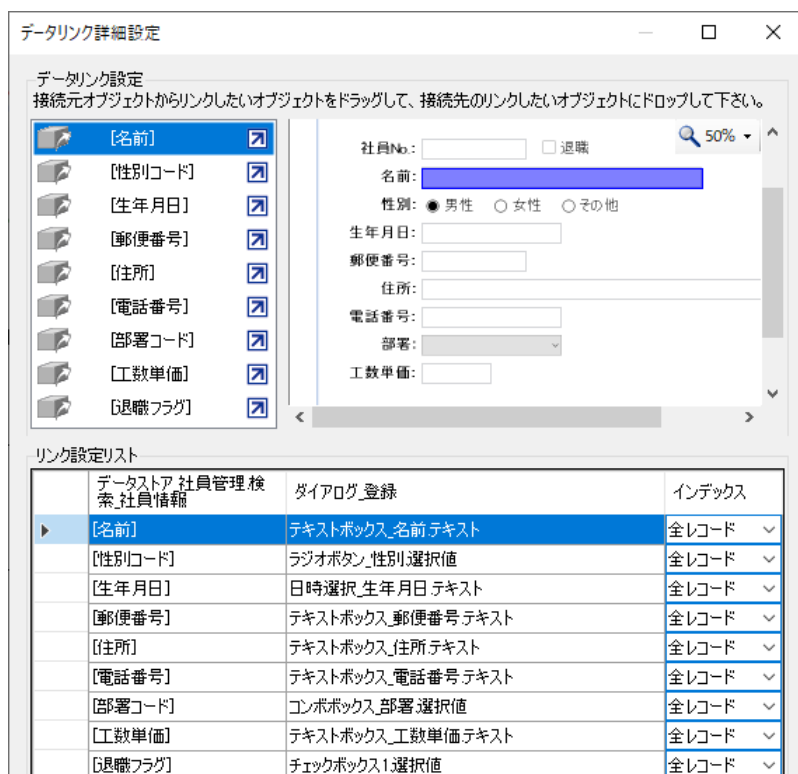
2.3 データリンクの設定

【ダイアログ_登録】に編集データを表示するデータリンク設定を行います。

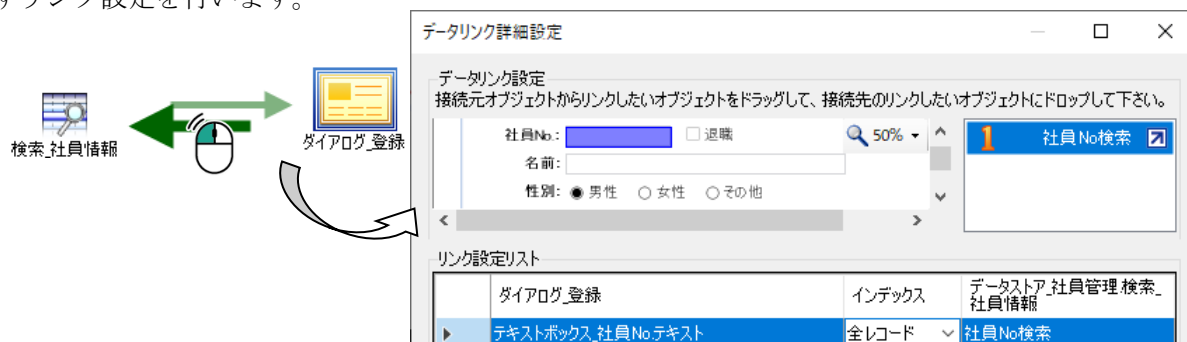
【ダイアログ_登録】と【データストア_社員管理】間に接続しているデータリンクコネクタからリンクサイト接続設定画面を開き、【検索_社員情報】から【ダイアログ_登録】にドラッグ&ドロップでコネクタを繋ぎます。



データリンク詳細設定画面を開き、各フィールドとダイアログの部品にリンクを設定します。



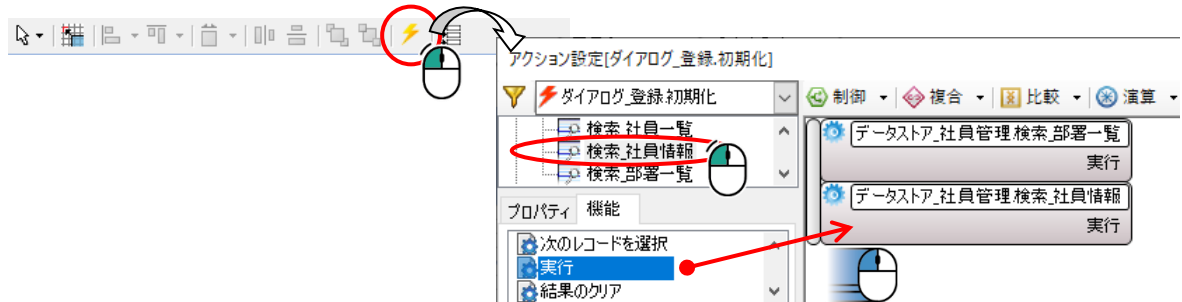
【ダイアログ_登録】から【検索_社員情報】にもコネクタを繋ぎ、ダイアログから検索条件を渡すリンク設定を行います。



2.4 表示動作の設定

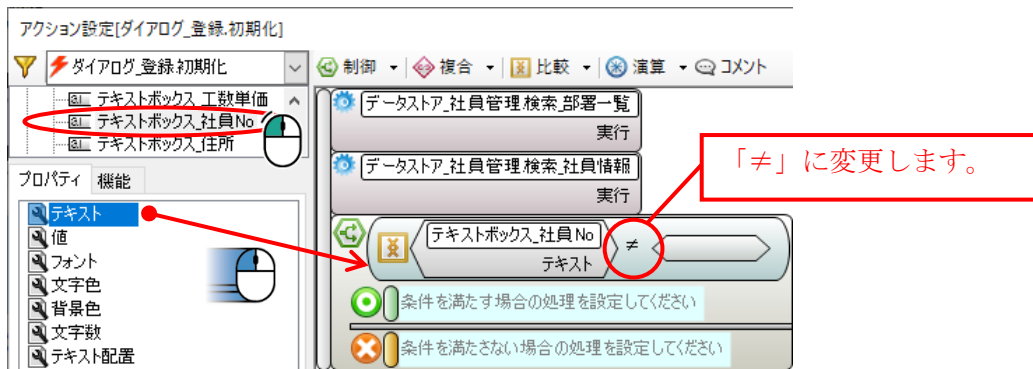
検索クエリの実行動作を【ダイアログ_登録】の初期化イベントにアクション設定します。

初期化のアクション設定画面を開き、【検索_社員情報】の機能から「実行」ブロックを配置します。

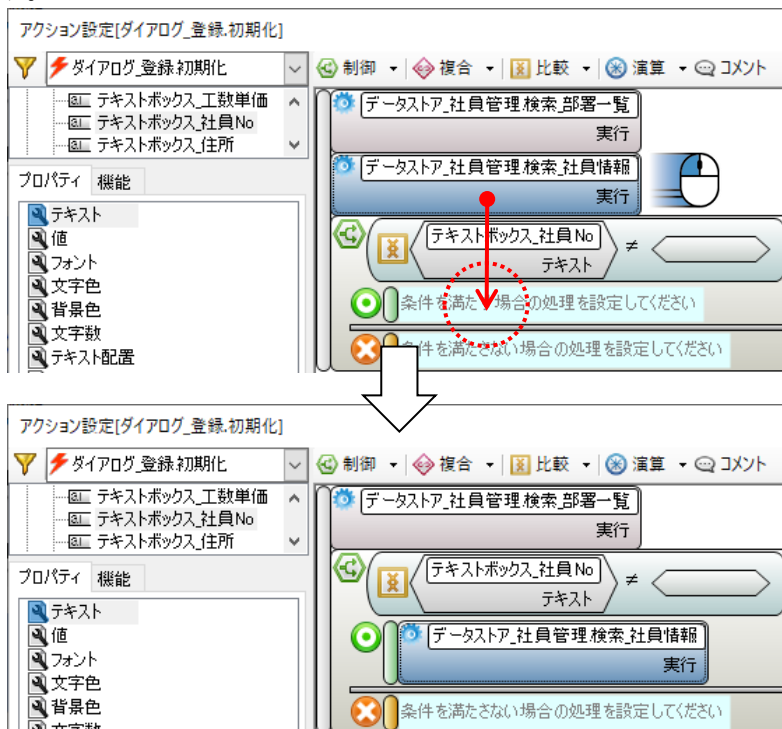


ただし、この状態では「社員 No」が表示されていない場合（新規登録時）も検索クエリが動作してデータを取得してしまうため、「社員 No」が表示されていない場合は検索クエリを実行しないアクション設定を作成します。

「分岐」ブロックを配置し、分岐の条件に【テキストボックス_社員 No】のプロパティから「テキスト」ブロックを配置します。



先に配置していた【検索_社員情報】の「実行」ブロックを条件を満たす場合の処理に移動させます。



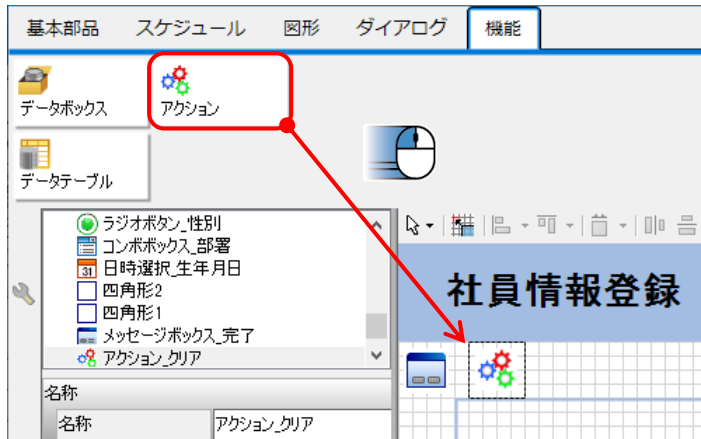
2.5 表示クリア動作の設定

ラベル部品やテキストボックス部品にデータを表示/入力すると、アプリケーションを終了するまでデータを保持し続けます。

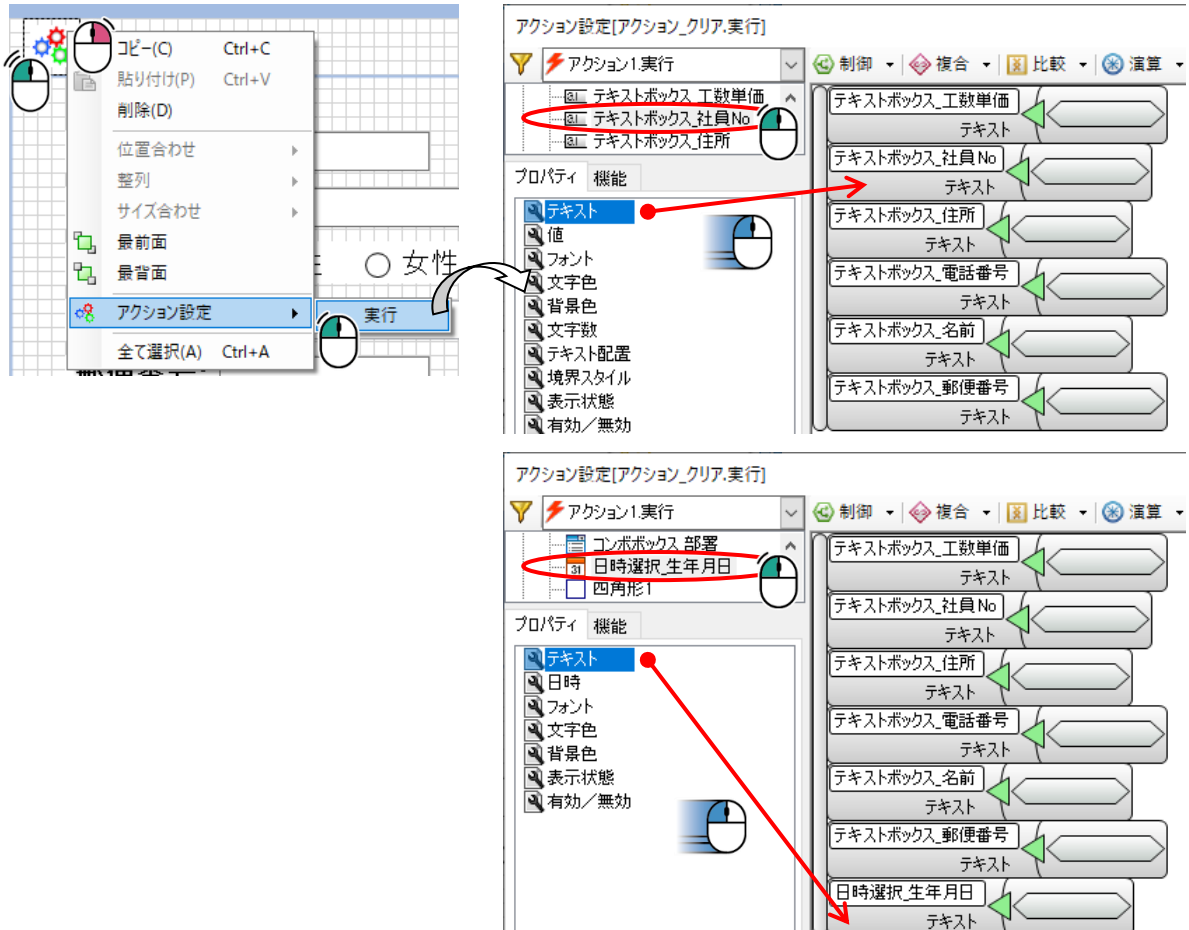
データをクリアする場合は、アクション設定でクリア動作を作成します。

クリア動作は編集時のみではなく新規登録時にも必要となります。同じ動作を複数のイベントで使用する場合は、「アクション」部品を使用することで共通のアクションを定義することができます。

【ダイアログ_登録】のオブジェクト編集エリアに、部品パレットの「機能」から「アクション」部品を配置します。



「アクション」部品の実行イベントのアクション設定画面を開き、表示のクリアを行うテキストボックス部品と日時選択部品のプロパティから「テキスト」ブロックを配置します。



ラジオボタン部品、コンボボックス部品、チェックボックス部品の選択のクリアは、プロパティから「選択値」ブロックを配置します。

初期値を設定する場合は、値を入力します。

アクション部品はアクション設定だけでは動作しません。アクション部品の実行動作を他の部品から呼び出す必要があります。

ここで注意するポイントが「いつクリアするか」です。

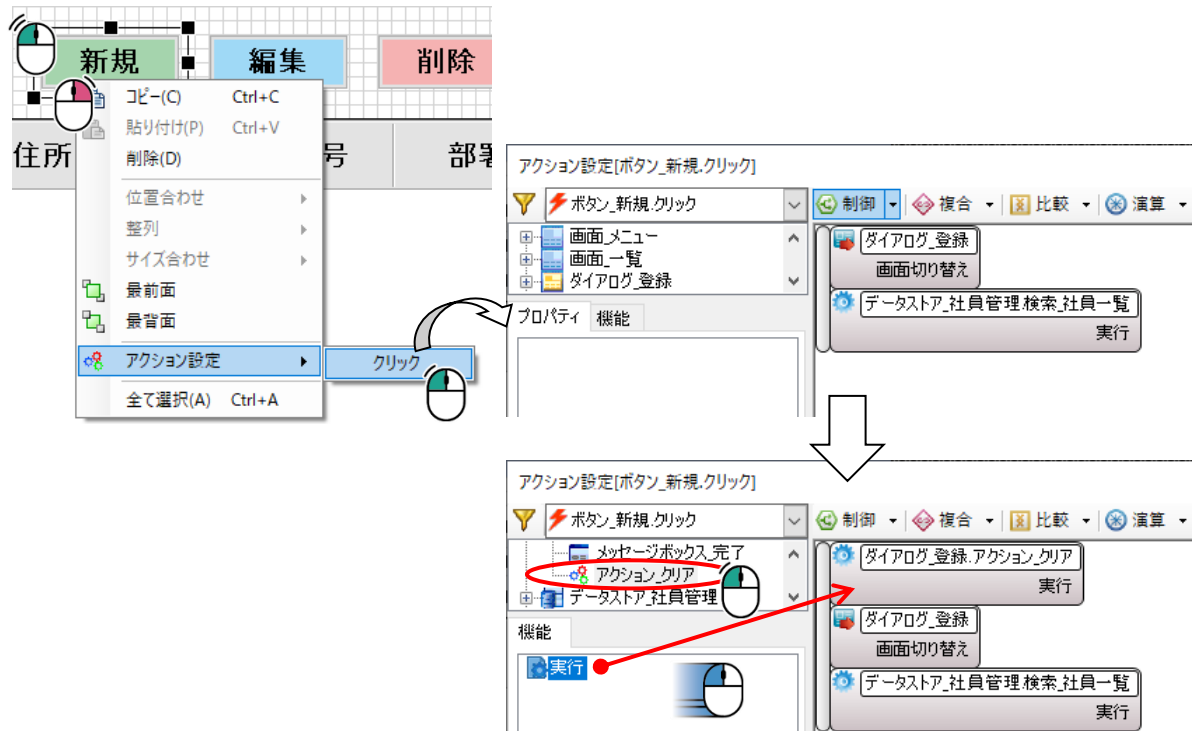
【ダイアログ_登録】の初期化イベントで全ての入力部品をクリアすると、【画面_一覧】のリスト部品から渡した「社員 No」もクリアされてしまうため、「編集」ボタンのクリックイベントで「社員 No」を渡す動作の前にクリア動作を設定したアクション部品を実行しましょう。

【画面_一覧】のオブジェクト編集画面を開きます。「編集」ボタン部品のクリックイベントのアクション設定画面を開き、【ダイアログ_登録】の【アクション_クリア】の機能から「実行ブロック」を配置します。

「社員 No」を渡す処理の前に配置します。

同じアクションを「新規」ボタン部品でも実行させます。

「新規」ボタン部品のクリックイベントのアクション設定画面を開き、【ダイアログ_登録】の【アクション_クリア】の機能から「実行ブロックを配置します。



2.6 動作の確認

データ編集の動作確認を行いましょう。

一覧画面を開き、編集する行を選択し、「編集」ボタンをクリックします。



選択した社員のデータが正しく表示されることを確認します。

社員情報登録

社員No.: 2 退職

名前: 木村 花子

性別: 男性 女性 その他

生年月日: 1968年2月2日

郵便番号: 000-0002

住所: 愛知県名古屋市

電話番号: 052-000-0000

部署: 人事部

工数単価: 4,000

登録 閉じる

「社員No.」以外のデータを変更して、「登録」ボタンをクリックします。

社員情報登録

社員No.: 2 退職

名前: 木村 花子

性別: 男性 女性 その他

生年月日: 1968年2月2日

郵便番号: 000-2222

住所: 愛知県豊田市

電話番号: 080-000-0000

部署: 人事部

工数単価: 4,000

登録 閉じる

登録しました。 OK



キー項目となっている「社員No.」を変更すると、別のデータとして登録されます。

登録画面を閉じ、一覧画面のリストが更新されていることを確認します。

社員No.	名前	性別	生年月日	郵便番号	住所	電話番号	部署
1	山田 太郎	男性	1975/01/01	000-0001	岐阜県岐阜市	058-000-0000	人事部
2	加藤 花子	女性	1968/02/02	000-2222	愛知県豊田市	080-000-0000	人事部
3	佐藤 大輔	男性	1970/03/03	000-0003	愛知県豊田市	0565-00-0000	経理部
4	鈴木 春奈			000-0004	岐阜県関市	0575-00-0000	
5	田中 信二			000-0005	愛知県知立市	0566-00-0000	
6	木村 孝也			000-0006	愛知県豊田市	0596-00-0000	

一覧画面の「新規」ボタンをクリックして、登録画面を開きます。

入力部品の入力/選択がクリアされている（初期値を設定した部品はその選択がされている）ことを確認します。

社員No.: 退職

名前:

性別: 男性 女性 その他

生年月日:

郵便番号:

住所:

電話番号:

部署:

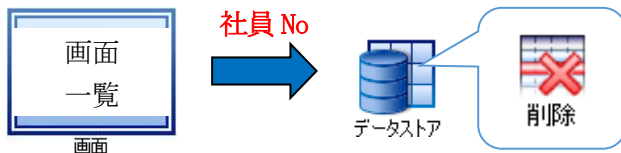
工数単価:

3 データの削除

データの削除機能を作成します。

【画面一覧】のリスト部品で選択している行のデータを削除対象として、「削除」ボタンのクリックでデータを削除します。

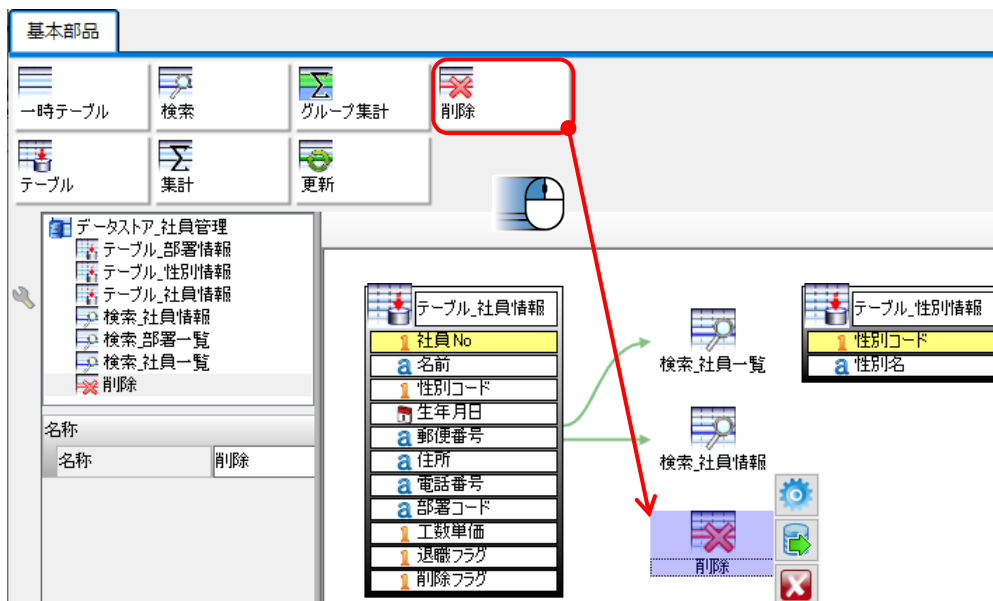
キー項目の「社員No」を削除条件にすることで、選択している特定のデータのみ削除が可能です。



3.1 削除クエリの設定

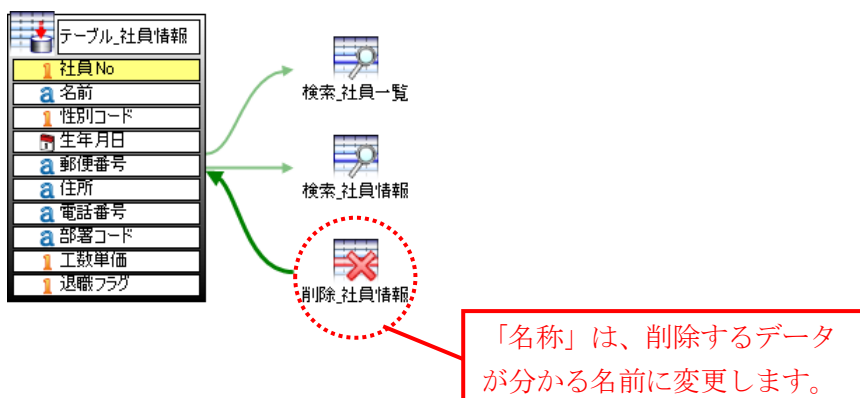
データの削除には「削除クエリ」を使用します。


【データストア_社員管理】のオブジェクト編集画面を開き、「削除クエリ」部品を配置します。

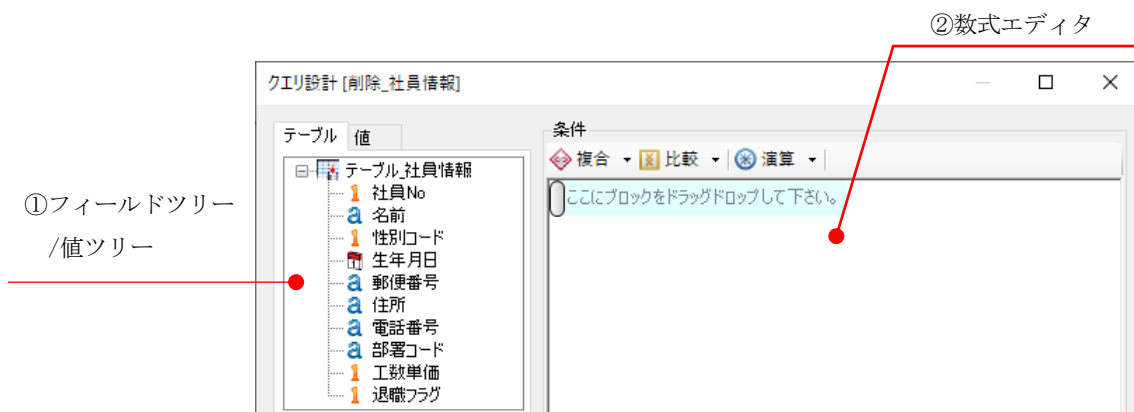


「削除クエリ」部品の部品オブジェクトメニューから[データリンクの追加]を選択し、【テーブル_社員情報】とコネクタで接続します。

※テーブル部品から削除クエリ部品へはコネクタを繋げません。

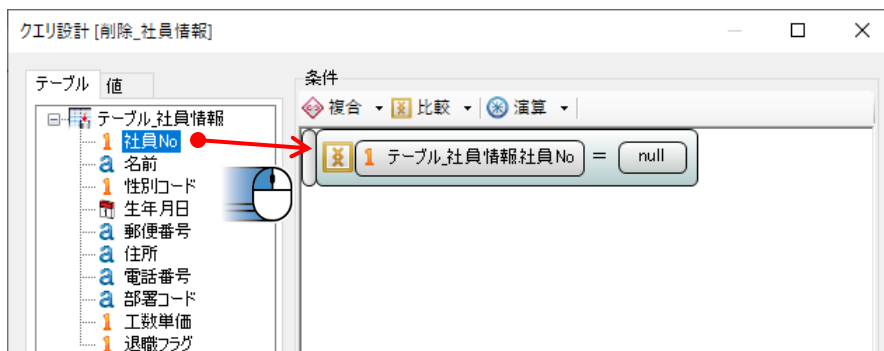


削除クエリ部品のダブルクリック、または部品オブジェクトメニューの  ボタンをクリックして「クエリ設計」画面を開きます



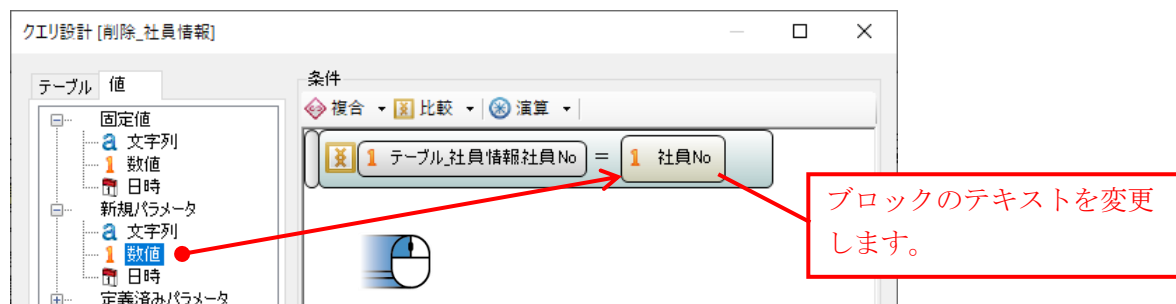
名称	概要
①フィールドツリー /値ツリー	「テーブル」タブ（フィールドツリー）はデータストア内にあるテーブルと設定されたフィールドを一覧表示し、「値」タブ（値ツリー）は検索条件式に使用する固定値などの値を一覧表示します。
②数式エディタ	クエリの対象とする条件を指定します。 「フィールドツリー/値ツリー」からフィールドや固定値などのブロックを配置し、演算子などブロックを組み立てて条件式を作成します。

指定した条件でデータを削除する場合は、「数式エディタ」に条件式を作成します。
フィールドツリーから「社員 No.」を選択し、「数式エディタ」にブロックを配置します。



削除の条件となる「社員 No.」は【画面一覧】のリスト部品で選択している行のデータを使用します。画面から条件を渡す場合は、検索クエリと同じく「新規パラメータ」を使用します。

「値ツリー」を開き、「新規パラメータ」の「数値」を「比較 (=)」ブロックの右辺に代入します。



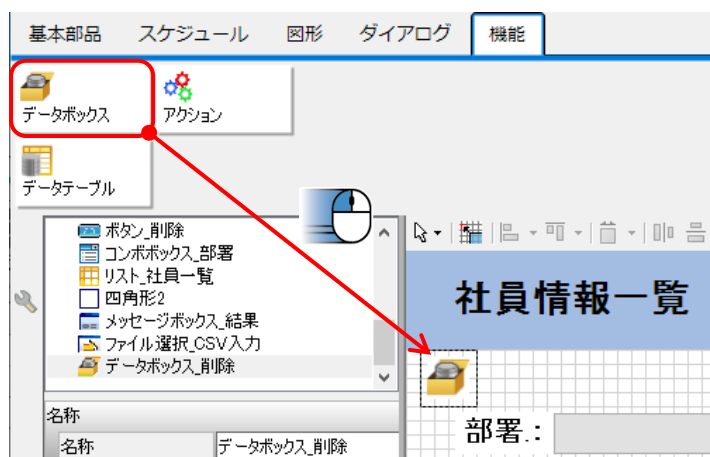
3.2 データの一時保持

【画面_一覧】のリスト部品で選択している行のデータを保持する部品を作成します。

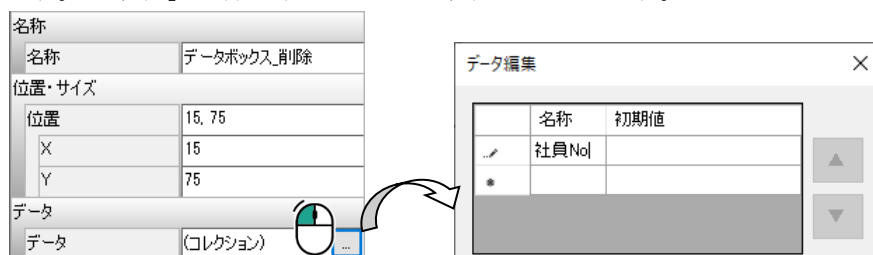
画面（ダイアログ）にデータを表示する場合はラベル部品やリスト部品を使用しますが、表示させたくないデータを画面で持つ場合は「データボックス」部品を使用します。

「データボックス」部品は引き出しの付いた小物入れのようなもので、データは1つの引き出し（項目）に対して1つのデータを入れることができます。

【ダイアログ_登録】のオブジェクト編集エリアに、部品パレットの「機能」から「データボックス」部品を配置します。



「データ」プロパティの [...] ボタンをクリックし、データ編集画面で引き出しとなる項目を作成します。「名称」に保持するデータの名称を入力します。

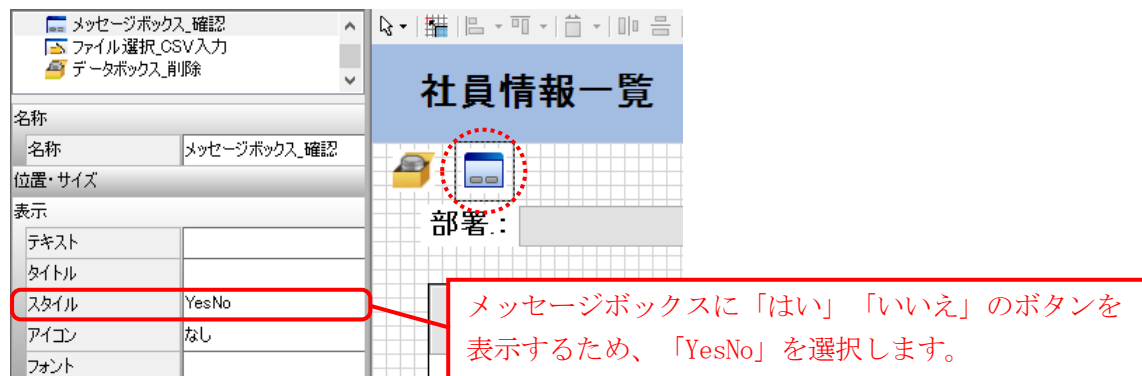


3.3 削除動作の設定

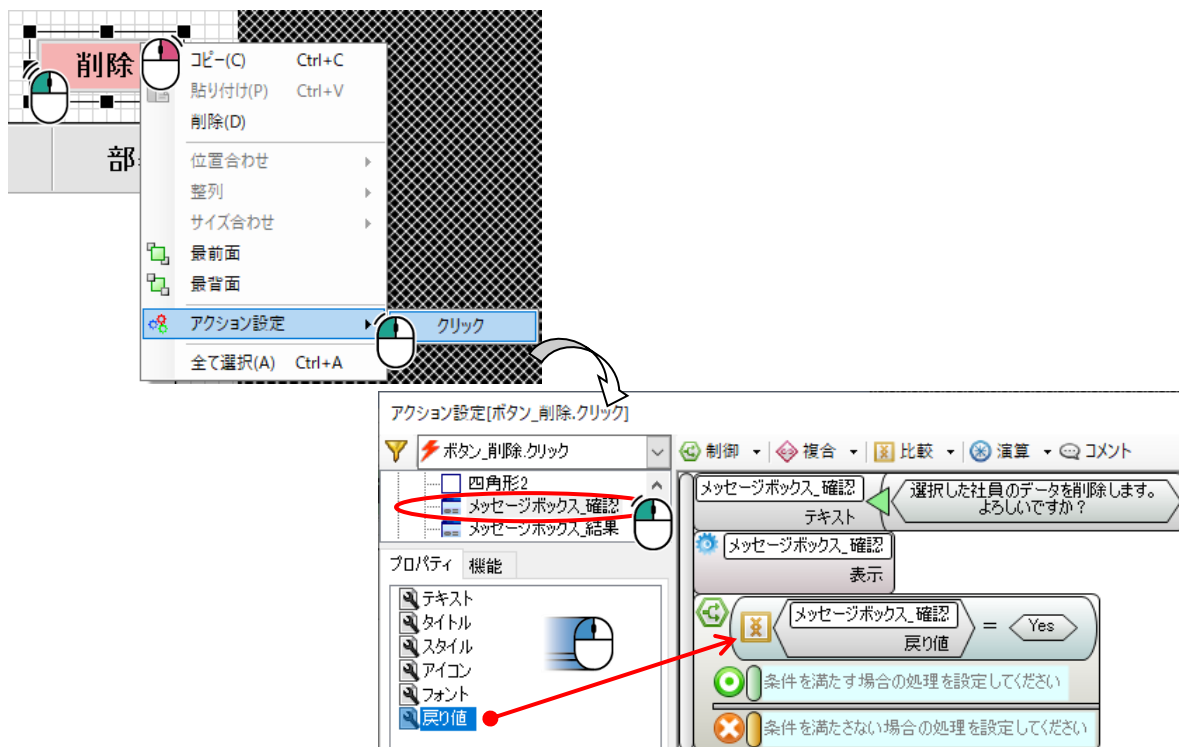
リスト部品で選択している行からデータを取得し、削除クエリを実行する動作を作成します。

初めに、削除を行うかの確認メッセージ表示の動作を作成するため、メッセージボックス部品を【画面_一覧】のオブジェクト編集エリアに配置します。

※削除クエリでデータを削除すると元に戻すことができないため、必ずメッセージ表示で操作を確認する処理を入れましょう。

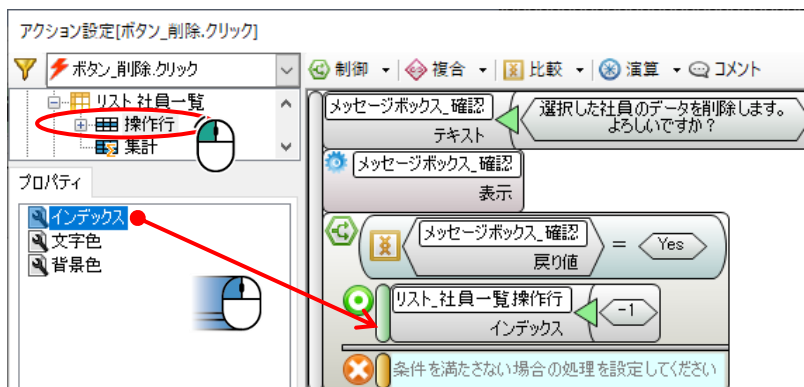


【画面_一覧】に配置した「削除」ボタン部品のクリックイベントのアクション設定画面を開き、メッセージボックスの処理を作成します。

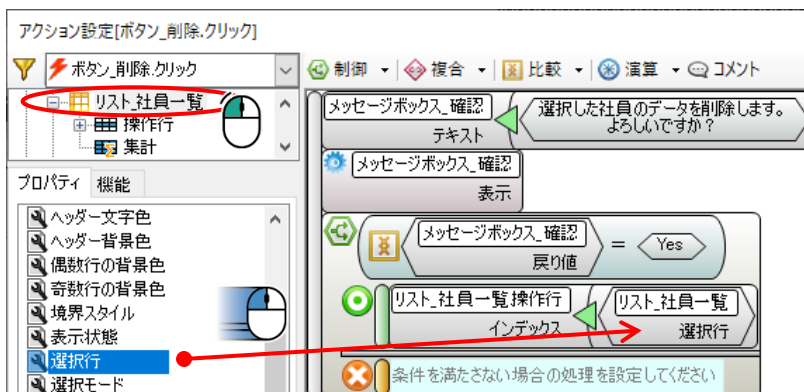


以降の処理は「分岐」ブロックの条件を満たす場合に作成します。

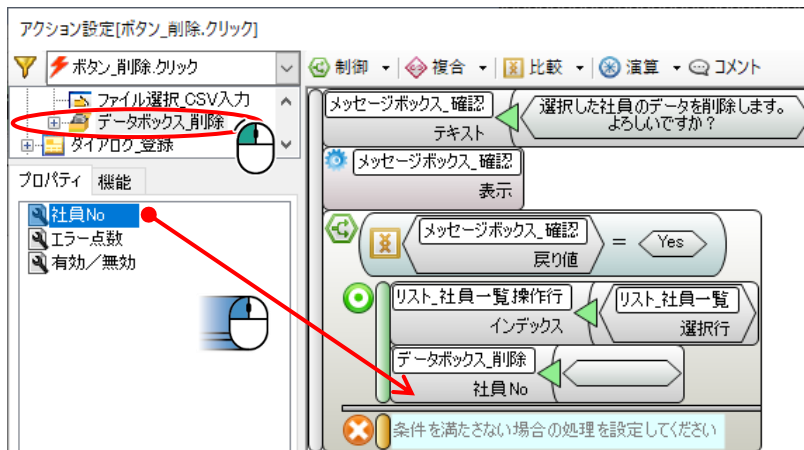
【画面_一覧】の【リスト_社員一覧】のプロパティから「操作行」を選択します。プロパティから「インデックス」ブロックを配置します。



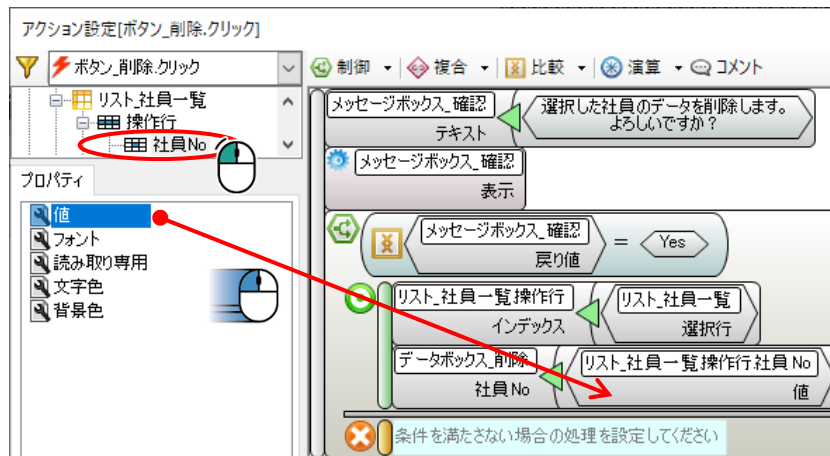
【リスト_社員一覧】のプロパティから「選択行」を選択し、「インデックス」ブロックに代入します。



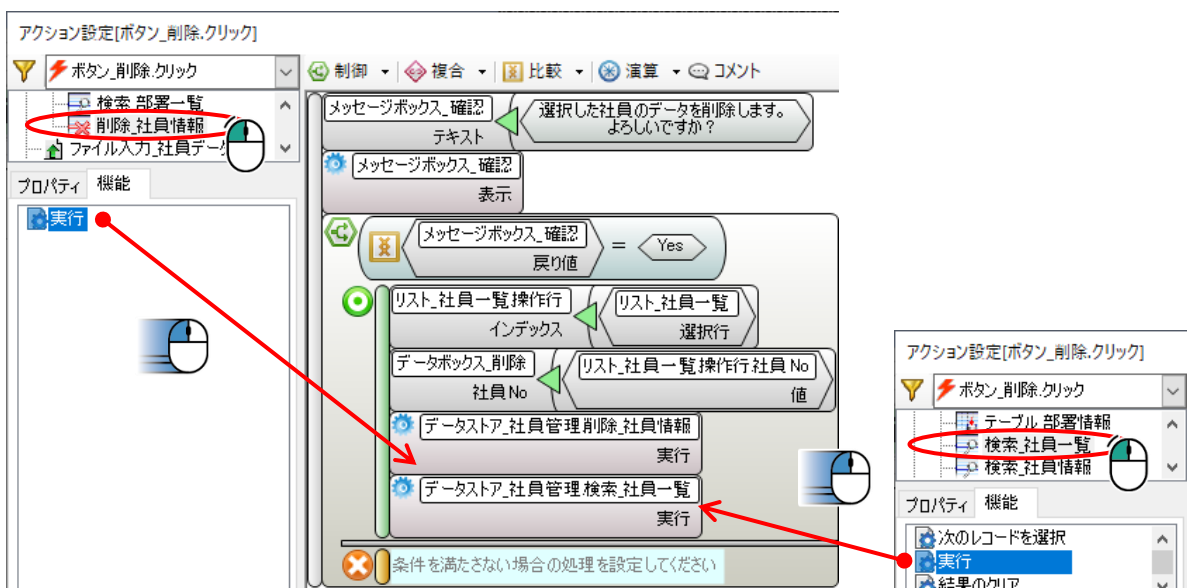
次に、リスト部品から取得するデータをデータボックス部品に渡すため、【データボックス_削除】のプロパティから「社員 No」（データボックス部品のデータ編集画面で入力した名称が表示されます）ブロックを配置します。



再び【リスト_社員一覧】の「操作行」を表示し、「操作行」の横に表示されている「+」ボタンをクリックします。表示された列の中から「社員 No」を選択し、「値」プロパティのブロックを、配置されている【テキストボックス_社員 No】の「テキスト」ブロックに代入します。



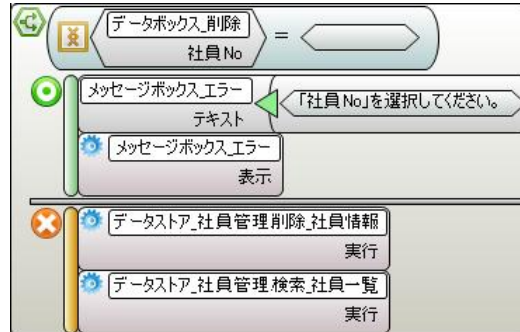
【データストア_社員管理】の【削除_社員情報】の機能から「実行」ブロックを配置し、削除クエリ実行後、リストの表示が更新されるように【検索_社員一覧】の機能から「実行」ブロックを配置します。





削除クエリに渡す削除条件が空の状態でもクエリ実行すると、全てのデータが削除されてしまいます。

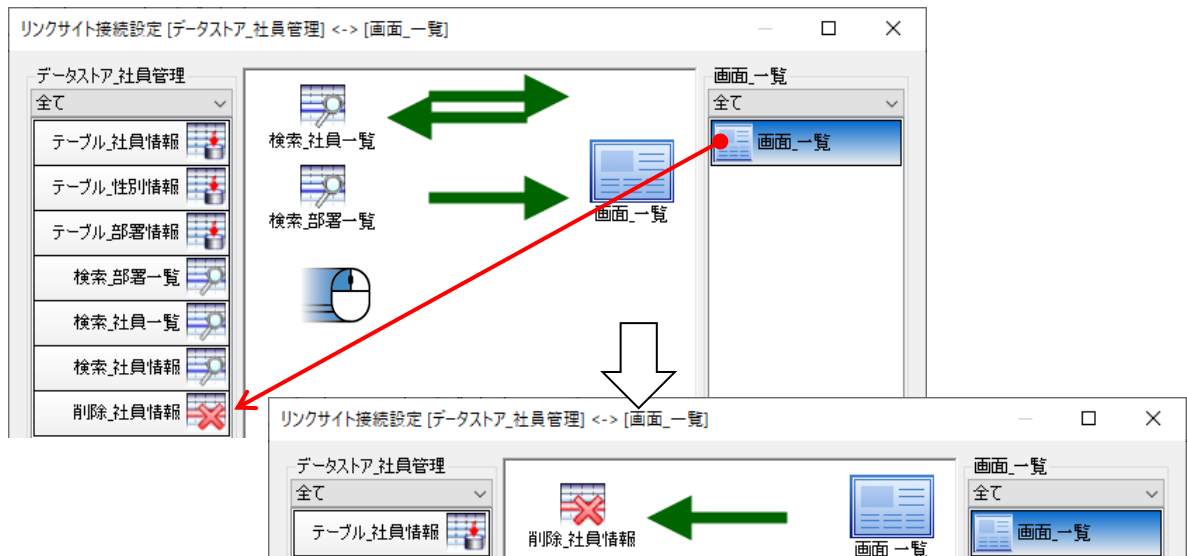
削除条件が空になる処理がある場合は、クエリ実行前に削除条件が空でないかをチェックする動作を作成しましょう。



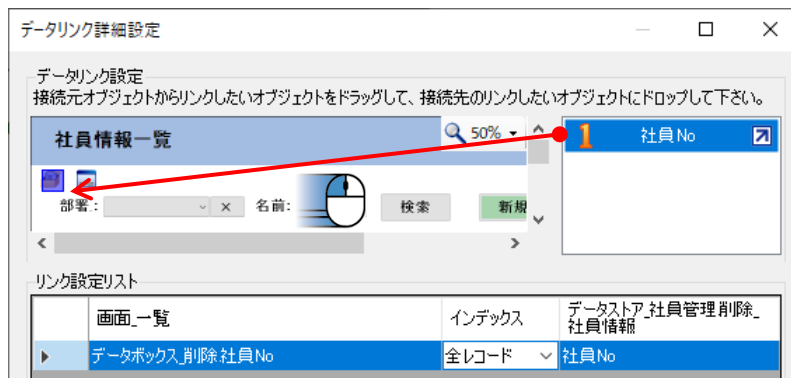
3.4 データリンクの設定

削除クエリに画面から削除条件を渡すデータリンクを作成します

【データストア_社員管理】から【画面_一覧】に接続されているデータリンクコネクタからリンクサイト接続設定画面を開き、【画面_一覧】から【削除_社員情報】にドラッグ&ドロップでコネクタを繋ぎます。



繋いだコネクタからデータリンク詳細設定画面を開き、更新条件の「社員 No（新規パラメータ）」とデータボックス部品の「社員 No」にリンクを設定します。



3.5 動作の確認

データ削除の動作確認を行きましょう。

一覧画面を開き、削除する行を選択し、「削除」ボタンをクリックします。



社員情報一覧

メニュー画面

部署: × 名前: 検索 新規 編集 削除

社員No.	名前	性別	生年月日	郵便番号	住所	電話番号	部
1	山田 太郎	男性	1975/01/01	000-0001	岐阜県岐阜市	058-000-0000	人事部
2	加藤 花子	女性	1968/02/02	000-2222	愛知県豊田市	080-000-0000	人事部
3	佐藤 大輔	男性	1970/03/03	000-0003	愛知県豊田市	0565-00-0000	経理部
4	鈴木 春奈			000-0004	岐阜県関市	0575-00-0000	
5	田中 信二			000-0005	愛知県知立市	0566-00-0000	
6	木村 孝也			000-0006	愛知県豊田市	0596-00-0000	

CSV入力 CSV出力

確認のメッセージボックスが表示されます。

[はい(Y)]をクリックします。



社員情報一覧

メニュー画面

部署: × 名前: 検索 新規 編集 削除

社員No.	名前	性別	生年月日	郵便番号	住所	電話番号	部
1	山田 太郎	男性	1975/01/01	000-0001	岐阜県岐阜市	058-000-0000	人事部
2	加藤 花子	女性	1968/02/02	000-2222	愛知県豊田市	080-000-0000	人事部
3	佐藤 大輔	男性	1970/03/03	000-0003	愛知県豊田市	0565-00-0000	経理部
4	鈴木 春奈			000-0004	岐阜県関市	0575-00-0000	
5	田中 信二			000-0005	愛知県知立市	0566-00-0000	
6	木村 孝也			000-0006	愛知県豊田市	0596-00-0000	

選択した社員データを削除します。
よろしいですか?

はい(Y) いいえ(N)

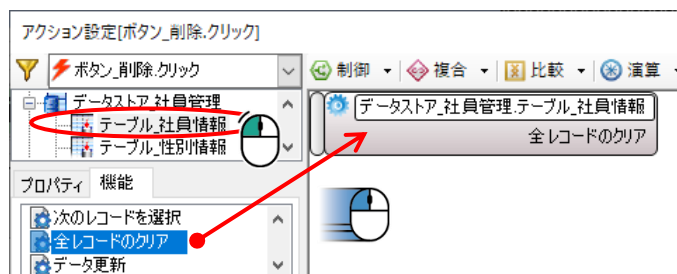
CSV入力 CSV出力

リストで選択した行のデータが削除され、表示が更新されることを確認します。

社員No.	名前	性別	生年月日	郵便番号	住所	電話番号	部
1	山田 太郎	男性	1975/01/01	000-0001	岐阜県岐阜市	058-000-0000	人事部
2	加藤 花子	女性	1968/02/02	000-2222	愛知県豊田市	080-000-0000	人事部
3	佐藤 大輔	男性	1970/03/03	000-0003	愛知県豊田市	0565-00-0000	経理部
5	田中 信二			000-0005	愛知県知立市	0566-00-0000	
6	木村 孝也			000-0006	愛知県豊田市	0596-00-0000	



全データを削除する場合は、検索クエリに削除条件を設定しないか、アクション設定でテーブルの機能から「全レコードのクリア」を設定します。



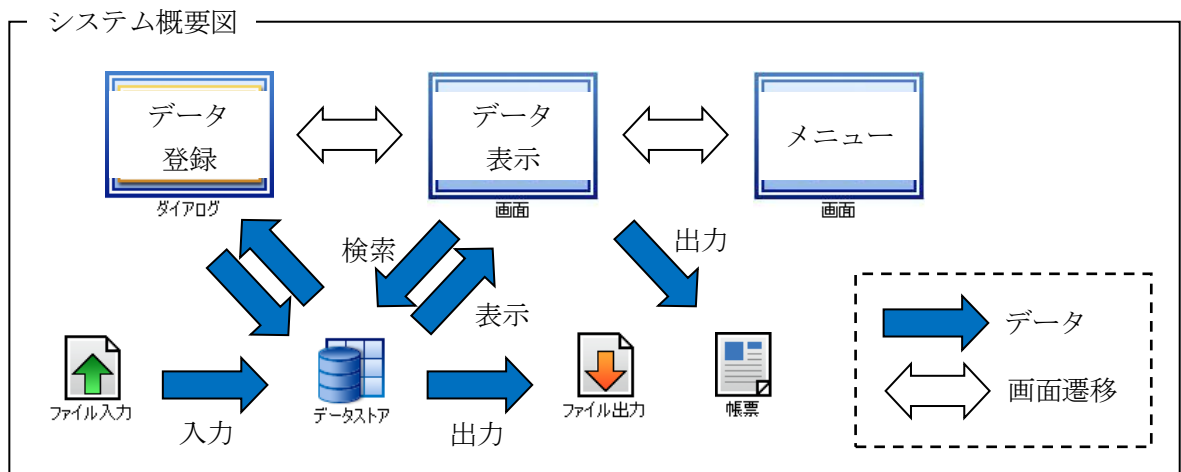
削除したデータは元に戻せない為、必要な場合は CSV ファイルに出力するなどバックアップ機能を作成し、注意して削除してください。

第5章 帳票の印刷

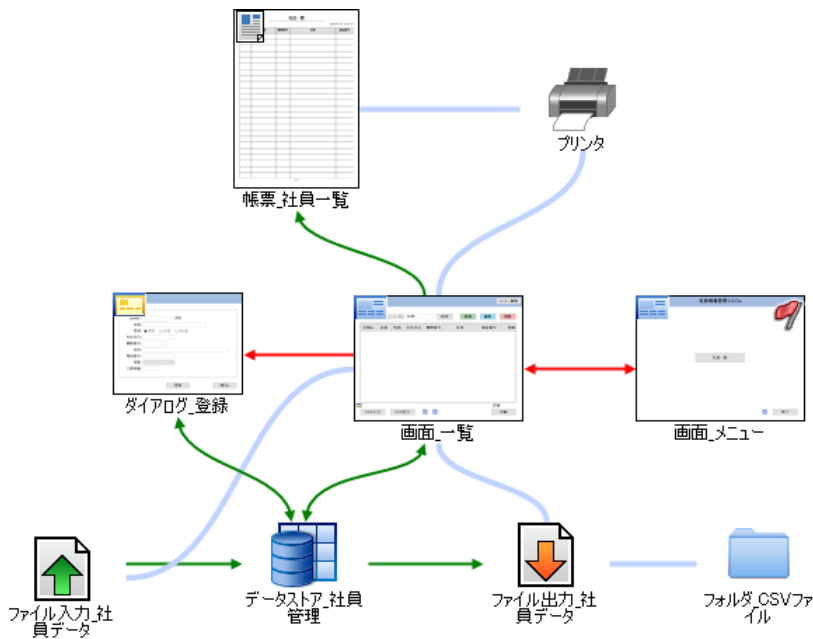
画面に表示されたリスト部品から複数のデータを印刷する場合は、「帳票」オブジェクトの繰り返し機能を使用してリスト形式の帳票が作成できます。

本章では、「画面に表示した複数データを帳票に印刷する」機能を作成しながら、リストの印刷と画面からプリンタを設定する方法について説明します。

※帳票プラグインがインストールされていない場合は『第6章 Excel ファイルの』まで、Excel プラグインがインストールされていない場合は『第7章 ドキュメントの作成』までスキップしてください。



<オブジェクト関連図>



<アプリケーション起動時>

社員情報一覧

メニュー画面

部署: × 名前: 検索

社員No.	名前	性別	生年月日	郵便番号	住所	電話番号	
1	山田 太郎	男性	1975/01/01	000-0001	岐阜県岐阜市	058-000-0000	人
2	木村 花子	女性	1968/02/02	000-2222	愛知県豊田市	080-000-0000	人
3	佐藤 大輔	男性	1970/03/03	000-0003	愛知県豊田市	0565-00-0000	経
4	鈴木 春奈			000-0004	岐阜県関市	0575-00-0000	
5	田中 信二			000-0005	愛知県知立市	0566-00-0000	
6	木村 孝也			000-0006	愛知県豊田市	0566-00-0000	
7	永井 真伍			000-0007	岐阜県関市	0575-00-0000	
8	岸 徹			000-0008	愛知県知立市	0566-00-0000	
9	小泉 幸穂美			000-0009	愛知県豊田市	090-0000-0000	
10	柏木 秀樹			000-0010	愛知県小牧市	0565-00-0000	

件数: 40



社員一覧

2024/08/28 11:20:58

社員No.	名前	郵便番号	住所	電話番号
1	山田 太郎	000-0001	岐阜県岐阜市	058-000-0000
2	木村 花子	000-2222	愛知県豊田市	080-000-0000
3	佐藤 大輔	000-0003	愛知県豊田市	0565-00-0000
4	鈴木 春奈	000-0004	岐阜県関市	0575-00-0000
5	田中 信二	000-0005	愛知県知立市	0566-00-0000
6	木村 孝也	000-0006	愛知県豊田市	0566-00-0000
7	永井 真伍	000-0007	岐阜県関市	0575-00-0000
8	岸 徹	000-0008	愛知県知立市	0566-00-0000
9	小泉 幸穂美	000-0009	愛知県豊田市	090-0000-0000
10	柏木 秀樹	000-0010	愛知県小牧市	0565-00-0000
11	山崎 隆二	000-0011	愛知県名古屋府	0565-00-0000
12	佐藤 健	000-0012	愛知県名古屋府	0567-00-0000
13	佐藤 健	000-0013	愛知県名古屋府	0565-00-0000
14	山田 信二	000-0014	愛知県名古屋府	0567-00-0000
15	山崎 隆二	000-0015	愛知県名古屋府	0565-00-0000
16	山崎 隆二	000-0016	愛知県名古屋府	0565-00-0000
17	山崎 隆二	000-0017	愛知県名古屋府	0565-00-0000
18	山崎 隆二	000-0018	愛知県名古屋府	0565-00-0000
19	山崎 隆二	000-0019	愛知県名古屋府	0565-00-0000
20	山崎 隆二	000-0020	愛知県名古屋府	0565-00-0000
21	山崎 隆二	000-0021	愛知県名古屋府	0565-00-0000
22	山崎 隆二	000-0022	愛知県名古屋府	0565-00-0000
23	山崎 隆二	000-0023	愛知県名古屋府	0565-00-0000
24	山崎 隆二	000-0024	愛知県名古屋府	0565-00-0000

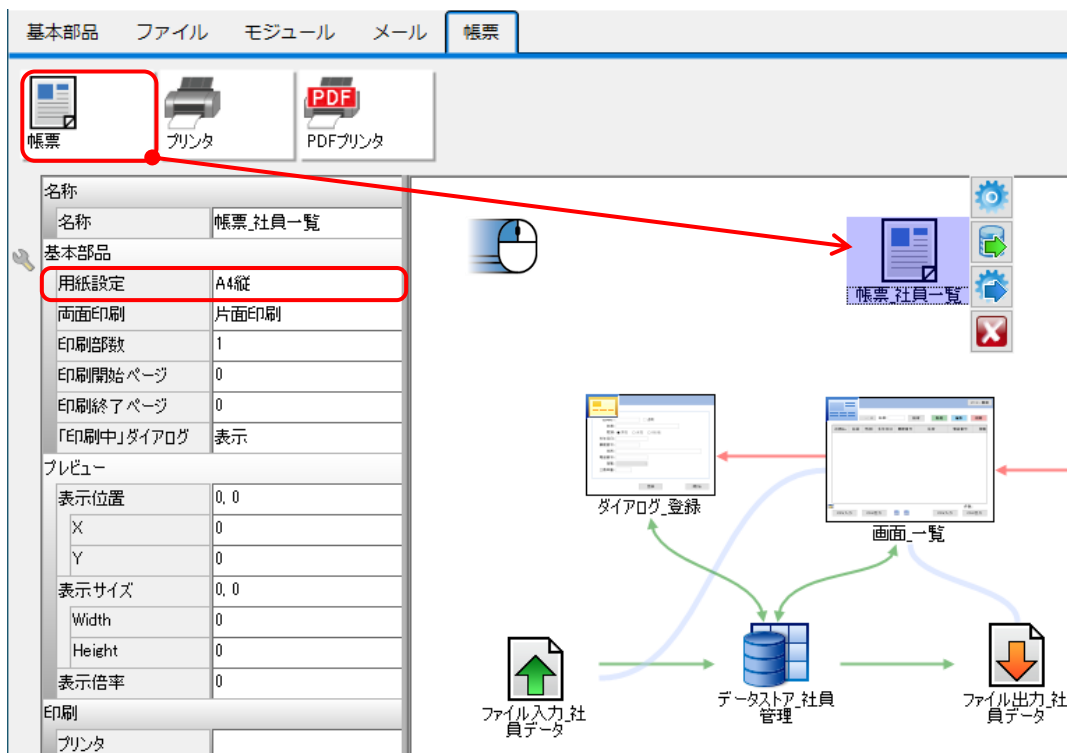
1 帳票の作成

【画面_一覧】のリスト部品に表示したデータを、「帳票」オブジェクトを使用して印刷します。

複数データを印刷するために、「セクション」と「繰り返し」の機能を使用して帳票にリストを作成します。

1.1 オブジェクトの配置

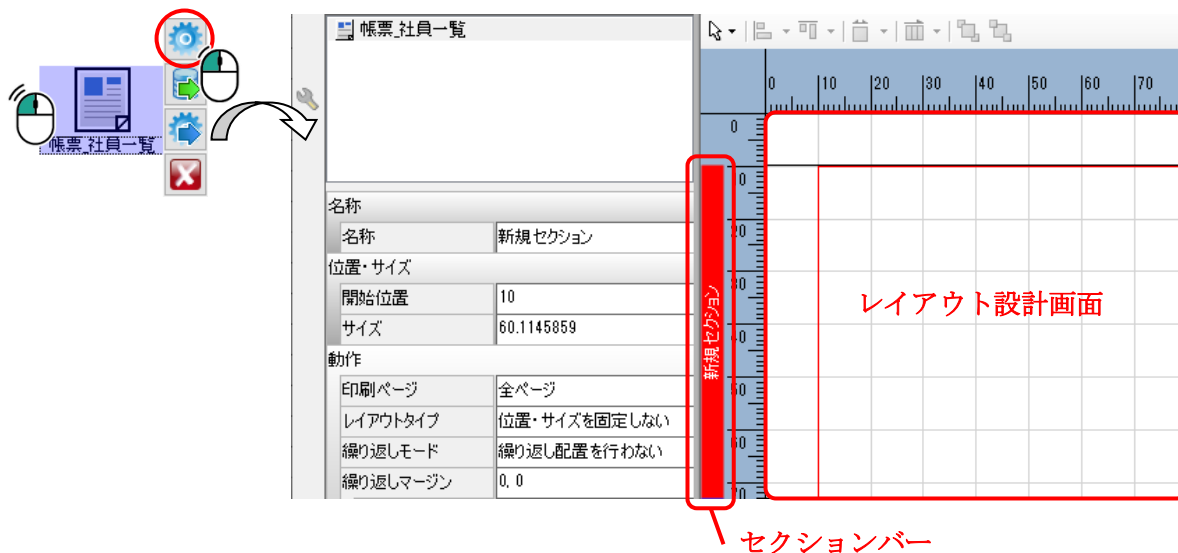
オブジェクト関連図に「帳票」オブジェクトを配置し、「用紙設定」プロパティより印刷する用紙のサイズや余白の設定をします。



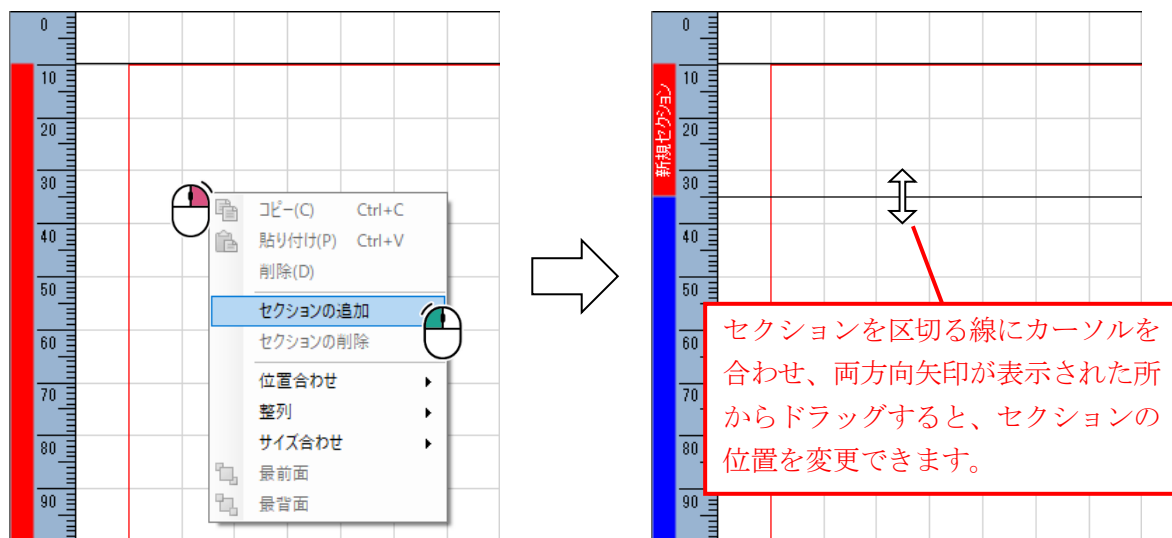
1.2 セクションの分割

帳票はレイアウト設計画面を「セクション」で分割することで、ページごとにヘッダー・フッターを付けての印刷や、データ件数に合わせて表の長さを変えて印刷できます。

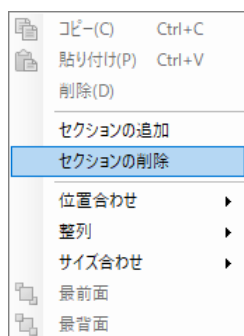
複数データをリスト形式で印刷する場合は、「タイトルを印刷するセクション」「項目名を印刷するセクション」「データを印刷するセクション」「ページ数を印刷するセクション」に分けて作成します。



帳票のオブジェクト編集画面を開き、レイアウト設計画面内にカーソルを合わせて右クリック、[セクションの追加]を選択すると、右クリックした位置に新規セクションが追加されます。



セクションを削除する場合は、削除するセクション内にカーソルを合わせて右クリック、[セクションの削除]を選択すると削除できます。



同様の操作で4つのセクションを作成し、各セクションの「名称」プロパティを上から「タイトル」「項目名」「データ」「ページ」に変更します。

セクション内をクリックするとセクションのプロパティ情報を表示できます。

タイトル

項目名

データ

ページ



帳票全体のプロパティを表示する場合は、ルーラーをクリックします。

ルーラー

帳票_社員一覧

名称
名称 帳票_社員一覧

基本部品

用紙設定	A4縦
両面印刷	片面印刷
印刷部数	1
印刷開始ページ	0
印刷終了ページ	0

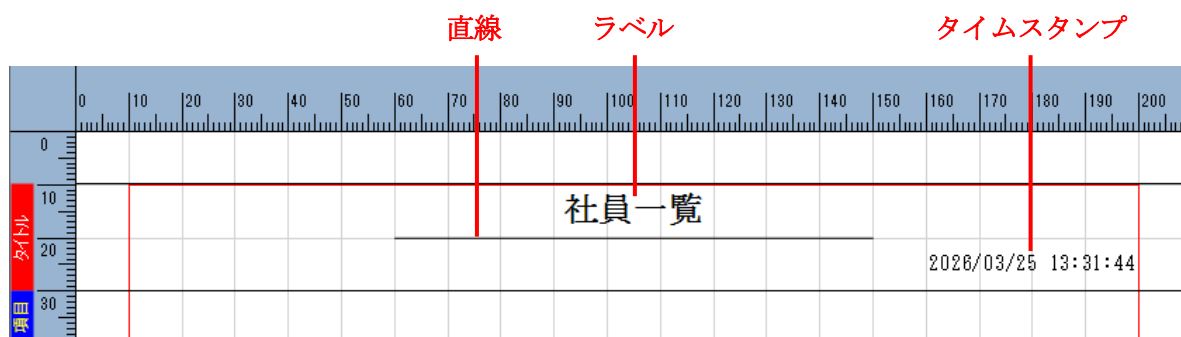
1.3 タイトルのセクション

【タイトル】セクションに帳票の表題や印刷日時など、ヘッダーになる部分のレイアウトを作成します。

<手順>

- ① 【タイトル】セクション内にラベル部品、タイムスタンプ部品を配置します。
- ② 部品の「名称」プロパティに分かりやすい名称を設定します。
- ③ ラベル部品の「テキスト」プロパティに「社員一覧」と入力し、「書式」「テキスト配置」などのプロパティを設定します。
- ④ タイムスタンプ部品の「書式」プロパティから形式を設定します。
- ⑤ 直線部品などを配置して装飾を行います。

<レイアウト例>



1.3.1 印刷ページの設定

セクションプロパティの「印刷ページ」「レイアウトタイプ」「繰り返しモード」をセクションごとに設定することで、様々な形式の帳票に対応することができます。

【タイトル】セクションを表紙のみに印刷する設定にしてみましょう。

「印刷ページ」プロパティを「表紙のみ」に設定することで、印刷時に1ページ目にのみ【タイトル】セクションが印刷されます。

名称	タイトル
位置・サイズ	
開始位置	10
サイズ	20
動作	
印刷ページ	表紙のみ
レイアウトタイプ	位置・サイズを固定しない
繰り返しモード	繰り返し配置を行わない
繰り返しマージン	0, 0
Width	0
Height	0
繰り返し最大レコード	0
空白レコードの印刷	無効
偶数レコードの背景	
奇数レコードの背景	

1.4 項目名のセクション

【画面_一覧】のリスト部品から帳票に印刷するデータ項目を選び、【項目名】セクションに項目を作成します。

<手順>

- ① 【項目名】セクション内にラベル部品を配置します。
- ② 部品の「名称」プロパティに分かりやすい名称を設定します。
- ③ ラベル部品の「テキスト」プロパティに項目名を入力し、「書式」「境界線スタイル」「背景色」などのプロパティを設定します。
- ④ 部品のサイズを調整して、ツールバーの「選択アイテムを水平方向に並べる」で横並びに整列させます。

<レイアウト例>

0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110	120	130	140	150	160	170	180	190	200
0	社員一覧																			
10	2026/03/25 13:28:00																			
20																				
30	社員No.	名前	郵便番号	住所	電話番号															
40																				

ラベル

1.4.1 レイアウトタイプの設定

『第5章 1.3.1 印刷ページの設定』で【タイトル】セクションの印刷ページプロパティを「表紙のみ」に設定し、2ページ目以降に【タイトル】セクションが印刷されなくなりました。

ここでは、印刷されないセクションのスペースを、その下のセクションで埋めて印刷する時の設定を行います。

設定は「レイアウトタイプ」プロパティから行います。

初期設定の「位置・サイズを固定しない」は、セクションの上のスペースが空いた場合にセクションの開始位置が空いたスペースに移動し、セクションのサイズが広がる設定です。

【項目名】セクションのようにサイズを広げる必要がなく、位置のみ移動させたい場合は「サイズを固定」を選択すると、セクションサイズはそのままに位置のみが変わります。

名称	
名称	項目
位置・サイズ	
開始位置	30
サイズ	10
動作	
印刷ページ	全ページ
レイアウトタイプ	サイズを固定
繰り返しモード	繰り返し配置を行わない
繰り返しマージン	0, 0
Width	0
Height	0
繰り返し最大レコード	0

1 ページ目

社員一覧				
社員No.	名前	郵便番号	住所	電話番号

2 ページ目

社員No.	名前	郵便番号	住所	電話番号
-------	----	------	----	------

1.5 データのセクション

【データ】セクションに複数データがリスト形式で印刷されるようにします。
帳票のレイアウトとセクションのプロパティ設定によりリスト形式の印刷が可能です。

<手順>

- ① 【項目名】セクション内に配置したラベル部品を全て選択した状態でコピーし、【データ】セクションにペーストします。
- ② 部品の「名称」プロパティに分かりやすい名称を設定します。
- ③ ラベル部品の「テキスト」プロパティに入力されている文字を消し、「背景色」「テキスト配置」などのプロパティを変更します。

<レイアウト例>

社員一覧				
2026/03/25 13:27:19				
社員No.	名前	郵便番号	住所	電話番号

1.5.1 繰り返しモードの設定

帳票には専用の機能として、「繰り返しモード」があります。

「繰り返しモード」プロパティを設定することで、印刷するデータの件数やセクションのサイズに合わせて部品を水平方向または垂直方向に繰り返し配置します。

ここでは、リスト形式で印刷されるように「垂直配置」を選択します。

セクションの上のスペースが空いた場合にセクションのサイズが広がるように、レイアウトプロパティは「位置・サイズを固定しない」にします。

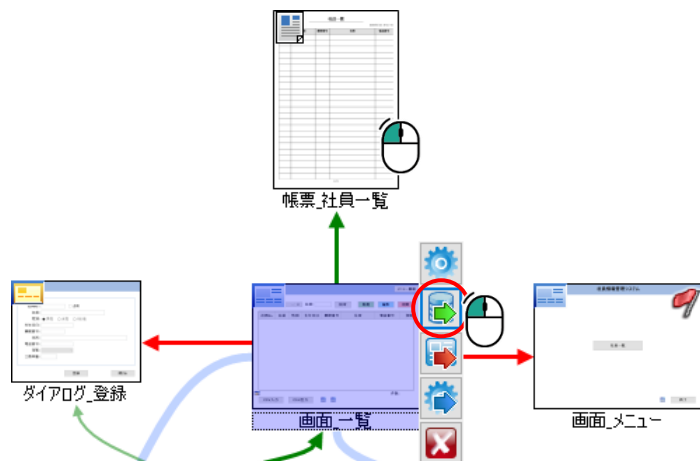
繰り返しされる件数は渡すデータ件数で変わりますが、「空白レコードの印刷」プロパティを「有効」にすると、セクションのサイズに合わせて空の部品が繰り返されます。

2 一覧画面と帳票を繋ぐ

印刷するデータを帳票オブジェクトへ渡すための設定を行います。

データをどこに印字するかは「データリンク設定」で設定し、印刷の動作はボタンのクリックイベントにアクション設定します。

まずは、「データリンクコネクタ」で【画面_一覧】と【帳票_社員一覧】を接続します。



2.1 データリンク設定

【画面_一覧】から【帳票_社員一覧】へのデータリンクコネクタをダブルクリックして、データリンク詳細設定画面を表示します。

画面のリスト部品と帳票のラベル部品をドラッグ&ドロップでリンク設定します。

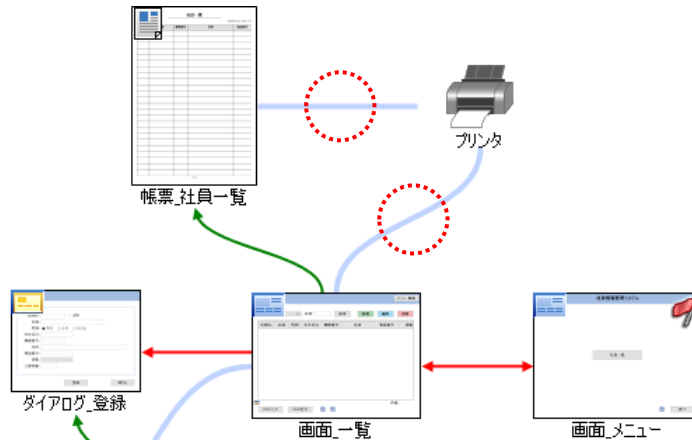
画面_一覧	インデックス	帳票_社員一覧
リスト_社員一覧_社員No	全レコード	ラベル_社員No
リスト_社員一覧_住所	全レコード	ラベル_住所
リスト_社員一覧_電話番号	全レコード	ラベル_電話番号
リスト_社員一覧_名前	全レコード	ラベル_名前
リスト_社員一覧_郵便番号	全レコード	ラベル_郵便番号

3 出力先の設定

プリンタオブジェクトと画面オブジェクトを参照コネクタで接続することで、画面からプリンタの設定が行えます。

オブジェクト関連図に「プリンタ」オブジェクトを配置し、【画面_一覧】と「参照コネクタ」で接続します。

プリンタの設定を帳票で参照するために、【帳票_社員一覧】と「参照コネクタ」で接続します。



4 画面のレイアウト

【画面_一覧】から帳票印刷が行えるように、画面のレイアウトを行います。印刷を実行するボタン部品を配置します。

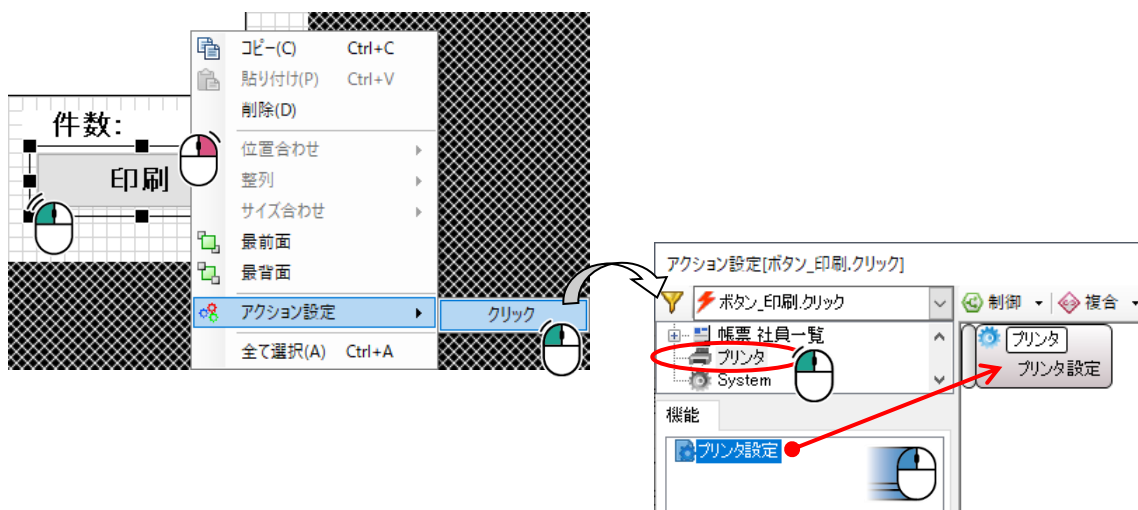
<レイアウト例>

ボタン

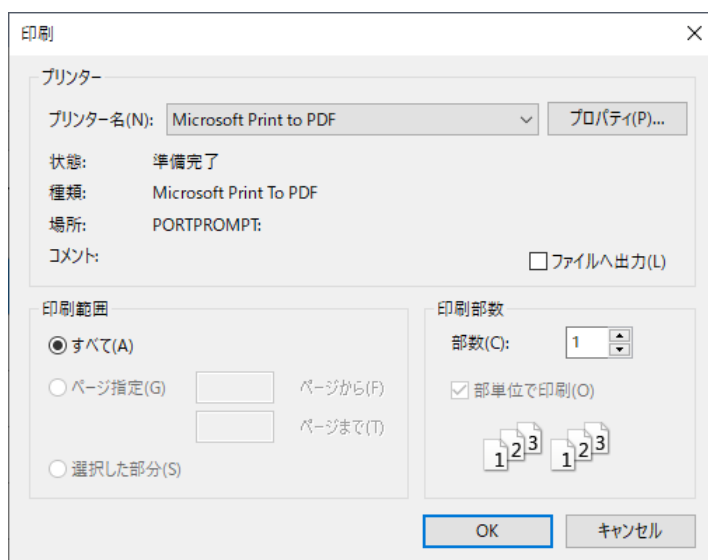
5 動作の設定

プリンタを設定する動作と、帳票を印刷する動作を「印刷」ボタンのクリックイベントに設定します。

アクション設定画面を開き、【プリンタ】の機能から「プリンタ設定」ブロックを配置します。

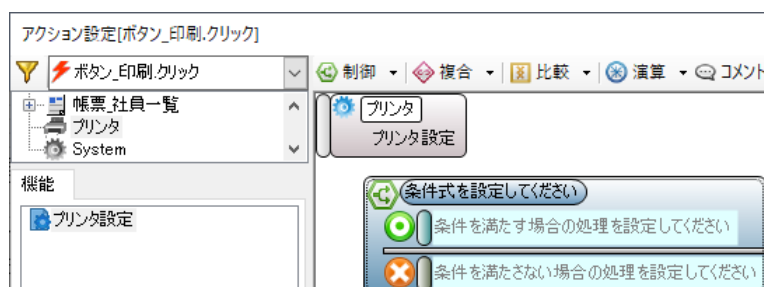


「プリンタ設定」のアクションを実行すると、プリンタの選択と印刷設定を行う画面が表示されます。

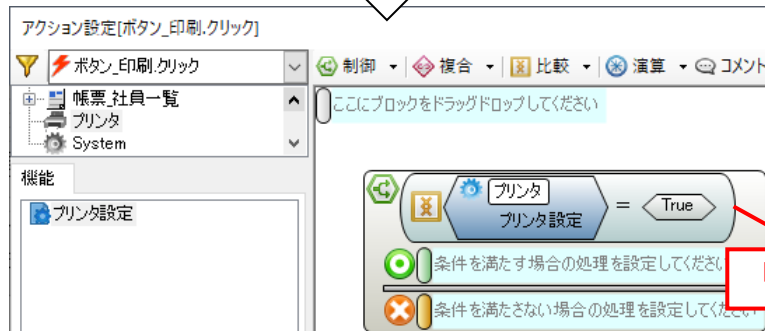
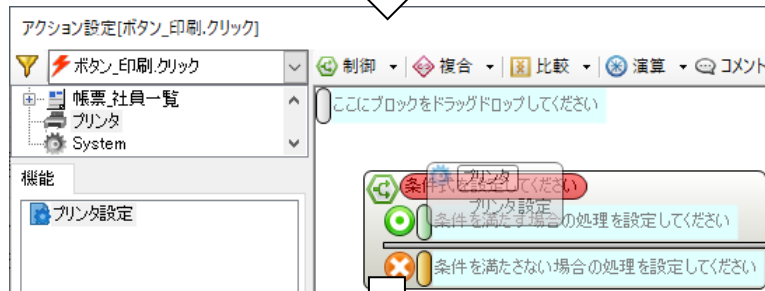
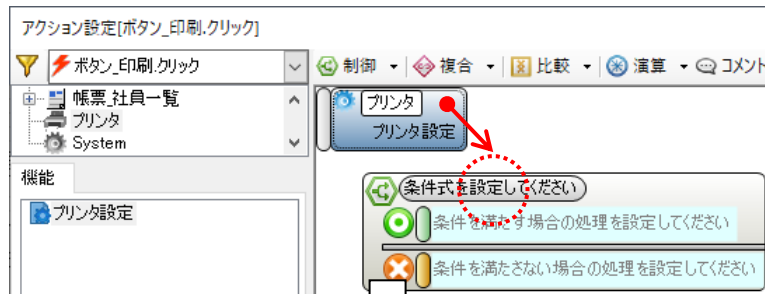


プリンタ設定画面の「OK/キャンセル」のクリック結果は、「プリンタ設定」ブロックから取得することができます。

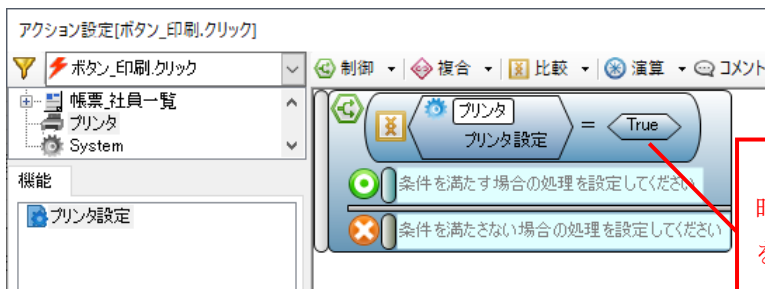
「OK」をクリックした時のみ印刷を実行させたい場合は、「分岐」ブロックを配置して動作を作成します。



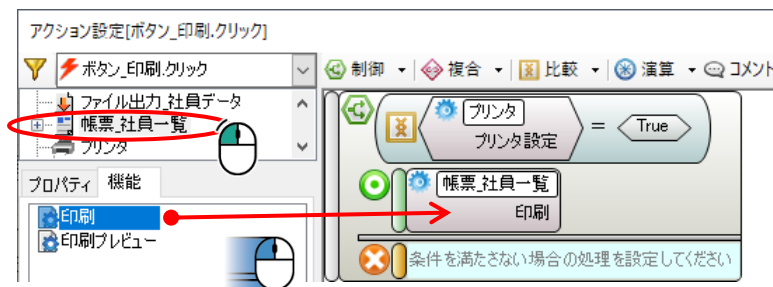
分岐の条件に、先に配置している「プリンタ設定」ブロックを配置します。



「分岐」ブロックを正しい位置に移動します。



条件を満たす場合の処理に、【帳票_社員一覧】の機能から「印刷」ブロックを配置します。



6 動作の確認

帳票印刷の動作確認を行きましょう。

一覧画面を開き、リストに複数のデータが表示されていることを確認し、「印刷」ボタンをクリックします。

社員情報一覧

メニュー画面

部署: [] × 名前: [] 検索 新規 編集 削除

社員No.	名前	性別	生年月日	郵便番号	住所	電話番号	
1	山田 太郎	男性	1975/01/01	000-0001	岐阜県岐阜市	058-000-0000	人
2	木村 花子	女性	1968/02/02	000-2222	愛知県豊田市	080-000-0000	人
3	佐藤 大輔	男性	1970/03/03	000-0003	愛知県豊田市	0565-00-0000	経
4	鈴木 春奈			000-0004	岐阜県関市	0575-00-0000	
5	田中 信二			000-0005	愛知県知立市	0566-00-0000	
6	木村 孝也			000-0006	愛知県豊田市	0596-00-0000	
7	永井 真伍			000-0007	岐阜県関市	0575-00-0000	
8	岸 徹			000-0008	愛知県知立市	0566-00-0000	
9	小泉 奈穂美			000-0009	愛知県豊田市	090-0000-0000	
10	柏木 秀樹			000-0010	愛知県小牧市	0565-00-0000	

件数: 40

CSV入力 CSV出力 印刷

プリンタ設定画面が表示されます。

プリンタを選択し、[OK]をクリックします。

社員情報一覧

メニュー画面

部署: [] × 名前: [] 検索 新規 編集 削除

社員No.	名前	電話番号	
1	山田 太郎	058-000-0000	人
2	木村 花子	080-000-0000	人
3	佐藤 大輔	0565-00-0000	経
4	鈴木 春奈	0575-00-0000	
5	田中 信二	0566-00-0000	
6	木村 孝也	0596-00-0000	
7	永井 真伍	0575-00-0000	
8	岸 徹	0566-00-0000	
9	小泉 奈穂美	090-0000-0000	
10	柏木 秀樹	0565-00-0000	

件数: 40

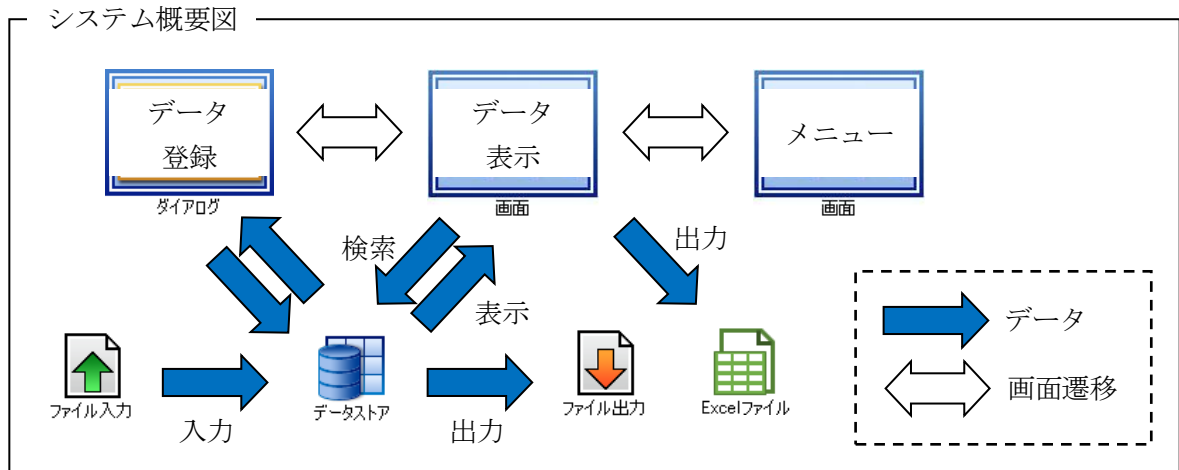
CSV入力 CSV出力 印刷

第6章 Excel ファイルの書き込み

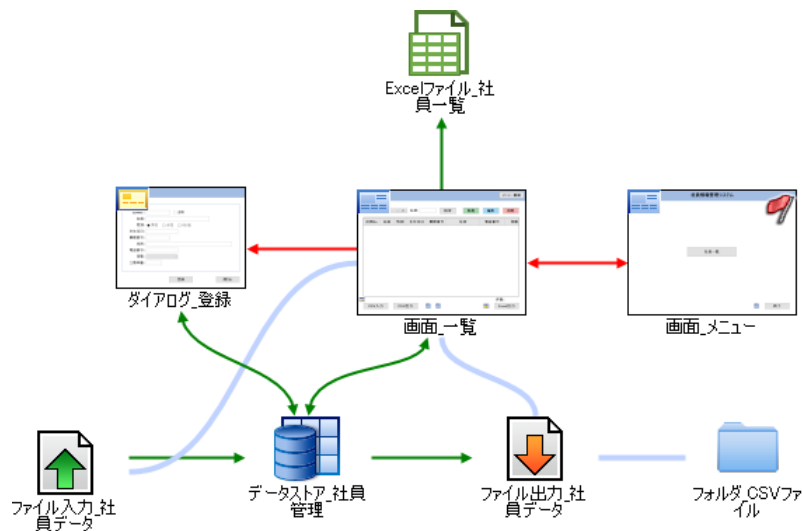
RADEN から Excel ファイルへ出力を行う場合は、「Excel ファイル」オブジェクトを使用します。「Excel ファイル」オブジェクトは、Excel プラグインをインストールすることで使用できるようになります。

本章では、画面に表示したデータを Excel ファイルに書き出します。

※Excel プラグインがインストールされていない場合は、『第7章 ドキュメントの作成』までスキップしてください。



<オブジェクト関連図>



<アプリケーション起動時>

社員情報一覧

部署: [] 名前: [] 検索 [新規] [編集] [削除]

社員No	名前	性別	生年月日	郵便番号	住所	電話番号
1	山田 太郎	男性	1975/01/01	000-0001	岐阜県岐阜市	058-000-0000 人
2	木村 花子	女性	1968/02/02	000-2222	愛知県豊田市	080-000-0000 人
3	佐藤 大輔	男性	1970/03/03	000-0003	愛知県豊田市	0565-00-0000 経
4	鈴木 春奈			000-0004	岐阜県関市	0575-00-0000
5	田中 恒二			000-0005	愛知県知立市	0566-00-0000
6	木村 李也			000-0006	愛知県豊田市	0596-00-0000
7	永井 真伍			000-0007	岐阜県関市	0575-00-0000
8	岸 健			000-0008	愛知県知立市	0566-00-0000
9	小泉 奈穂美			000-0009	愛知県豊田市	090-0000-0000
10	相木 秀樹			000-0010	愛知県小牧市	0565-00-0000

件数: 40
Excel出力

Excel 出力

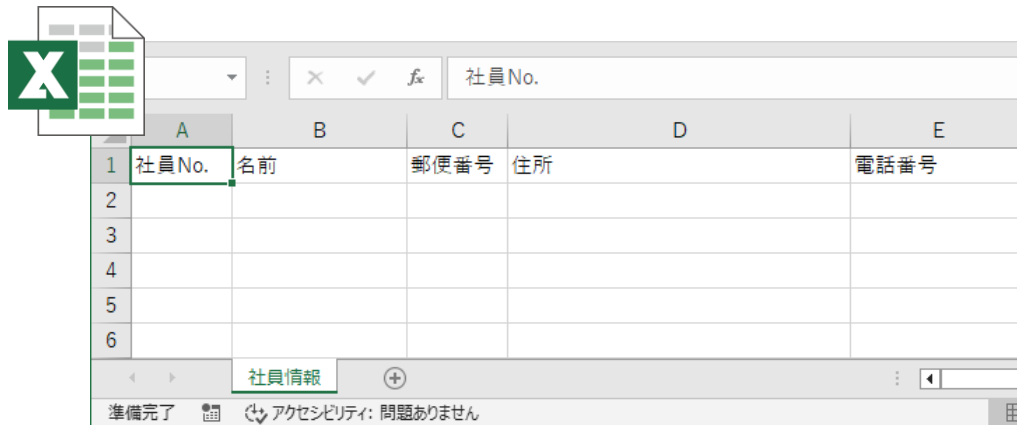


1 Excel ファイルの設定

【画面_一覧】のリスト部品に表示したデータを、「Excel ファイル」オブジェクトを使用して Excel ファイルに出力します。

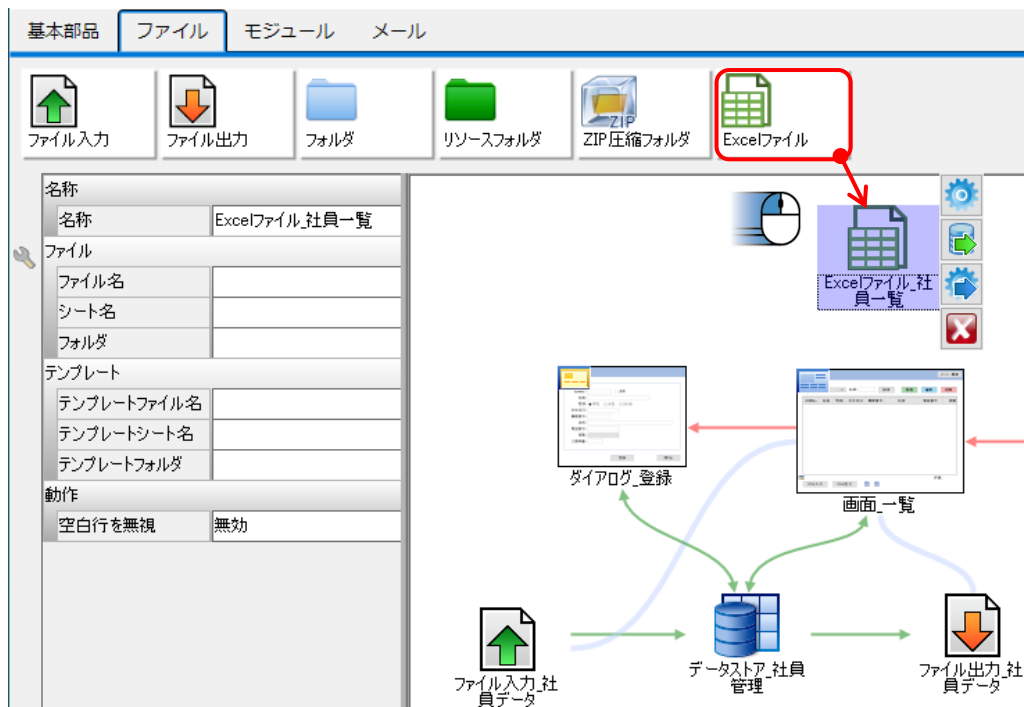
データを出力する場合は事前にひな形となるファイルを作成し、テンプレートファイルとして設定することで指定の形式でデータを出力できます。

【画面_一覧】のリスト部品から出力するデータ項目を選び、項目名を入力した Excel ファイルを用意します。



1.1 オブジェクトの配置

オブジェクト関連図に「Excel」オブジェクトを配置します。

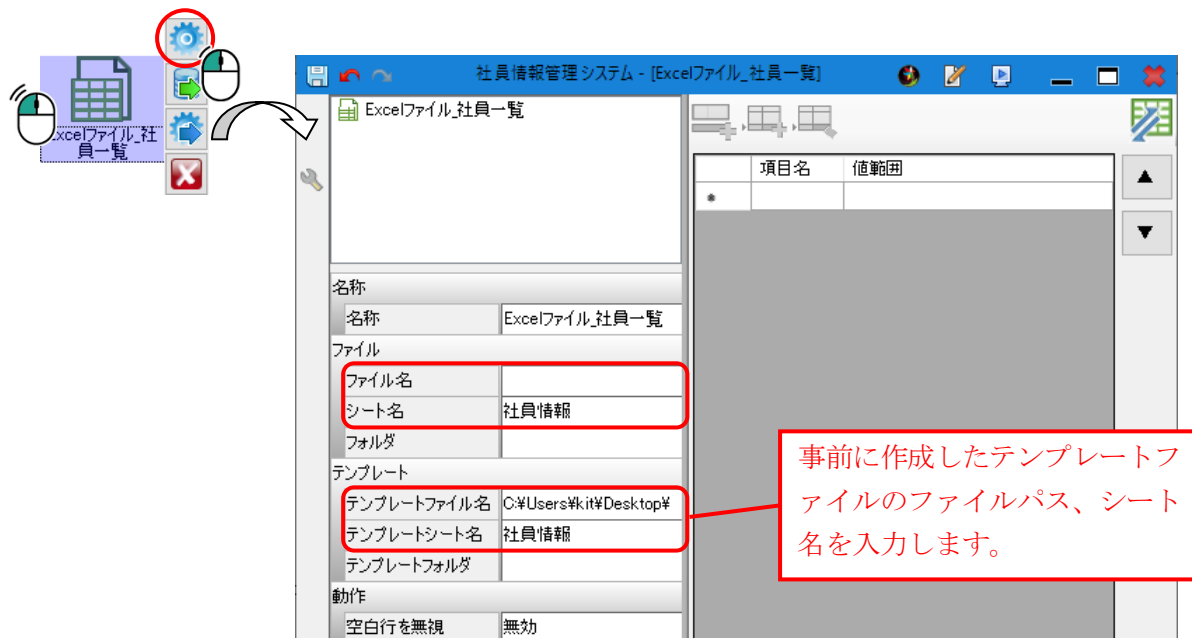


1.2 ファイル出力の設定

Excel ファイル部品は1つのファイルの1つのシートに対して入出力を行うため、「ファイル名」「シート名」の設定が必要です。

ここでは、「シート名」プロパティを設定し、「ファイル名は」出力時に画面から設定するように空の状態にします。

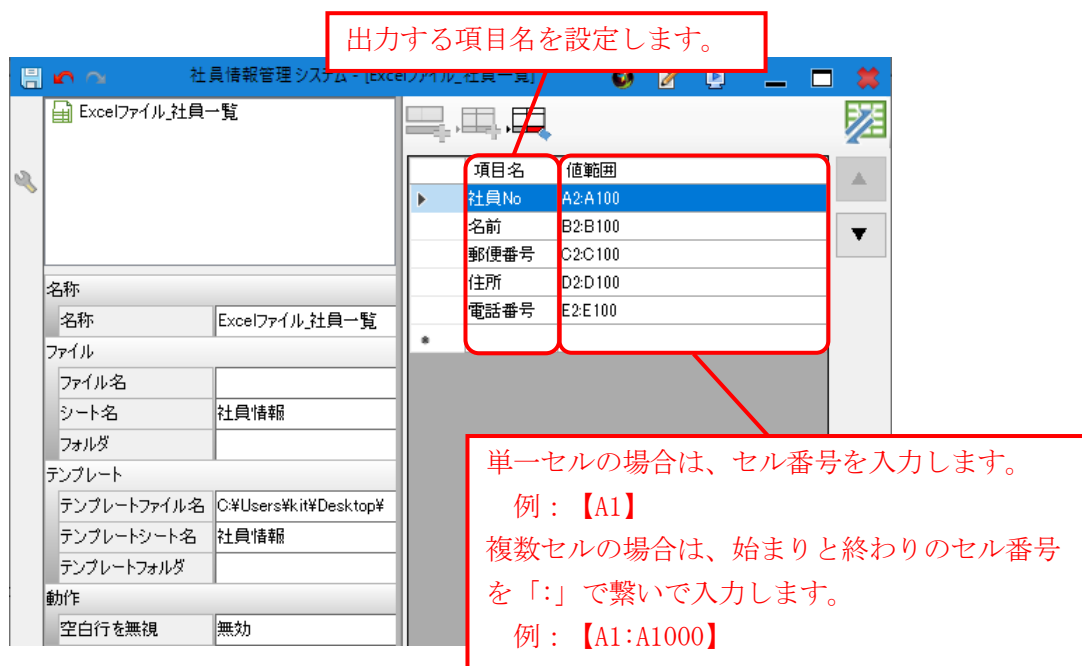
また、使用するテンプレートファイルの情報もプロパティから設定します。



1.3 セルの設定

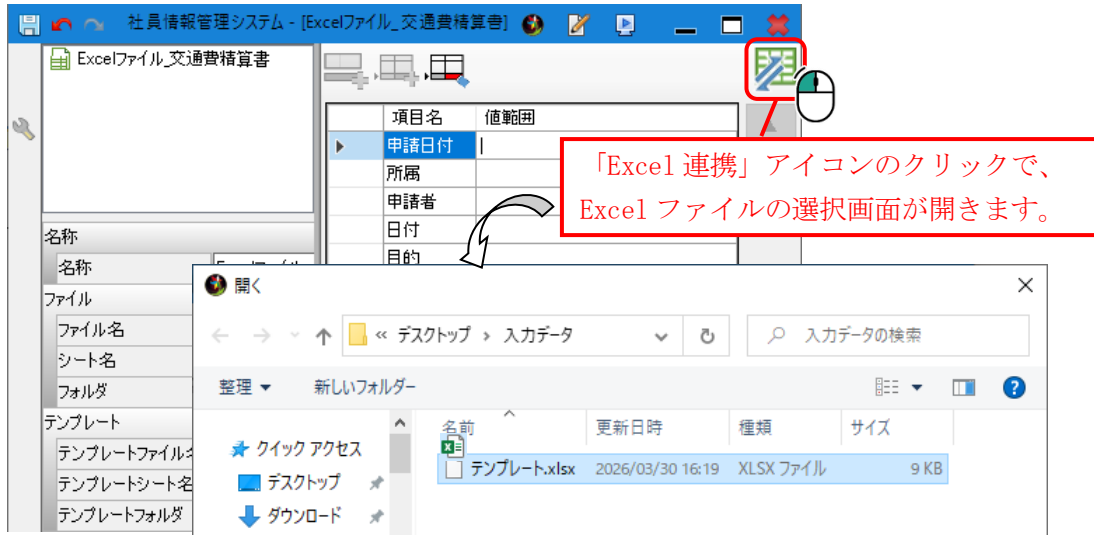
出力項目の設定は、Excel ファイルのオブジェクト編集画面で定義します。

テンプレートファイルに作成した項目名と同じ名称を「項目名」列に入力し、出力するセルの範囲を「値範囲」列に入力します。



見積書や請求書、申請書など複雑な形式のテンプレートにデータを入力する場合は、「Excel 連携」機能が役立ちます。

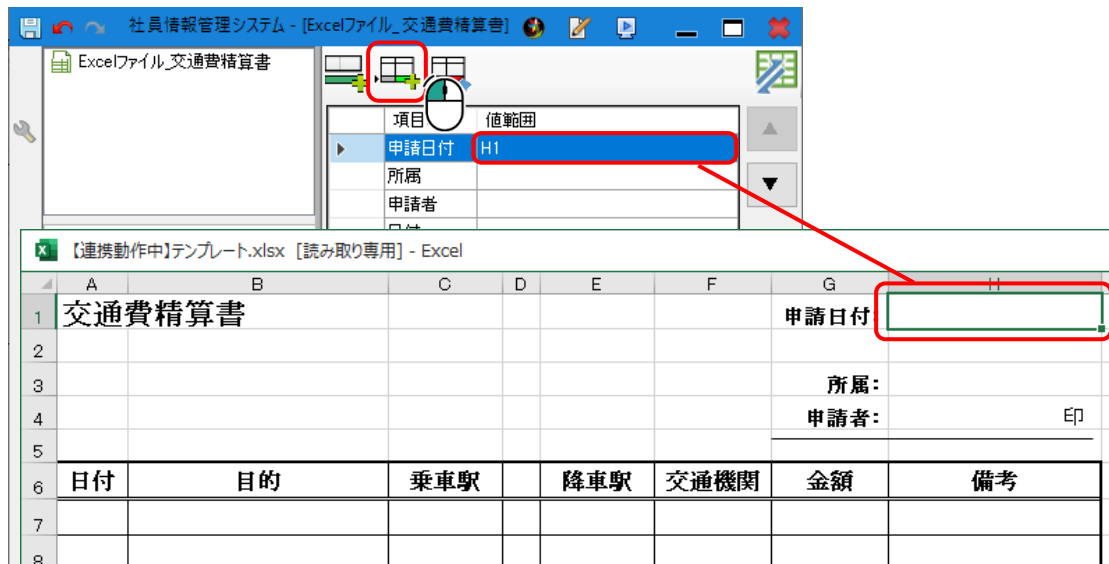
Excel ファイルを連携用に立ち上げ、選択したセル番号を「値範囲」列に書き込むことができます。



連携動作中の Excel ファイルからセルを選択すると、オブジェクト編集画面の「コピーした範囲を項目に追加」のアイコンが有効になり、クリックすると選択した項目の「値範囲」列にセル番号が入力されます。

「コピーした範囲を項目として追加」をクリックすると、項目リストに行が追加されます。

また、セル結合された領域を選択した場合は、先頭のセルが値範囲として入力されます。



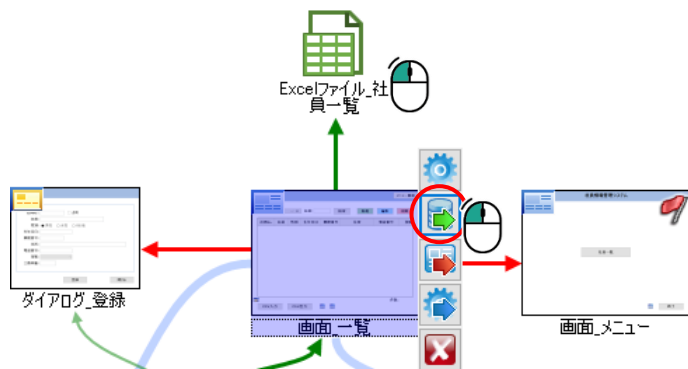
※ 「Excel 連携」機能を使用する場合は、Microsoft が提供する「Microsoft Excel」が必要です。

2 一覧画面と Excel ファイルを繋ぐ

出力するデータを Excel ファイルオブジェクトへ渡すための設定を行います。

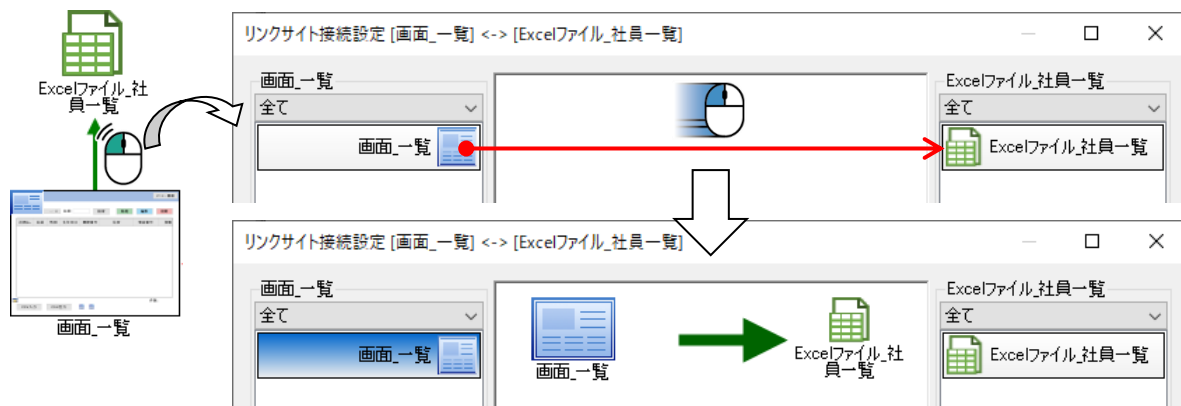
データをどこに出力するかは「データリンク設定」で設定し、出力の動作はボタンのクリックイベントにアクション設定します。

まずは、「データリンクコネクタ」で【画面_一覧】と【Excel ファイル_社員一覧】を接続します。

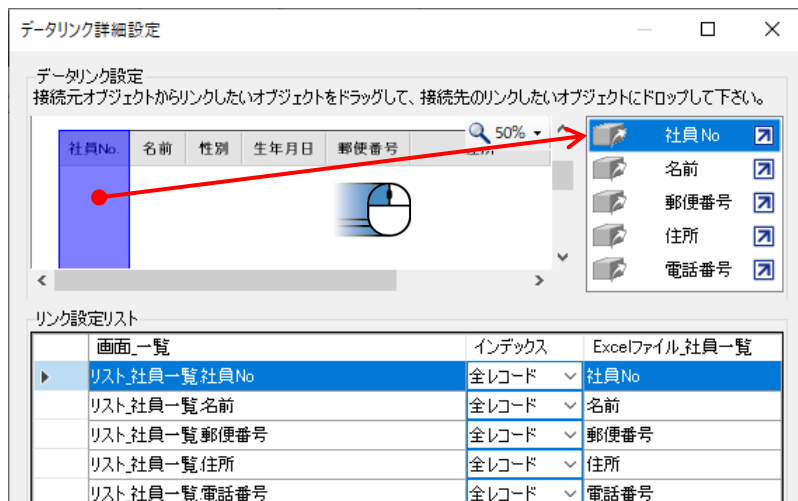


2.1 データリンク設定

【画面_一覧】から【Excel ファイル_社員一覧】に接続したデータリンクコネクタのリンクサイト接続設定画面を開き、【画面_一覧】から【Excel ファイル_社員一覧】にドラッグ&ドロップでコネクタを繋ぎます。



データリンク詳細設定画面を開き、リスト部品から項目名にリンクを設定します。



3 画面レイアウト

【画面_一覧】から Excel 出力が行えるように、画面レイアウトを行います。
出力を実行するボタン部品、出力ファイルを設定するファイル選択部品を配置します。

<レイアウト例>



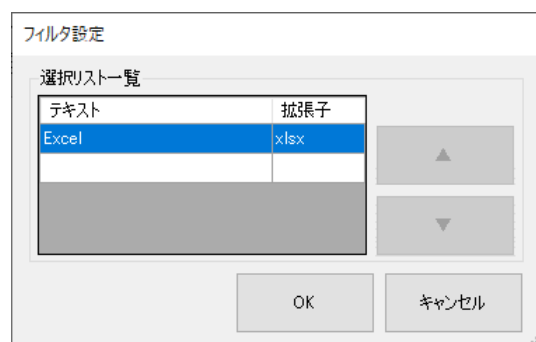
3.1 ファイル選択の設定

ファイル選択部品を Excel ファイルの出力用に設定を変更します。

選択タイププロパティから「保存」を選択し、フィルタプロパティに Excel の拡張子を入力します。

名称	
名称	ファイル選択_Excel出力
位置・サイズ	
位置	765, 695
X	765
Y	695
表示	
タイトル	
動作	
選択タイプ	保存
ファイルパス	
ファイル名	
フォルダ名	
フィルタ	Excel*.xlsx

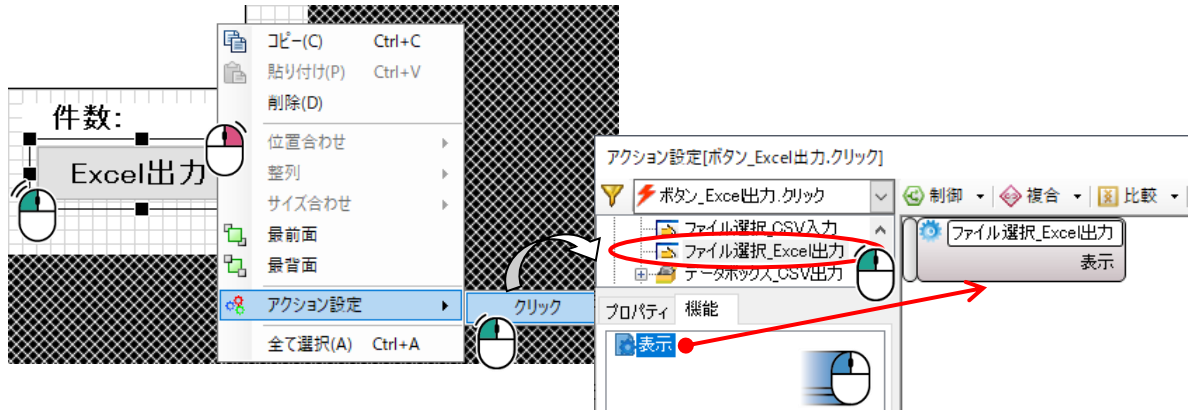
テキストに「Excel」、拡張子に「xlsx」（使用している Excel の拡張子）を入力します。



4 動作の設定

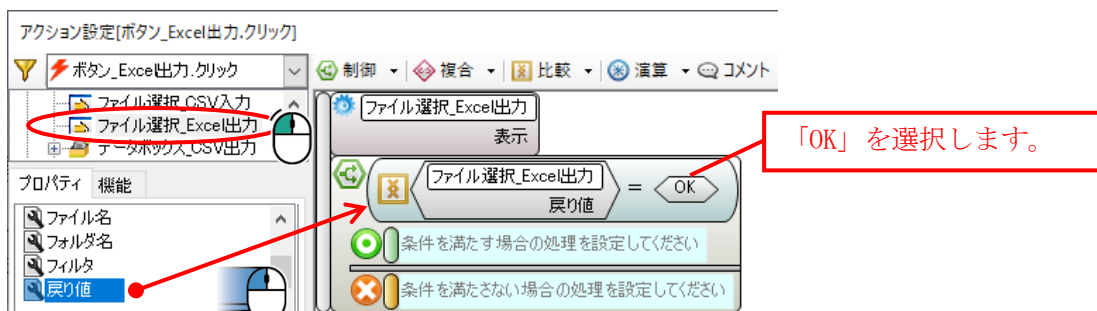
画面に表示したデータを Excel ファイルに出力する動作を「Excel 出力」ボタンのクリックイベントに設定します。

初めに、出力するファイル名をファイル選択部品から設定します。アクション設定画面を開き、【画面一覧】の【ファイル選択_Excel 出力】を選択し、機能から「表示」ブロックを配置します。



ファイル選択画面でユーザーが操作した結果を取得し、「開く」をクリックされた時のみファイル出力する動作を作成します。

「制御」から「分岐」ブロックを配置します。「分岐」の条件には【画面一覧】の【ファイル選択_Excel 出力】を選択し、プロパティから「戻り値」を配置します。

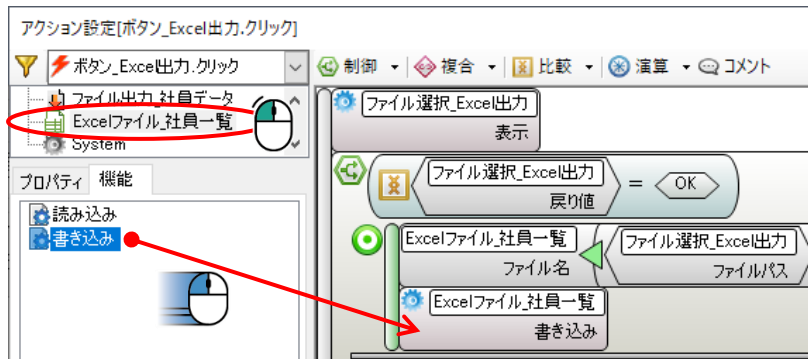


ファイル選択画面で選択した Excel ファイルのパスを【Excel ファイル_社員一覧】の「ファイル名」に代入することで、出力ファイルの設定ができます。

【Excel ファイル_社員一覧】のプロパティから「ファイル名」ブロックを配置します。【画面一覧】の【ファイル選択_Excel 入力】を選択し、プロパティから「ファイルパス」を代入します。

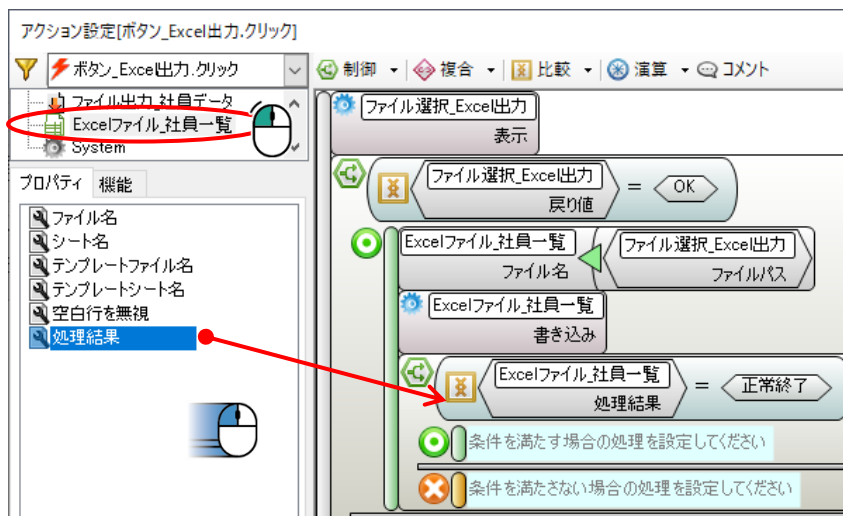


次に、【Excel ファイル_社員一覧】の機能から「書き込み」ブロックを配置します。



最後に、Excel ファイルの出力結果をユーザーに知らせるメッセージボックスを表示します。

「制御」から「分岐」ブロックを配置します。分岐の条件には【Excel ファイル_社員一覧】のプロパティから「処理結果」ブロックを配置します。



【画面_一覧】の「メッセージボックス」部品を選択し、プロパティから「テキスト」、機能から「表示」を分岐ブロックに配置して、メッセージ表示の処理を作成します。



5 動作確認

Excel ファイル出力の動作確認を行きましょう。

一覧画面を開き、リストに複数のデータが表示されていることを確認し、「Excel 出力」ボタンをクリックします。

社員情報一覧

メニュー画面

部署: [] × 名前: [] 検索 新規 編集 削除

社員No.	名前	性別	生年月日	郵便番号	住所	電話番号	
1	山田 太郎	男性	1975/01/01	000-0001	岐阜県岐阜市	058-000-0000	人
2	木村 花子	女性	1968/02/02	000-2222	愛知県豊田市	080-000-0000	人
3	佐藤 大輔	男性	1970/03/03	000-0003	愛知県豊田市	0565-00-0000	経
4	鈴木 春奈			000-0004	岐阜県関市	0575-00-0000	
5	田中 信二			000-0005	愛知県知立市	0566-00-0000	
6	木村 孝也			000-0006	愛知県豊田市	0596-00-0000	
7	永井 真伍			000-0007	岐阜県関市	0575-00-0000	
8	岸 徹			000-0008	愛知県知立市	0566-00-0000	
9	小泉 奈穂美			000-0009	愛知県豊田市	090-0000-0000	
10	柏木 秀樹			000-0010	愛知県小牧市	0565-00-0000	

件数: 40

CSV入力 CSV出力 Excel出力

ファイル選択画面が表示されます。

ファイル名を入力し、[保存(S)]をクリックします。

社員情報一覧

メニュー画面

部署: [] × 名前: [] 検索 新規 編集 削除

社員No.	名前	性別	生年月日	郵便番号	住所	電話番号	
1	山田 太郎	男性	1975/01/01	000-0001	岐阜県岐阜市	058-000-0000	人
2	木村 花子	女性	1968/02/02	000-2222	愛知県豊田市	080-000-0000	人
3	佐藤 大輔	男性	1970/03/03	000-0003	愛知県豊田市	0565-00-0000	経
4	鈴木 春奈			000-0004	岐阜県関市	0575-00-0000	
5	田中 信二			000-0005	愛知県知立市	0566-00-0000	
6	木村 孝也			000-0006	愛知県豊田市	0596-00-0000	
7	永井 真伍			000-0007	岐阜県関市	0575-00-0000	
8	岸 徹			000-0008	愛知県知立市	0566-00-0000	
9	小泉 奈穂美			000-0009	愛知県豊田市	090-0000-0000	
10	柏木 秀樹			000-0010	愛知県小牧市	0565-00-0000	

件数: 40

CSV入力 CSV出力 Excel出力

正常終了した場合のメッセージボックスが表示され、ファイル選択で選択したフォルダに Excel ファイルが出力されます。

社員情報一覧

部署: [] × 名前: [] 検索 新規 編集 削除

社員No.	名前	性別	生年月日	郵便番号	住所	電話番号
1	山田 太郎	男性	1975/01/01	000-0001	岐阜県岐阜市	058-000-0000
2	木村 花子	女性	1968/02/02	000-2222	愛知県豊田市	080-000-0000
3	佐藤 大輔	男性	1970/03/03	000-0003	愛知県豊田市	0565-00-0000
4	鈴木 春奈			000-0004	岐阜県関市	0575-00-0000
5	田中 信二			000-0005	愛知県知立市	0566-00-0000
6	木村 孝也			000-0006	愛知県豊田市	0596-00-0000
7	永井 真伍			000-0007	岐阜県関市	0575-00-0000
8	岸 徹			000-0008	愛知県知立市	0566-00-0000
9	小泉 奈穂美			000-0009	愛知県豊田市	090-0000-0000
10	柏木 秀樹			000-0010	愛知県小牧市	0565-00-0000

件数: 40

CSV入力 CSV出力 Excel出力

バックアップされません 出力データ

バックアップツール

出力データ

社員一覧.xlsx 2026/04/03 22:10 Microsoft Excel ワークシート 10 KB

データが正しく出力されていることを確認します。

社員No.	名前	郵便番号	住所	電話番号
1	山田 太郎	000-0001	岐阜県岐阜市	058-000-0000
2	木村 花子	000-2222	愛知県豊田市	080-000-0000
3	佐藤 大輔	000-0003	愛知県豊田市	0565-00-0000
4	鈴木 春奈	000-0004	岐阜県関市	0575-00-0000
5	田中 信二	000-0005	愛知県知立市	0566-00-0000

エラーメッセージの確認をします。

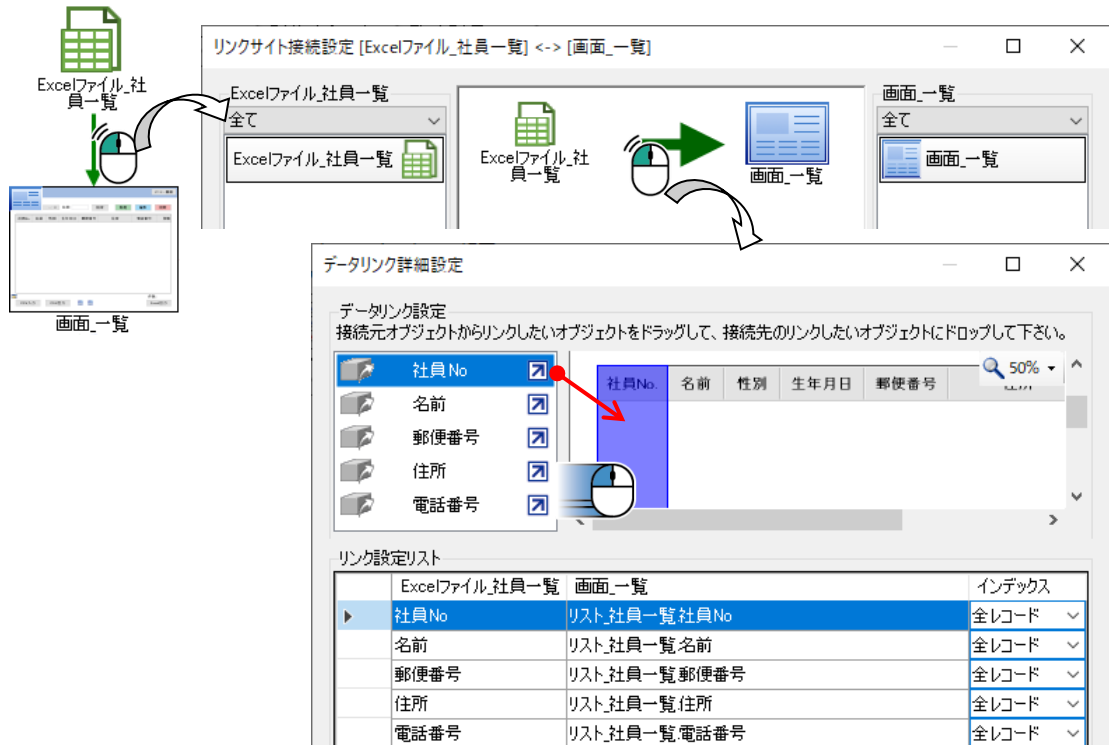
出力した Excel ファイルが開いた状態で上書きするなど、エラーが出る状態にして出力を行うと、正常終了しなかった場合のメッセージボックスが表示されます。

出力に失敗しました。

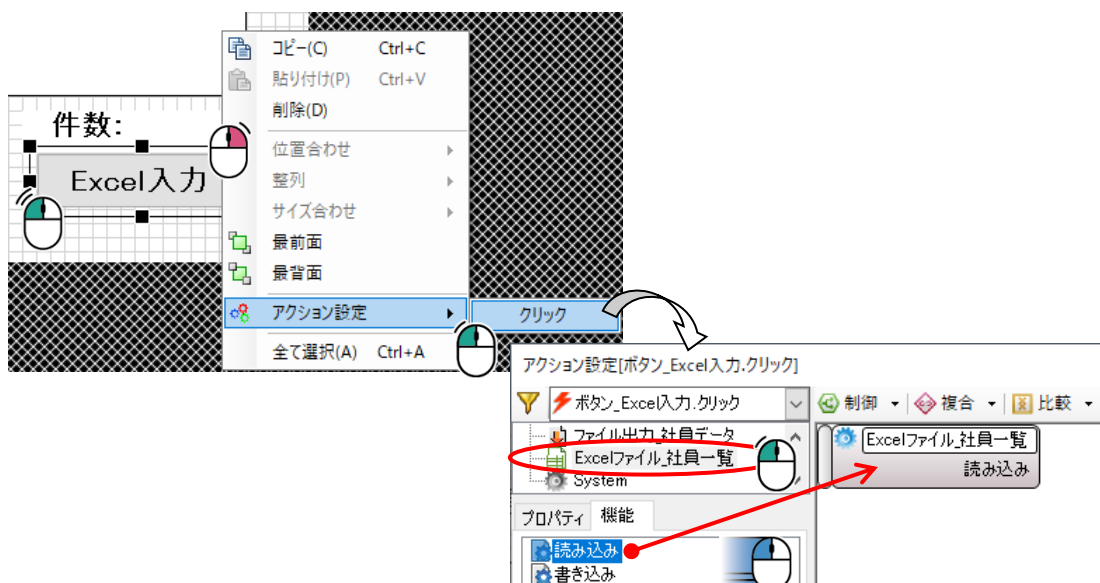
OK

Excel ファイルのデータを RADEN に読み込む場合は、データリンクを Excel ファイルオブジェクトから入力先のオブジェクトに接続し、アクション設定で Excel ファイルの「読み込み」を実行します。

<データリンク>



<アクション設定>



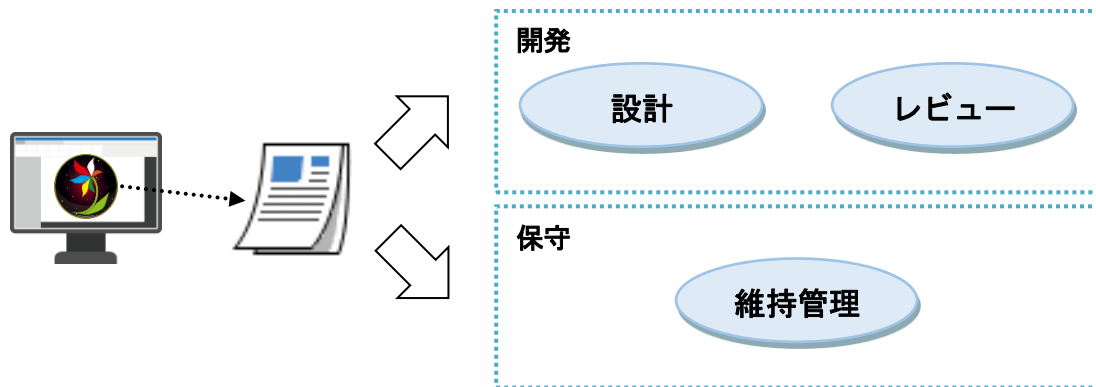
※読み込みを行う Excel ファイルのセルに関数が設定されていると、読み込みに時間がかかる恐れがあります。計算結果を別のセルにコピーするなど、関数の入ったセルを値範囲に設定しないようしてください。

第7章 ドキュメントの作成

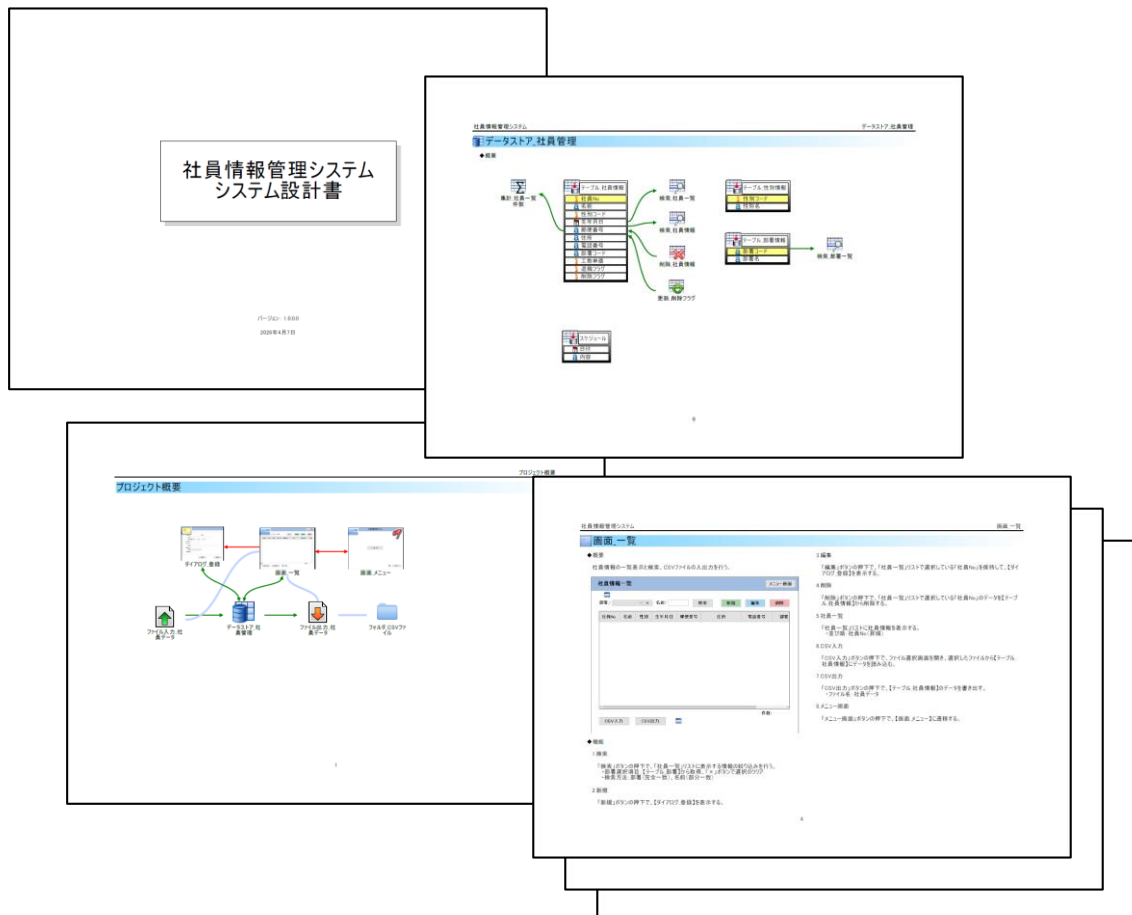
RADEN デザイナーには、開発するアプリケーションの設計内容をドキュメントとして入力/出力する機能があります。

本章では、RADEN のドキュメント機能の使い方について説明します。


ドキュメント機能は、設計内容をドキュメントとして入力し、設計書として印刷する機能です。入力したドキュメントは、オブジェクト関連図や画面レイアウトと共に出力できるため、開発時の設計やレビューを行う場合に役立ちます。更に、維持管理などでドキュメントが必要な場合いつでも印刷できます。

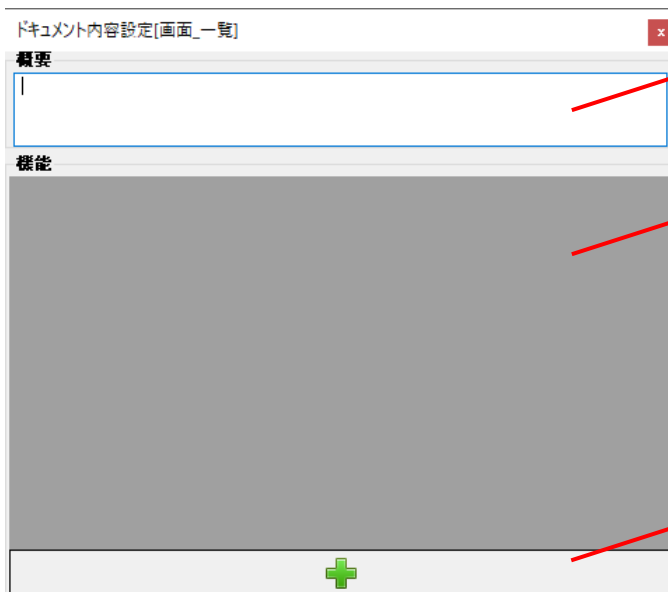


<ドキュメント印刷例>



1 ドキュメント内容設定

RADEN デザイナーのタイトルバーの  ボタンをクリックすると、ドキュメント内容設定画面が表示されます。

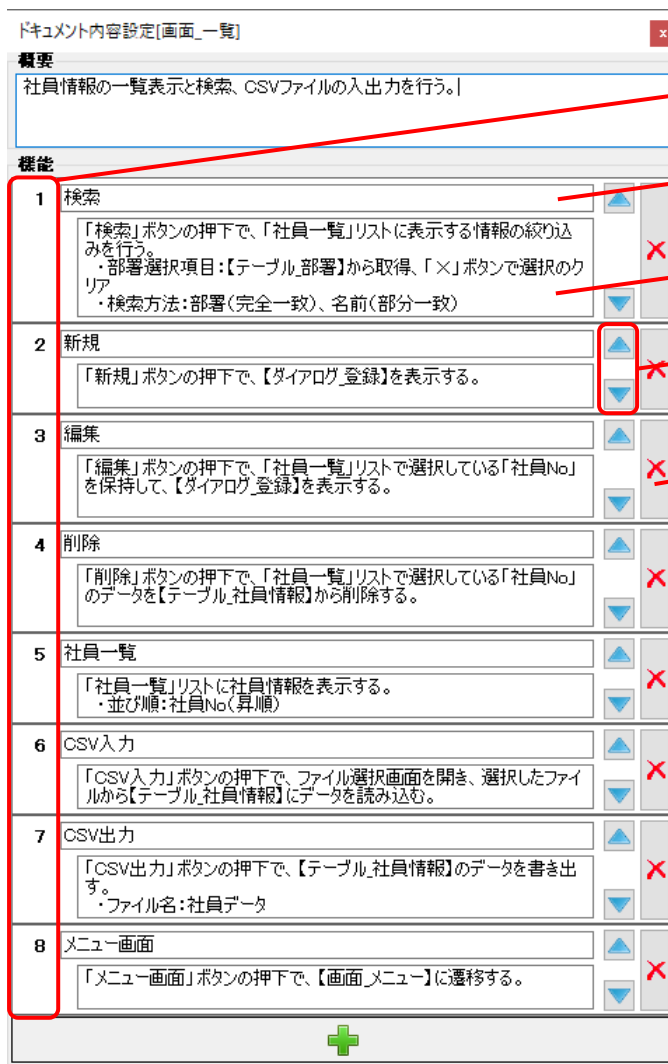


概要を入力する
テキストボックスです。

機能の項目を入力する
エリアです。

項目追加ボタンです。
クリックし、機能の入力項目
を追加します。

<ドキュメント入力例>



自動で採番されます。

機能タイトルを入力します。

機能内容を入力します。


項目を上下に移動します。

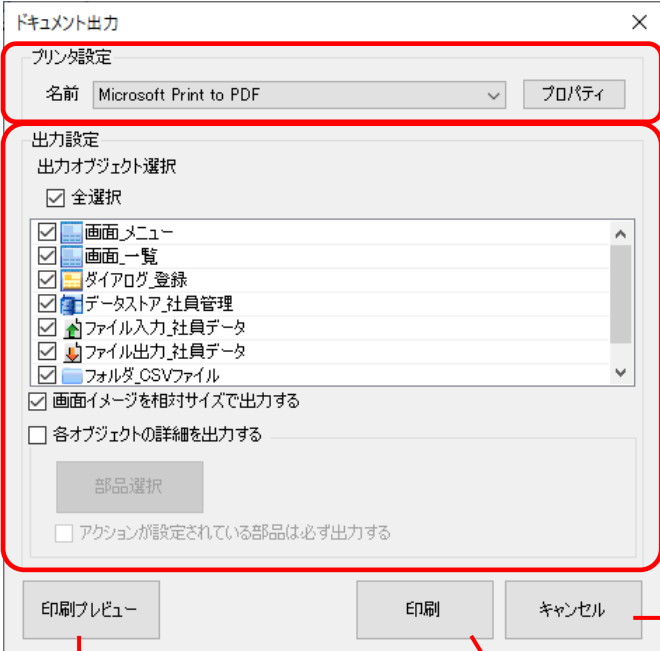
項目を削除します。

オブジェクト未選択の状態
で、プロジェクト全体のドク
ュメントを入力できます。

2 ドキュメント出力

ドキュメントの印刷は、ドキュメント出力画面から行います。

オブジェクト関連図画面のタイトルバーの  ボタンをクリックするとドキュメント出力画面が表示されます。または、メインメニューの[ツール(T)]-[ドキュメント出力]を選択した場合も表示されます。



名前リストから出力先を選択し、「プロパティ」ボタンで詳細設定を行います。

出力オブジェクトや出力の詳細内容を設定します。オブジェクトの出力内容を部品単位で選択できます。

出力をキャンセルし、画面を閉じます

印刷プレビューを表示します。

印刷を開始します。

プロジェクト全体のドキュメント出力は、表紙やオブジェクト関連図が付加され、表紙以外のページに1からの通し番号が入ります。オブジェクトを個別に印刷したい場合、オブジェクトの右クリックから[ドキュメント出力]で出力できます。



以上で『RADENを使おう！ 実践編 Part1』は終了です。お疲れ様でした。
引き続き、『RADENを使おう！ 実践編 Part2』に取り組んでください。

RADEN を使おう！

実践編 Part1

2026年 5月14日 第1版

発行

株式会社 KIT

〒460-0026

愛知県名古屋市中区伊勢山2丁目11-15 ASビル金山

Copyright (c) 2026 KIT Co.,Ltd. All Rights Reserved.